一方、重複関係にある竪穴式住居跡の時間的関係は、SC-13→SC-14→SC-21→SC-15（古→新の先後関係をあらわす）、SC-16→SC-21、SC-18→SC-22→SC-17→SC-37、SC-22→SK-23、SC-30→SC-28である。この中で、埋土と貼り床部から出土した須恵器坏身を比較することで、営まれた時期を推定できる竪穴式住居跡はSC-14・18・30である。

まず、SC-14では、小片で口径がやや小さく復元されているが、坏身B（Fig. 64-9）が貼り床部から出土している。これに対して、住居廃絶後に埋土に流入した土師器甕（Fig. 64-8）は、SC-25埋土から坏身A・Bと一緒にみられる甕（Fig. 85-11）と同型式である。したがって、SC-14が営まれた時期を坏身B の段階に比定できる。SC-14を切るSC-21では、埋土出土の坏蓋（Fig. 79-1）は、口径が12.8㎝で、坏身Bもしくは C に伴う。また、上部Ⅲ層でも中～下層部分から出土している坏身B（Fig. 79-5）・C（Fig. 79-6）は本来SC-21埋土の遺物である可能性が高い。さらに、SC-21を切るSC-15では、埋土から坏身B（Fig. 65-2）、上部Ⅲ層でも中層部分から坏身Cもしくは D（Fig. 67-5）がみられる。切り合い関係も含めて、SC-21は坏身C、SC-15は坏身Dの段階と考えることができる。

SC-18では、貼り床部からは坏身B（Fig. 78-1）が出土している。埋土から出土した坏身には C（Fig. 77-4～7）や D（Fig. 77-10）がある。SC-18は、上限が坏身B以降、下限が坏身D以前ということになり、坏身Cの段階に営まれたと判断できる。そして、SC-18を切るSC-22では坏身D（Fig. 82-1）、SC-22を切るSC-17では坏身B（Fig. 73-2）・D（Fig. 73-1）とともに E（Fig. 73-4）が埋土中から出土している。いずれも住居廃絶後に流入した遺物であり、切り合い関係を考え合わせて、SC-22は坏身D、SC-17は坏身Eの段階の住居跡と考える。また、SC-17を切るSC-37では貼り床部から坏身D（Fig. 102-8）が出土しているが、切り合い関係と、坏身Eよりも新しい古墳時代遺物が今次調査区で出土していないことから、SC-37も坏身E段階の時間幅の中で捉えることができる。

SC-30では、貼り床部から出土した坏蓋（Fig. 98-1）は、口径が15.8㎝で坏身A、埋土の坏蓋（Fig. 96-1・2）は口径12.3㎝と13.5㎝で坏身C・Dに伴うと考えてよい。そこで、SC-30の坏身A段階の住居と考えた。さらに、SC-30を切るSC-28では、上部Ⅲ層でも下層部分から坏身B・C（Fig. 94-3・6・8）が出土しているが、本来はSC-28埋土に含まれた遺物であり、住居廃絶後に流入した遺物と考えられる。そうであれば、切り合い関係を含めて、SC-28は坏身B段階に比定できる。

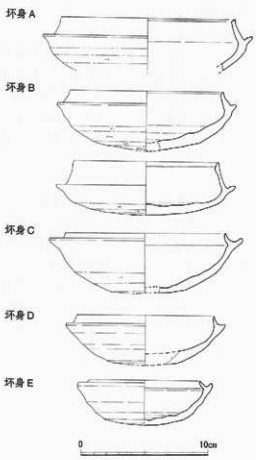

Fig. 159　13次調査出土の坏身の分類（縮尺1/3）

以上の検討で同時期と考えられるSC-14とSC-28、またSC-15とSC-22は、長軸方向がほぼ一致する。計画的で規則的な配置がうかがえる。これを根拠に、柱列や軸方向が揃う遺構は同時期に営まれたと考え、これまで述べてきた切り合い関係を基準として、一時点で共存する遺構群を抽出できる（Fig. 160）。

（2）焼土・炭化物の集積の性格と鍛冶炉の時期推定

さて、今回の調査で出土した焼土・炭化物の集積である12基の性格不明の遺構の中で、出土状況からSX-63はSC-33、SX-66はSC-30、SX-67はSC-25、SX-

68・69はSC-28、SX-70はSC-21、SX-71・72はSC-16が廃絶した後の埋没過程で流入したり投棄されたものと判断できる。その中で、SX-66では、水洗選別の結果、コナラ属・マツ属・サクラ属などの炭化材とともにオオムギの炭化種子が出土している。SX-67ではシイ科の炭化材とタイ科の遊離歯、SX-68ではマダイの歯骨・椎骨と炭化米、SX-69では炭化米とコナラ属・サクラ属の炭化材が出土した。植物遺体や動物遺体があることから言えば、調理したり食物残滓をゴミとして捨いたものが投棄された焼土と炭化物の集積と考えられる。

ただし、SX-66には比較的大きな塊形滓の破片が伴う。また、SX-70でも鉄滓の小片が出土している。そのため、これらの焼土と炭化物の集積は食物残滓とだけ関連させて考える訳にはいかない。一方、SC-25・28・30の埋土からも鉄滓が出土している。これらも住居跡の埋没過程で混入した遺物である。SC-18上部Ⅲ層から出土した鉄滓も同様に考えられる。以上の遺構は、いずれも坏身A～Cの段階に比定できる。さらに、SK-36で上部Ⅱ層中層部から鞴羽口が出土しているが、SK-36も坏身A段階の遺構と考えられる。坏身D段階以降の遺構に確実に伴う鉄滓や鞴羽口はない。

一方、鍛冶炉と考えたSF-41の時期は、報告の中でも指摘したように、出土状況からは弥生時代後期～古代末の時間幅の中でしか把握できない。しかし、前述したように、鉄滓や鞴羽口が伴う時期から考えると、古墳時代後期でも坏身A～Cの段階の時間幅の中に絞り込むことができる。当該期の集落の変遷過程の中でも前半期に、鍛冶を行い鉄器が生産されたことを指摘できる。

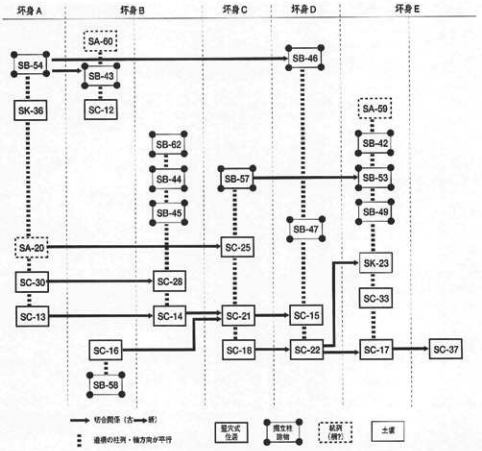

Fig. 160　13次調査出土遺構の時間的関係と分期

［註］

1．後藤直2004『東アジア先史時代における生業の地域間比較』（平成12～15年度科学研究費補助金基盤研究（B）（2）研究成果報告書）東京大学大学院人文社会系研究科考古学研究室
2．田崎博之2004『土器焼成・石器製作残滓からみた弥生時代の分業と集団間交流システムの実証的研究』（平成12～15年度科学研究費補助金基盤研究（C）（2）研究成果報告書）愛媛大学法文学部
3．田辺昭三1981『須恵器大成』角川書店
4．中村浩2001『和泉陶邑窯出土須恵器の型式編年』芙蓉書房出版

巻末表1　文京遺跡13次調査出土遺構一覧

遺構 略号	遺構 番号	調査区	平面形状・規模・切合関係	埋土	出土遺物	時期
SK	1	DG-18	長径78cm、短径52cmの不整な隅丸長方形の土壙。壁面は火熱を受けて赤変。本文記載。	B	本文記載。	古墳後期
SD	2	DC・DD-13	SD-3に切られる溝。本文記載。		本文記載。	古代末～中世
SD	3	CX～DG-11・12	調査区の南半部を東西に流れる複数の溝の集合。本文記載。		本文記載。	古代末～中世
SC	4	DF・DG-21	東西残存長2.22m、南北残存幅1.22mの小型の竪穴式住居跡。本文記載。	A	本文記載。	弥生中期後葉～後期
SC	5	DG-20・21	方形または長方形の竪穴式住居跡。SP-104を切り、SK-9に切られる。本文記載。	A	本文記載。	弥生後期
SC	6	DF-19・20	SP-110・115を柱穴とする径5m弱の胴張りが強い方形または隅丸方形の竪穴式住居跡。中央に位置するSK-96も伴うものと考えられる。本文記載。	A	本文記載。	弥生中期後葉
SC	7	DG-18	SP-357を柱穴の一つとする東西長5～5.5mの楕円形もしくは隅丸方形の竪穴式住居跡。本文記載。	A	本文記載。	弥生中期後葉～後期
SC	8	DG-12～14	SP-129・130・133を主柱穴とする直径約6.5mの円形の竪穴式住居跡。SK-136は炉跡。本文記載。	A	本文記載。	弥生後期
SK	9	DF・DG-20	長さ192cm、幅88cmの不整な長楕円形の土壙。SC-5を切る。本文記載。	B	本文記載。	古墳後期
SC	10	DF-12・13	隅丸方形の竪穴式住居跡であるが、規模は不明。本文記載。	A	本文記載。	古墳中期
SC	11	DF-12・13	胴張りが強い方形もしくは円形の竪穴式住居跡。SC-10に切られる。本文記載。	A	本文記載。	弥生中期後葉
SC	12	DF-15	部分的に確認。隅丸方形である可能性が高い。SK-75に切られる。本文記載。	B	本文記載。	古墳後期
SC	13	DD-13・14	隅丸方形と考えられる竪穴式住居跡。本文記載。	B	本文記載。	古墳後期
SC	14	DD-14・15	SC-15の下層で確認した南北幅4.55m、東西残存長3mを測る隅丸方形の竪穴式住居跡。SP-483・484のいずれかが柱穴。SC-13を切る。本文記載。	B	本文記載。	古墳後期
SC	15	DD-14・15	SP-190・191を東側の主柱穴とする隅丸長方形の竪穴式住居跡。南北幅3.15m、東西長は最低4m前後か？　SK-99が伴う。SC-14・21を切る。本文記載。	B	本文記載。	古墳後期
SC	16	DC・DD-14・15	SP-512・513を主柱穴とする隅丸方形の竪穴式住居跡。推定東西幅2.7m前後、南北長3.1m。SC-21に切られる。本文記載。	B	本文記載。	古墳後期
SC	17	DC・DD-15	一辺4.5～5mの隅丸方形の竪穴式住居跡。SC-37、SP-510・583に切られ、SC-18・22を切る。本文記載。	B	本文記載。	古墳後期
SC	18	DB・DC-14・15	SP-587・588を柱穴とする東西幅6mの胴張りが強い隅丸方形の竪穴式住居跡。SC-17・22、SK-23、SP-255に切られ、SK-26を切る。本文記載。	B	本文記載。	古墳後期
SK	19	DA-11	SD-3を切り込んで掘られた不整円形の土壙。本文記載。		本文記載。	近世以降
SA	20	DB-14	SP-235・237・545・568・546・556から構成される柱列（柵）。本文記載。	B	本文記載。	古墳後期
SC	21	DC・DD-14・15	SP-187～189を主柱穴とする隅丸長方形の竪穴式住居跡。南北幅は3.53m。SC-15に切られ、SC-16を切る。	B	本文記載。	古墳後期
SC	22	DB・DC-14・15	SP-507・586を主柱穴とする長方形の竪穴式住居跡。長辺約4.3m、短辺3.3～3.4m。SK-23・SP-254・461に切られる。本文記載。	B	本文記載。	古墳後期
SK	23	DB-15	東西幅2.17mの隅丸方形の土壙。SK-26を切り、SP-255・461に切られる。本文記載。	B	本文記載。	古墳後期
SK	24	DB-15	幅が80cmほどの細長い楕円形の土壙。SC-22、SK-23、SP-256に切られ、SC-18を切る。本文記載。	B	本文記載。	古墳後期
SC	25	DA・DB-13・14	SP-249～252を主柱穴とする方形の竪穴式住居跡。南北長5.06m、東西幅4.92m。北壁中央に造付けの竈、南壁沿いで出入り口施設と考えられるSK-503が出土。SC-27を切る。本文記載。	B	本文記載。	古墳後期
SK	26	DB-14・15	幅80cmほどの楕円形の土壙。SC-22、SK-23、SP-255に切られ、SC-18を切る。	B	本文記載。	古墳後期
SC	27	DA・DB-13・14	SP-304・580を柱穴とする不整な長円形の竪穴式住居跡。東西径3.3m、南北径2.8m前後。SC-25、SP-590に切られる。本文記載。	A	本文記載。	弥生後期
SC	28	CZ・DA-12・13	SP-264・322を主柱穴とする隅丸長方形の竪穴式住居跡。長軸長5.64m、短軸長4.54m。SC-30を切る。床面中央に位置するSK-262も伴うと考えられる。本文記載。	B	本文記載。	古墳後期
SK	29	DA-12	残存長0.95m、幅1.65mの長方形の土壙。SD-3とSP-495に切られる。本文記載。	A	本文記載。	弥生後期
SC	30	CZ・DA-12・13	SP-532・610・611を柱穴とする隅丸方形の竪穴式住居跡。東西幅4.6m。SC-28、SP-575・576、SD-3に切られる。本文記載。	B	本文記載。	古墳後期
SK	31	CZ・DA-14・15	径が3.5～3.6mの楕円形の土壙。SC-33、SK-32・39、SP-502に切られる。本文記載。	A	本文記載。	弥生中期後葉～後期
SK	32	CZ・DA-15	東西幅2.2～2.3mの隅丸方形の土壙。SC-31・33を切り、SP-520に切られる。本文記載。	B	本文記載。	古墳後期
SC	33	CZ・DA-14・15	SP-499を主柱穴の一つとするやや胴張りの隅丸方形の竪穴式住居跡。SK-32、SP-409・500に切られ、SK-31・39を切る。本文記載。	B	本文記載。	古墳後期
SC	34	CZ-12・13	長径5.3mの長円形の竪穴式住居跡。SP-344・386・574を柱穴とする。SC-28・30に切られ、SC-35を切る。本文記載。	A	本文記載。	弥生後期
SC	35	CY・CZ-12・13	長軸長4.9m、短軸長4.33mの不整な楕円形の竪穴式住居跡。SP-347・350・351・353を柱穴とする。SC-34に切られる。本文記載。	A	本文記載。	弥生後期
SK	36	CY-13・14、CZ-14	長さ3.63m、幅1.78～1.94mの隅丸長方形の土壙。SP-340・473・474・519・520に切られ、SP-471・559を切る。本文記載。	B	本文記載。	古墳後期
SC	37	DC・DD-15	一辺4.5～5mほどのやや胴張りの方形住居跡。SP-510に切られる。本文記載。	B	本文記載。	古墳後期
SC	38	CX・CY-12・13	SP-440を柱穴の一つとする長方形の竪穴式住居跡。SC-35に切られる。本文記載。	A	本文記載。	弥生中期後葉
SK	39	CZ・DA-14	残存長1.33m、幅1.8mの隅丸長方形の土壙。SC-33、SK-31、SP-409・500に切られ、SK-31を切る。本文記載。	A	本文記載。	弥生中期後葉
SC	40	DF-11	方形もしくは長方形の竪穴式住居跡。本文記載。	A	本文記載。	弥生後期
SF	41	DF-11・12	SD-3下面、SC-40上面で出土した鍛冶炉。本文記載。		本文記載。	古墳後期
SB	42	CY-15	SP-432・446で構成される掘立柱建物。本文記載。	B	本文記載。	古墳後期
SB	43	YC・CZ-14・15	SP-334・335・474で構成される掘立柱建物。SP-474はSK-36を切る。本文記載。	B	本文記載。	古墳後期
SB	44	CX-13	SP-458・467で構成される掘立柱建物。本文記載。	B	本文記載。	古墳後期
SB	45	CY-12	SP-434・435で構成される掘立柱建物。本文記載。	B	本文記載。	古墳後期
SB	46	CX・CZ-13・14	SP-338・404・412・473で構成される掘立柱建物。SP-412・473はSC-35を切り、SP-473はSK-36も切る。本文記載。	B	本文記載。	古墳後期
SB	47	DB・DC-12・13	SP-224・225・285・290・567で構成される掘立柱建物。本文記載。	B	本文記載。	古墳後期
SX	48	DF・DG-18・19	Ⅲ層中位～下部で出土した比較的大型の破片を含む土器溜り。本文記載。		本文記載。	弥生中期後葉～後期
SB	49	CX-14・15	SP-428・430で構成される掘立柱建物。本文記載。	B	本文記載。	古墳後期
SK	50	CZ-11・12	一辺2m前後の隅丸方形の土壙。SD-3の底面で検出。本文記載。	A	本文記載。	弥生後期
SB	51	DF-23	SP-395・399から構成される掘立柱建物。本文記載。	A	本文記載。	弥生中期後葉～後期

遺構 略号	遺構 番号	調査区	平面形状・規模・切合関係	覆土	出土遺物	時期
SB	52	DF-13・14	SP-151・176・177で構成される掘立柱建物。本文記載。	B	本文記載。	古墳後期
SB	53	DG-14・15	SP-124・125・127で構成される掘立柱建物。SP-127はSB-57の柱穴であるSP-144を切る。本文記載。	B	本文記載。	古墳後期
SB	54	CX-13・14	SP-423・455で構成される掘立柱建物。SP-423はSK-85を切る。本文記載。	B	本文記載。	古墳後期
	55	欠番				
SK	56	DG-12	比較的大型の円形土壙。SC-8に切られる。本文記載。	A	本文記載。	弥生中期後葉
SB	57	DG-14・15	SP-116・144で構成される掘立柱建物。SP-144はSB-53の柱穴SP-127に切られる。本文記載。	B	本文記載。	古墳後期
SB	58	DG-14・15	SP-121・142で構成される掘立柱建物。本文記載。	B	本文記載。	古墳後期
SA	59	CY-14	SP-431・315・314・447から構成される柱列（柵）。本文記載。	B	本文記載。	古墳後期
SA	60	CY-14・CX-15	SP-318・327・328から構成される柱列（柵）。本文記載。	B	本文記載。	古墳後期
SX	61	CX-14	Ⅲ層上半部で出土した焼土の集積。本文記載。		本文記載。	古墳後期
SB	62	CZ・DA-13・14	SP-298・299・387・418で構成される掘立柱建物。SP-298はSP-297、SP-299はSK-89、SP-387はSC-34を切る。本文記載。	B	本文記載。	古墳後期
SX	63	CZ-14・15	Ⅳ層上面でSC-33検出時に確認。長さ80cm、幅40cmの不整形の範囲に広がる焼土の集積。本文記載。		本文記載。	古墳後期
SX	64	CY-13	SC-35北半部のⅢ層上半で出土した焼土の集積。本文記載。		本文記載。	古墳後期
SX	65	CY-13	SC-35中央部のⅢ層上面で出土した焼土の集積。本文記載。		本文記載。	古墳後期
SX	66	DA-12	SC-30の覆土中で確認された焼土・炭化物・灰の集積。本文記載。		本文記載。	古墳後期
SX	67	DB-13	SC-25上部のⅢ層中部で確認された焼土と炭化物の集積。本文記載。		本文記載。	古墳後期
SX	68	CZ・DA-12・13	SC-28南東部上面のⅢ層部分で検出した焼土混じりの炭化物の集積。本文記載。		本文記載。	古墳後期
SX	69	CZ-13	SC-28北東部上面のⅢ層部分で検出した焼土と炭化物の集積。本文記載。		本文記載。	古墳後期
SX	70	DD-14	SC-21の検出面と覆土中で確認できた焼土・炭化物片の集積。本文記載。		本文記載。	古墳後期
SX	71	DC-14・15	SC-16上面のⅢ層を掘り下げ中に確認した焼土の集積。本文記載。		本文記載。	古墳後期
SX	72	DD-14	SC-16検出時に確認した薄い焼土の集積。本文記載。		本文記載。	古墳後期
SX	73	DG-16	Ⅲ層中部で径1×1.4mの範囲に広がる土器溜り。本文記載。		本文記載。	弥生中期後葉～後期
SX	74	DC-14	SC-16南部のⅢ層掘り下げ中に検出した焼土の集積。本文記載。		本文記載。	古墳後期
SK	75	DF-15	不整な楕円形の小型土壙。SC-12に切られる。本文記載。旧SK-163。	A	本文記載。	弥生中期～古墳中期
SK	76	DF-14	残存長90cm、幅54cmのやや胴が張る長方形の小型土壙。SP-169に切られる。本文記載。旧SK-170。	A	本文記載。	弥生中期後葉
SK	77	DF-14	楕円形と考えられる小型土壙。本文記載。旧SK-174。	B	本文記載。	古墳後期
SK	78	DF-13・14	小型土壙。本文記載。旧SK-175。	B	本文記載。	古墳後期
SK	79	DC-14	長さ72cmの隅丸長方形の浅い皿状の小型土壙。本文記載。旧SK-222。	A	本文記載。	弥生中期～古墳中期
SK	80	CZ-14	東西長122cm、南北幅75cmの不整な隅丸長方形の土壙。SP-336に切られる。本文記載。旧SK-337。	A	本文記載。	弥生中期後葉
SK	81	CY-13	長さ90cm、最大幅60cmの不整形の土壙。SC-35を切る。本文記載。旧SP-348・349。	A	本文記載。	古墳中期
SK	82	DF・DG-18	長辺1.7m、短辺1.5m前後の長方形土壙。本文記載。旧SK-355。	B	本文記載。	古墳後期
SK	83	DG-17・18	擂鉢状の小型土壙。本文記載。旧SK-364。	A	本文記載。	弥生中期～古墳中期
SK	84	DG-18	幅50cmほどの東西に長い隅丸長方形の小型土壙。本文記載。旧SK-366。	A	本文記載。	弥生中期～後期
SK	85	CX・CY-14	推定径1.05～1.1mの円形の土壙。SD-95とSB-54柱穴のSP-423に切られる。本文記載。旧SK-422。	A	本文記載。	弥生
SK	86	CY-14・15	長さ73cm、幅55cmの胴張りの隅丸長方形の土壙。SP-316を切る。本文記載。旧SK-445。	B	本文記載。	古墳後期
SK	87	DA-13	長径92cm、短径83cmの不整楕円形の土壙。SC-25に切られる。本文記載。旧SK-494。	B	本文記載。	古墳後期
SK	88	DB-14	長径101cm、短径62cmの長円形の浅い土壙。本文記載。旧SP-552。	B	本文記載。	古墳後期
SK	89	DA-14	推定長90cm前後、幅80cmの長円形の土壙。SB-62の柱穴であるSP-299に切られる。本文記載。旧SK-558。	B	本文記載。	古墳後期
SD	90	DG-12	幅25～32cmの小溝。SC-8を切り、SP-136・598に切られる。本文記載。旧SD-138。	A	本文記載。	弥生後期
SD	91	DG-16	幅57～60cmの東西方向にのびる溝。旧SD-140。	A	本文記載。	弥生後期
SD	92	DF-13	SC-11を切る幅30cmの小溝。本文記載。旧SD-152。	B	本文記載。	古墳後期
SD	93	DG-19	幅26～36cmの東西方向にのびる溝。本文記載。旧SD-319。	A	本文記載。	弥生後期
SD	94	DG-18	幅は60cmの東端がややすぼまり気味の細長い溝。本文記載。旧SD-356。	B	本文記載。	古墳後期
SD	95	CX・CY-14	幅は36～50cmの北西－南東方向にのびる溝。本文記載。旧SD-424。	A	本文記載。	弥生中期後葉～後期
SD	96	CX-13	幅27cmの小溝。SP-454に切られる。本文記載。旧SD-478。	A	本文記載。	弥生中期後葉～後期
SD	97	CX・CY-12・13	幅19～35cmの小溝。SB-45柱穴のSP-435、SP-525に切られる。本文記載。旧SD-521。	A	本文記載。	弥生中期後葉～後期
SK	98	DG-19	SC-6に伴う長径47cm、短径39cmの小形土壙。本文記載。	A	本文記載。	弥生中期後葉
SK	99	DD-14	SC-15に伴うと考えられる不整円形の土壙。本文記載。	B	本文記載。	古墳後期
	100	欠番				

遺構 略号	遺構 番号	調査区	平面形状・規模・切合関係	埋土の特徴	埋土	出土遺物	時期
SP	101	DG-21	円形。推定直径25~30cm、深さ10cm。SC-4の床面で確認。	黒褐色砂質土。にぶい黄褐色砂質シルトの幅3cmほどのレンズ状ブロックがごく少量みられる。	A	径0.5cmの角張った炭化物がごく少量出土。	弥生
SP	102	DG-21	円形。推定径20cm、深さ5cm。SC-4の床面で確認。	黒褐色砂質土。径0.5cm前後の楕円形の小さな褐色シルト塊がごく少量混じる。	A		弥生
SP	103	DG-21	長円形。長径45cm、短径37cm、深さ10cm。SC-4を切る。	黒褐色砂質土。にぶい黄褐色シルトの厚さ0.5cmほどのレンズ状ブロックや、径3cmほどの輪郭がぼやけた土塊が少量混じる。	A	径0.2~0.3cmの粒状、径0.5cmほどの角張った炭化物片がごく少量出土。	弥生
SP	104	DG-20・21	不整円形。径32~35cm、深さ10cm前後。SC-5に切られる。	暗褐色砂質土。径1~2cmの輪郭がぼやけた楕円形の黄褐色シルト塊がまばらに混じる。	A	径0.2~0.3cmの粒状の炭化物片がごく少量出土。	弥生中期後葉
SP	105	DG-20	長円形。長径34cm+α以上、短径40cm、深さ10cm。SK-9に切られる。	黒褐色砂質土で、径1cmほどの楕円形の黄褐色シルト塊がごく少量混じる。	A	径0.2~0.3cmの粒状の炭化物片がごく少量出土。	弥生
SP	106	DF-20	不整長円形。長径45cm,短径38cm、深さ8cm。	黒褐色砂質土で、径1cmの楕円形の褐色シルト塊がをごく少量混じる。	A	径0.5cmの角張った炭化物片がまばらに少量出土。	弥生
SP	107	DG-19	円形。径30~33cm,深さ8~9cm。	黒褐色砂質土で、径1~3cmの楕円形でやや粘性をおびた褐色シルト塊がごく少量混じる。	A		弥生
SP	108	DF-19	円形。径30cm、深さ8cm。	黒褐色砂質土で、径1~2cmの楕円形のにぶい黄褐色シルト塊がごく少量混じる。	A	径0.2~0.3cmの粒状の炭化物片がごく少量出土。	弥生
SP	109	DF・DG-18・19	略円形。径38~42cm、深さ8cm。	黒褐色砂質土で、径1cmの輪郭がぼやけたにぶい黄褐色シルト塊がごく少量混じる。	A	径0.2~0.3cmの粒状の炭化物片がごく少量出土。	弥生
SP	110	DG-19	SC-6の柱穴。本文記載。		A	径0.2~0.3cmの粒状の炭化物片がごく少量出土。	弥生中期後葉
SP	111	DF・DG-19	円形。直径28cm、深さ4~5cm。	暗褐色砂質土で、径1~2cmの輪郭がぼやけた楕円形の褐色砂質土塊が全体の20%ほど混じる。	A	径0.2~0.3cmの粒状の炭化物をごく少量出土。	弥生
	112	SK-98に振り替え。欠番					
SP	113	DG-20	長円形。長径39cm、短径34cm、深さ8cm。SC-6の床面で検出。	暗褐色砂質土に、径5~8cmの楕円形のにぶい黄褐色シルト塊がごく少量混じる。	A	径0.2~0.3cmの粒状の炭化物片と、径1cmの角張った炭化物片が少量出土。	弥生
SP	114	DF・DG-20	不整円形?。推定直径50cm前後、深さ10cm。SC-6の床面で検出。北半分が攪乱で破壊。	暗褐色砂質土で、径3cmの楕円形の褐色シルト塊が多く混じる。	A	0.2~0.3cm大の粒状炭化物を少量含む。	弥生
SP	115	DG-20	SC-6の柱穴。本文記載。		A	径0.5cmの角張った炭化物片がごく少量出土。	弥生中期後葉
SP	116	DG-15	SB-57の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	117	DG-15	略円形。攪乱壙の底面で検出。径30cm、深さ7cm。	暗褐色砂質土で、径1~2cmの楕円形の褐色シルト塊がごく少量混じる。	A	径2~3mmの粒状の炭化物片がごく少量出土。	
SP	118	DG-15	略円形。径39~41cm、深さ15cm。	径0.5~1cmの小石や礫が多く混じる暗褐色砂質土で、径2~4cmの丸い褐色シルト塊がごく少量含まれる。	B	幅1cmほどの細長い炭化物片、径2~3mmの粒状の炭化物片がごく少量出土。	
SP	119	DG-15	略円形。推定径45cm前後、深さ16cm。東半部の大部分を攪乱で破壊されている。	径3~8mmの小石や礫が多く混じる暗褐色砂質土で、幅1cmほどのにぶい黄褐色シルトのレンズ状ブロックが少量含まれる。	B	径0.5~1cmの角張った炭化物片がやや多く出土。	
SP	120	DG-15	長円形。長径50cm、短径36cm、深さ60cm。SP-124を切る。	径5~8mmの礫や小石が少量混じる暗褐色砂質土で、径1cmの丸いにぶい黄褐色シルト塊が少量含まれる。	B	弥生時代の外面はミガキ調整した壺胴部小片、外面をミガキ、内面をケズリ調整した甕胴部片がある一方で、内外面を刷毛目調整し、球形を呈すると考えられる古墳後期の土師器の甕胴部片、径3~5mmの角張った炭化物片がごく少量出土。	
SP	121	DG-15	SB-58の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	122	DG-15	略円形。径30cm、深さ6cm。西半部は調査区外にのびる。	径3~5mmの小石や礫が多く混じる暗褐色砂質土で、幅1~2cmのにぶい黄褐色砂質土のレンズ状ブロックがやや多く混じる。	B	弥生土器の胴部細片1点、径5mmの角張った炭化物片がごく少量出土。	
SP	123	DG-15	不整楕円形。長径34cm,短径28cm、深さ7~8cm。	径2~3mmの礫が多く混じる暗褐色砂質土で、径1~3cmの楕円形のにぶい黄褐色砂質土塊が少量含まれる。	B	径2~3mmの粒状の炭化物片がごく少量出土。	
SP	124	DG-15	SB-53の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	125	DG-14	SB-53の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
SK	126	DG-13	SC-8炉跡。本文記載。		A		弥生後期
SP	127	DG-14	SB-53の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	128	DG-14	立柱痕跡を確認。本文記載。		B	Fig. 126-1 ~ 3、Fig. 127-1・7が出土。	古墳後期
SP	129	DG-13	SC-8柱穴。本文記載。		A		弥生後期
SP	130	DG-13	SC-8柱穴。本文記載。		A		弥生後期
SP	131	DG-13	略円形。径35~38cm、深さ5cm。浅い皿状の窪み。	暗褐色砂質土で、径3~5cmの楕円形のにぶい黄褐色シルト塊が多く混じる。	A	弥生土器の壺と考えられる胴部小片2点、径2cmの角張った炭化物片が出土。	
SP	132	DG-13	略円形。推定径40cm前後、深さ6cm。東半部は攪乱で破壊されている。	暗褐色砂質土と褐色シルトが混じり合う。	A		
SP	133	DG-13	SC-8柱穴。本文記載。				弥生後期
SP	134	DG-12	略円形。径17~18cm、深さ22cm。SP-139を切る。	暗褐色砂質土で、径1cmのどの輪郭がぼやけたにぶい黄褐色シルト塊がごく少量混じる。	A	弥生土器の胴部細片4点、長さ1cmほどの細長い炭化物片がごく少量出土。	
SP	135	DG-12	略円形。推定径25cm前後、深さ7cm。東半部は攪乱で破壊されている。	褐色シルトで、径5~6cmの楕円形の暗褐色砂質土塊が多く混じる。	A		

遺構 略号	番号	調査区	平面形状・規模・切合関係	覆土の特徴	埋土	出土遺物	時期
SP	136	DG-12	略円形。径43~45cm、深さ15cm。SD-90を切る。	暗褐色砂質土で、径1~3cmの輪郭がぼやけた褐色シルト塊が多く混じる。	A	弥生中期後葉~後期前葉の甕胴部小片2点、幅3mmほどの細長い炭化物片がごく少量出土。	
SP	137	DG-12	長円形。長径42cm+α、短径48cm、深さ5cm前後。東半部を撹乱で破壊されている。	暗褐色砂質土で、径1~2cmの褐色シルト塊がやや多く混じる。	A	土器細片が出土。	
	138	SD-90に掘り替え。欠番。					
SP	139	DG-12	略円形。径18cm前後、深さ3cm。浅い窪み状。SP-134に切られる。	暗褐色砂質土で、径1~2cmの丸い褐色シルト塊がやや多く混じる。	A		
	140	SD-91に掘り替え。欠番。					
SP	141	DG-15	本文記載。		B	Fig.126-4~7が出土。	古墳後期
SP	142	DG-14	SB-58の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	143	DG-15	隅丸方形。長さ35cm+α、幅30~35cm、深さ22cm。東半部を撹乱で破壊されている。	径2~3cmの角礫が多く混じる暗褐色砂質土で、径1cmの楕円形のにぶい黄褐色シルト塊がごく少量含まれる。	B	弥生土器の胴部細片5~8点が出土。また、長さ5mmほどの細長い炭化物片や、径2mmの粒状の炭化物片がごく少量出土。	古墳後期
SP	144	DG-14	SB-57の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	145	DG-14	不整楕円形。長軸長55cm、短軸長44cm、深さ10cm前後。床面で3cmほどの深さの小穴を検出。	径2~3mmの角礫が多く混じる暗褐色砂質土で、厚さ5mmほどの褐色シルトのレンズ状ブロックがごく少量混じる。	B	径2~3mmの粒状の炭化物片がごく少量出土。	
SP	146	DG-15	不整楕円形。径45cm前後、深さ5cm前後の浅い窪み状の小穴。	暗褐色砂質土で、楕円形の小さな褐色シルト塊が少量混じる。	A		
SP	147	DG-15	不整楕円形。長軸長35cm+α、短軸長40cm、深さ14cm。北半部は撹乱で破壊。	暗褐色砂質土で、径1~3cmの崩れた楕円形の褐色シルト塊が少量混じる。	A	土器の細片、径2~3mmの粒状の炭化物片がごく少量出土。	
SP	148	DG-15	不整楕円形。長軸長17cm+α、短軸長25cm、深さ10cm。北半部は撹乱で破壊されている。SP-147と切り合う。	暗褐色砂質土で、径5mmほどの楕円形の褐色シルト塊がをごく少量混じる。	A	弥生土器もしくは土師器の小指先大の胴部細片が1点、長さ3cm、幅・厚さ2~2.5cmの花崗岩の小円礫(R-1543)、径2~3mmの粒状の炭化物片がごく少量出土。	
SP	149	DG-15	不整形。深さ10cm。北半部は撹乱で破壊されている。	暗褐色砂質土で、径1cmの褐色シルトのレンズ状ブロックがやや多く混じる。	A	1cm大の角張った炭化物と0.2~0.3cm大の粒状炭化物をごく少量含む。	
SP	150	DG-16	不整楕円形。推定長径40cm、短径25cm、深さ3cm。東端は撹乱で破壊されている。	暗褐色砂質土で、径2~3mmの角礫が多く混じる。幅2cmほどのにぶい黄褐色砂質土のレンズ状ブロックが少量混じる。	B		古墳後期
SP	151	DF-14	SB-52の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
	152	SD-92に掘り替え。欠番。					
SP	153	DF-15	円形。径9~10cm、深さ6cm。	暗褐色砂質シルトで、下半部には親指大の黄褐色の塊状ブロックが多く混じる。	B		
SP	154	DF-15	長円形。長径37cm、短径28cm、深さ11cm。SC-12の柱穴。	暗褐色砂質シルトで、小指~親指大の黄褐色砂質シルト塊が少量混じる。	A	長頸壺と考えられる頸部欠け壺の破片(Fig.126-8)、弥生土器の胴部片2点が出土。	弥生
SP	155	DF-15	隅丸長方形? 長辺20cm+α、短辺25~30cm、深さ3cm。浅い窪み状の小穴。	暗褐色シルトに黄褐色砂質シルトが散漫に混じる。検出時、平面輪郭ははぼやけていた。	A		
SP	156	DF-15	略円形。径22cm、7cm。西半部は既設の管路で破壊されている。	上部は親指大の黄褐色砂質シルト塊がつまり、下部は暗褐色シルト。	A		
SP	157	DF-15	円形。径16cm、深さ3cm。	暗褐色シルト。	A		
SP	158	DF-15	略円形。径28~30cm、深さ2~3cm。	暗褐色砂質シルトと黄褐色砂質シルトが混じる。	A		
SP	159	DF-15	略円形。径10~12cm、深さ3cm。	暗褐色シルト。	A	土器細片が出土。	
SP	160	DF-15	円形。径17cm、深さ5~6cm。	暗褐色シルトに黄褐色砂質シルトが少量混じる。	A		
SP	161	DF-15	略円形。径25cm、深さ3cm。SP-162の底面で確認。	黒褐色砂質シルトに親指大の黄褐色砂質土塊が多く混じる。	A	取り上げ時に混乱したが、SP-161・162から弥生土器の胴部小片が1点出土。	
SP	162	DF-15	不整楕円形。長軸長67cm。皿状の深さ5cm程度の小穴。	黒褐色砂質シルトに親指大の黄褐色砂質土塊が多く混じる。	A		
	163	SK-75に掘り替え。欠番。					
SP	164	DF-15	略円形。径25~28cm、深さ8cm。SK-75との切り合い関係は不明。	黒褐色シルト。	A		
SP	165	DF-14・15	略円形。径24~27cm、深さ4~5cm。浅い皿状の小穴。	暗褐色砂質シルト。黄褐色シルトの小塊がごくわずかに含まれる。	A		
SP	166	DF-14	略円形。径30cm、深さ3~4cm。東半部は調査区外にのびる。	暗褐色砂質シルトで、小指先大の黄褐色シルト塊が少量混じる。	A		
SP	167	DF-14	略円形。深さ9cm。比較的しっかりした掘り形をもつ。SK-168との先後関係は不明。	黒褐色シルト。	A		
SP	168	DF-14	立柱痕跡を確認。本文記載。		B	上部重層からFig.126-12~15が出土。	古墳後期
SP	169	DF-14	略円形。径40cm、深さ15cm。SK-76を切る。	砂礫混じりの黒褐色~暗褐色の砂質土。	B		
	170	SK-76に掘り替え。欠番。					
SP	171	DE・DF-14	不整楕円形。長径30cm、推定短径25cm前後、深さ10cm。比較的しっかりした掘り形。	暗褐色シルト。	A		

遺構 略号	番号	調査区	平面形状・規模・切合関係	覆土の特徴	覆土	出土遺物	時期
SP	172	DE・DF-14	楕円形。径22~25cm、深さ10cm。比較的しっかりした掘り形である	黒褐色砂質シルト。	A		
SP	173	DF-14	略円形。径28~29cm、深さ11cm。	暗褐色シルト。	A		
	174	SK-77に振り替え。欠番。					
	175	SK-78に振り替え。欠番。					
SP	176	DF-14	SB-52の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	177	DF-13	SB-52の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	178	DF-13	略円形。径33~34cm、深さ6cm。皿状の小穴。西半部を管路で破壊されている。	暗褐色土に黄褐色土が散漫に混じり、全体としては灰黄褐色を呈する。砂礫が多く混じる。土質は小さな円礫を含む砂質土。	B	底面から、弥生土器の胴部小片1点が出土。	
SP	179	DF-13	円形。径30cm、深さ4cm。浅皿状の小穴。	褐色シルトに、親指先大の黄褐色砂質シルト塊が多く混じる。	A	覆土中から、弥生土器と考えられる胴部小片1点が出土。	
SP	180	DF-13	円形。径28cm、深さ11cm。	暗褐色砂質シルト。	A	下部から土器小片が出土。	
SP	181	DF-13	楕円形。幅45~50cm、深さ8cm。	暗褐色砂礫土。	B	弥生後期初頭の壺口縁部細片1点、弥生土器の胴部細片~小片が10数点出土。	
SP	182	DF-13	円形。径25~30cm、11cm。	砂礫が多く混じる暗褐色砂質シルト。	B	覆土中から、弥生中期後葉~後期初頭の壺胴部の小片3点が出土。	
SP	183	DF-12・13	円形。径25cm、深さ15cm。	砂礫が多く混じる暗褐色砂質シルト。	B		
SP	184	DF-13				Fig. 126-11が出土。	
SP	185	DF-13	略円形。径26~27cm、深さ6cm。	暗褐色シルト。	A		
SP	186	DF-13	略円形。径20~22cm、深さ11cm。	暗褐色砂質シルト。	A		
SP	187	DC・DD-14	SC-21の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	188	DD-14・15	SC-21の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	189	DD-14	SC-21の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	190	DD-15	SC-15の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	191	DD-14	SC-15の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	192	DD-14	略円形。径29~31cm、深さ9cm。SC-21床面で検出。	暗褐色砂質シルト。ごくわずかに黄褐色砂質シルトが混じる。	A		
	193	SC-15の覆土の一部を誤認。欠番。					
SP	194	DB-14	略円形。径20~21cm、深さ26cm。	暗褐色砂質土。輪郭がぼやけた楕円形の褐色シルト塊がごく少量混じる。	A		
	195	Ⅳ層上面の窪みを誤認。欠番。					
SP	196	DC-15	略円形。径36~39cm、深さ6~7cm。SC-18の床面で検出。	黒褐色砂質土。褐色シルトの薄いレンズ状ブロックがごく少量みられる。	A	土器片出土。	
SP	197	DC-16	略円形。径34cm、深さ4~5cm。SC-18の床面で検出。	褐色シルト。暗褐色砂質土の薄いレンズ状ブロックがごく少量みられる。	A	径3mmの丸い炭化物片がごく少量出土。	
SP	198	DC-16	略円形。径20cm、深さ4cm。SC-18の床面で検出。	暗褐色砂質土。褐色シルトのレンズ状ブロックがごく少量みられる。	A		
SP	199	DC-16	略円形。径22~24cm、深さ7cm。SC-18の床面で検出。	暗褐色砂質土。径5mmほどの楕円形の褐色シルト塊がごく少量混じる。	A	径5mmの角張った炭化物片がごく少量出土。	
SP	200	DD-14	略円形。径28~30cm、深さ7cm。SC-15床面で検出。	暗褐色砂質土。褐色シルトのレンズ状ブロックが少量みられる。	A	土器の細片、径5mmの角張った炭化物片がごく少量出土。	
SP	201	DD-14	略円形。径26cm、深さ4cm。西半部は撹乱で破壊される。SC-15床面で検出。	にぶい黄褐色シルトに、径5mmほどの黒褐色砂質土の小塊が少量混じる。	A		
	202	撹乱部底面の窪みを誤認。欠番。					
	203	撹乱部底面の窪みを誤認。欠番。					
	204	撹乱部底面の窪みを誤認。欠番。					
SP	205	DD-14	不整な楕円形。推定長径65cm、短径38cm、深さ8cm。撹乱部の底面で検出。SP-206に切られる。	暗褐色砂質土。径2~3cmの楕円形のにぶい黄褐色シルト塊が多く混じる。	A		
SP	206	DD-14	おむすび形。径50cm、深さ20cm。撹乱部の底面で検出。SP-205を切る。	暗褐色砂質土。暗褐色シルトが少量混ざる。	A	径2~3cmの粒状の炭化物片がごく少量出土。	
SP	207	DC・DD-14	略円形。径22~23cm、深さ6cm。SC-21床面で検出。	暗褐色砂質土。径1cmの楕円形の褐色シルト塊が少量混じる。	A	径2~3mmの粒状の炭化物片がごく少量出土。	
SP	208	DC-14	略円形。径20~21cm、深さ5cm。SC-21床面で検出。	暗褐色砂質土。	A	径2~3mmの粒状の炭化物片がごく少量出土。	
	209	SP-601に振り替え。欠番。					
SP	210	DD-14	径20~22cm、深さ7cm。SC-21床面で検出。	暗褐色砂質土。	A		
SP	211	DD-14	長円形。長径37cm、短径24cm、深さ11cm。SP-517の底面で検出。	暗褐色砂質土。にぶい黄褐色シルトの薄いレンズ状ブロックがごく少量みられる。	A		
	212	SP-492に振り替え。欠番。					
SP	213	DC-14	長円形。長径44cm、短径40cm、深さ23cm。	暗褐色砂質土。径1~3cmの楕円形の褐色シルト塊がごく少量混じる。	A	径0.5~1cmの角張った炭化物片がごく少量出土。	
SP	214	DC-14	略円形。径50cm、深さ4cm。浅皿状。	暗褐色砂質土。径1cmの楕円形の褐色シルト塊がごく少量混じる。	A	径2~3mmの粒状の炭化物片がごく少量出土。	
SP	215	DC-14	不整な長円形。長径45cm、短径39cm、深さ23cm。	暗褐色砂質土。径2~3cmの楕円形のにぶい黄褐色シルト塊がごく少量混じる。	A	弥生土器の胴部小片3点、径2~3mmの粒状の炭化物片がごく少量出土。	
SP	216	DC-14	略円形。径19~20cm、深さ6cm。	暗褐色砂質土で、褐色シルトの薄いレンズ状ブロックがごく少量みられる。	A	外面に刷毛目、内面にナデ調整を施した甕の胴部小片1点、径2~3mmの粒状の炭化物片がごく少量出土。	

遺構 種別	遺構 番号	調査区	平面形状・規模・切合関係	埋土の特徴	埋土	出土遺物	時期
	217	SP-218の一部を誤認。欠番。					
	218	Ⅳ層上面の窪みを誤認。欠番。					
	219	SP-515に振り替え。欠番。					
SP	220	DC-14	略円形。径23~25cm、深さ12cm。両端を攪乱で破壊される。	暗褐色砂質土。径1cmの楕円形のにぶい黄褐色砂質土塊がごく少量混じる。	A		
SP	221	DC-14	略円形。径25cm、深さ7cm。	暗褐色砂質土。径1~2cmの楕円形のにぶい黄褐色砂質土塊がごく少量混じる。	A	甕口縁部（Fig. 126-9）、弥生土器の胴部細片5点、径2~3mmの粒状の炭化物片がごく少量出土。	弥生
	222	SK-79に振り替え。欠番。					
SP	223	DB-13	立柱痕跡を確認。本文記載。		B		古墳後期
SP	224	DB・DC-13	SB-47の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	225	DB-13	SB-47の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	226	DB-13	立柱痕跡を確認。本文記載。		A	Fig. 128-9が出土。	弥生
	227	SP-228の立柱痕跡部分を誤認。欠番。					
SP	228	DB-13	立柱痕跡を確認。本文記載。		B		古墳後期
SP	229	DB-14	立柱痕跡を確認。本文記載。		B	Fig. 126-10が出土。	古墳後期
SP	230	DB-14	長円形。短径36cm、深さ12cm。SP-231に切られる。	暗褐色砂質土。褐色シルトの薄いレンズ状ブロックが少量みられる。	A		
SP	231	DB-14	立柱痕跡を確認。本文記載。		B	Fig. 126-16~22が出土。	古墳後期
SP	232	DB-14	長円形。長径48cm、短径34cm、深さ11cm。SP-236を切る。	黒褐色シルト。黄褐色砂質シルトが斑状に混じる。	A	径2~3mmの粒状の炭化物片がやや多く出土。	
	233	SP-235の埋土の一部を誤認。欠番。					
	234	SP-235の埋土の一部を誤認。欠番。					
SP	235	DB-14	SA-20を構成する小穴。本文記載。		B		古墳後期
	236	SD-20の埋土の一部を誤認。欠番。					
SP	237	DB-14	SA-20を構成する小穴。本文記載。		B		古墳後期
	238	SP-239の立柱痕跡を誤認。欠番。					
SP	239	DB-14	立柱痕跡を確認。本文記載。		B	Fig. 126-23~25が出土。	古墳後期
	240	Ⅳ層上面の窪みを誤認。欠番。					
SP	241	DB-14	円形。径15cm、深さ14cm。	暗褐色砂質土。にぶい黄褐色シルトのレンズ状ブロックがごく少量みられる。		土器の細片が出土。	
SP	242	DB-14	長円形。長径21cm、短径18cm、深さ11cm。	暗褐色砂質土。にぶい黄褐色シルトのレンズ状ブロックがごく少量みられる。		土器の細片が出土。	
SP	243	DB-14	立柱痕跡を確認。本文記載。		B		古墳後期
SP	244	DB-14	長円形。長径19cm、短径16cm、深さ13cm。	にぶい黄褐色砂質土に、径5mmの粒状の褐色シルト塊が多く混じる。	A		
SP	245	DB-14	略円形。径21~25cm、深さ25cm。	暗褐色砂質土。径1~3cmのにぶい黄褐色砂質土塊が多く混じる。	A		
SP	246	DB-14	長円形。長径28cm、短径24cm、深さ20cm。	黒褐色砂質土。にぶい黄褐色シルトの幅1cmほどのレンズ状ブロックが多くみられる。	A		
	247	Ⅲ層を埋土とする攪乱を誤認。欠番。					
SP	248	DB-15	略円形。径19cm、深さ10cm。	暗褐色砂質土。	A		
SP	249	DB-13・14	SC-25の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	250	DA・DB-13	SC-25の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	251	DB-13	SC-25の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	252	DB-13	SC-25の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	253	DA・DB-13	円形。径40cm、深さ46cm。SC-25床面で検出。SP-250に切られる。	上部は小礫混じりの暗褐色砂質シルト。中位~下部は黒褐色シルト。	B	埋土上部から土師器若しくは弥生土器の胴部細片3点、中位~下部から弥生後期中葉~後葉の甕口縁部片（Fig. 126-27）、胴部細片1点が出土。他に、弥生後期前葉の甕口縁部細片（Fig. 126-26）、胴部小片2点、須恵器の坏蓋片（Fig. 126-28）があり、DA-13-24・25区およびDA-14-4・5のⅢ層最下部~上面で出土した破片と接合。	弥生
SP	254	DB-15	立柱痕跡を確認。本文記載。		B	Fig.128-1・2が出土。	古墳後期
SP	255	DB-15	立柱痕跡を確認。本文記載。		B	Fig.128-3が出土。	古墳後期
SP	256	DB-13	立柱痕跡を確認。本文記載。		B		古墳後期
	257	SP-554の一部を誤認。欠番。					
SP	258	DA-13	立柱痕跡を確認。本文記載。		B		古墳後期
SP	259	DA-13	立柱痕跡を確認。本文記載。		A		弥生中期~古墳中期
SP	260	DA-12・13	立柱痕跡を確認。本文記載。		A		古墳後期
SP	261	CZ-13	立柱痕跡を確認。本文記載。		B		古墳後期
SK	262	DA-13	SC-28に付設された土坑。本文記載。		B		古墳後期
SP	263	DA-13	立柱痕跡を確認。本文記載。		B	Fig. 128-5~8が出土。	古墳後期
SP	264	CZ-12・13	SC-28の主柱穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	265	CZ・DA-12・13	立柱痕跡を確認。本文記載。		A	Fig. 128-4が出土。	古墳後期以降
SP	266	DA-12	円形。径58~60cm、深さ7cm。SC-28の床面で検出。SC-30を切る。	砂礫混じりの暗褐色砂質シルト。	B	紡錘車の筒部と考えられる細片（R-5814）、古墳時代後期と考えられる土師器の胴部小片3点、弥生土器胴部の小片6点出土した。	

遺構 略号	番号	調査区	平面形状・規模・切合関係	埋土の特徴	埋土	出土遺物	時期
SP	267	DA-12	略円形。径30cm、深さ22cm。	暗褐色砂質シルト。	A	弥生土器の胴部小片3点が出土。	
SP	268	DA-12	略円形。径29～31cm、深さ40cm。	暗褐色砂質土。	A	弥生土器の胴部破片10点前後、砂岩円礫の半折品が出土。残存長4cm、厚さ1cm。径5mmの炭化物片が少量出土。	
SP	269	DB-14	長円形。推定長径30～35cm、短径25cm、深さ9cm。SC-25の床面で検出。柱穴であるSP-249に切られる。	黒褐色砂質シルト。上部には小礫が少量混じり、下部には、小指先大の黄褐色シルト塊が混じる。	B		
SP	270	DB-13	立柱痕跡を確認。本文記載。		A		古墳後期
SP	271	DB-13	本文記載。		A	Fig. 128-10が出土。	弥生
SP	272	DB-13	略円形。径55cm、深さ24cm。SC-25床面で検出。SP-271を切る。	暗褐色砂質土。径2～3cmの楕円形の褐色シルト塊がやや多く混じる。	A	弥生土器の甕の胴部細片～小片7点、径3mmの角張った炭化物片がごく少量出土。	
SP	273	DB-13	立柱痕跡を確認。本文記載。		A		弥生
SP	274	DB-13	略円形。径22cm、深さ8cm。SC-25床面で検出。	暗褐色砂質土。径1cm前後の楕円形のにぶい黄褐色砂質土塊が多く混じる。	A		
SP	275	DA・DB-13	立柱痕跡を確認。本文記載。		B		古墳後期
	276	Ⅳ層上面の窪みを誤認。欠番。					
	277	Ⅳ層上面の窪みを誤認。欠番。					
SP	278	DB-13	不整円形。径35～37cm、深さ33cm。SC-25の床面で検出。	雨水が流れ込み、掘り形が崩れてしまい、埋土の特徴を観察できなかった。	A?		
SP	279	DA・DB-13	隅丸長方形。残存長45cm、幅45cm、深さ9cm。SC-25床面で検出。	暗褐色砂質土。径1cmの楕円形の褐色シルト塊が少量混じる。	A	弥生土器もしくは土師器の胴部細片～小片7点、径2mmの粒状の炭化物片がごく少量出土。	
SP	280	DA-13	立柱痕跡を確認。本文記載。		B		古墳後期
SP	281	DA-13	略円形。径40cm前後、深さ24cm。SP-571を切る。	暗褐色砂質土。幅2cmほどの褐色シルトのレンズ状ブロックがごく少量みられる。	A	径2～3mmの丸い炭化物片が少量出土。	
SP	282	DA-13	略円形。径17～18cm、深さ28cm。	暗褐色砂質土。	A	径2～3mmの丸い炭化物片が少量出土。	
SP	283	DB-12	長円形。長径28cm、短径26cm、深さ20cm。	暗褐色砂質土。	A	弥生土器の胴部2点、径2～3mmの粒状に炭化物片が少量出土。	
SP	284	DA-12	略円形。径25cm、深さ7cm。	にぶい黄褐色砂質シルト。Ⅳ層とは炭化物の有無で区分。	A	径2～3mmの炭化物片が少量出土。	
SP	285	DB-13	SB-47の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	286	DB-13	略円形。径58～60cm、深さ14cm。かなりしっかりした掘り形である。	暗褐色砂質土。径1～2cmの楕円形の褐色シルト塊が多く混じる。	A		
SP	287	DB-12・13	立柱痕跡を確認。本文記載。		B	Fig. 128-11が出土。	古墳後期
SP	288	DB-12・13	略円形。径58～60cm、深さ14cm。かなりしっかりした掘り形である。	暗褐色砂質土。	A	弥生土器もしくは土師器の胴部細片4点が出土。	
SP	289	DB-12	長円形。長径68cm、短径55cm、深さ5cm。	暗褐色砂質土。にぶい黄褐色砂質土が混じる。	A	径2～3mmの粒状の炭化物片がごく少量出土。	
SP	290	DB-12	SB-47の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	291	CZ-13	不整な長円形。長径46cm、短径36cm、深さ7cm。SC-28床面で検出。	暗褐色砂質土で、径2～3cmの楕円形のにぶい黄褐色シルト塊が多く混じる。	A	弥生土器の胴部細片3点が出土。	
SP	292	CZ・DA-13	立柱痕跡を確認。本文記載。		B		古墳後期
SP	293	DB-14	立柱痕跡を確認。本文記載。		A	Fig. 128-12が出土。	弥生
SP	294	DB-14	立柱痕跡を確認。本文記載。		A		弥生
SP	295	DB-13	略円形。径30cm、深さ13cm。SC-25床面で検出。	暗褐色砂質土。	A		
SP	296	DA-13	立柱痕跡を確認。本文記載。		A		古墳後期
SP	297	DA-14	立柱痕跡を確認。本文記載。		B	Fig. 128-13が出土。	古墳後期
SP	298	DA-14	SB-62の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	299	DA-14	SB-62の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	300	DA-14	立柱痕跡を確認。本文記載。		B	Fig. 128-14が出土。	古墳後期
SP	301	DB-15	立柱痕跡を確認。本文記載。		A		弥生
SP	302	DB-13	長円形。長径36cm、短径32cm、深さ4cm。SC-25床面で検出。	径2～3mmの角礫が多く混じる暗褐色砂質土。径3～5cmの楕円形のにぶい黄褐色砂質土塊が多く含まれる。	B		
	303	SP-326と重複して遺構番号を付してしまったため、欠番。					
SP	304	DA-14	SC-27の柱穴。本文記載。		A		弥生後期
SP	305	DG-16	楕円形。長径53cm、推定短径40cm、深さ4cm。東部分を攪乱で破壊されている。	暗褐色砂質土。径1cmの楕円形の褐色シルト塊がごく少量混じる。	A		
SP	306	DG-16	円形。径8cm、深さ8cm。	にぶい黄褐色砂質土。Ⅳ層と比べて湿る。	A		
SP	307	DG-16	長円形。長径21cm、短径17cm、深さ7cm。	暗褐色砂質土。径1cmの楕円形の褐色シルト塊がごく少量混じる。	A	径5cmほどの角張った炭化物片がごく少量出土。	
SP	308	DG-16	略円形。径23～26cm、深さ5cm。	暗褐色砂質土。径2～3mmの角礫が多く混じる。径1cmの輪郭がぼやけた楕円形のにぶい黄褐色砂質土塊が多く混じる。	B	径2～3mmの粒状の炭化物片がごく少量出土。	
SP	309	DG-16	柱痕跡を確認。本文記載。		A	炭化物片・弥生土器片が出土。	弥生
SP	310	DG-16	円形。径12～13cm、深さ7cm。	にぶい黄褐色砂質土。	A		
SP	311	DG-17	円形。径17～19cm、深さ12～13cm。	暗褐色砂質土で、幅5cmほどの黄褐色砂質土のレンズ状ブロックが少量混じる。	A	径2～3mmの粒状の炭化物片がごく少量出土。	

遺構 略号	遺構 番号	調査区	平面形状・規模・切合関係	埋土の特徴	埋土	出土遺物	時期
SP	312	DG-17	円形。径11～13cm、深さ11cm。	暗褐色砂質土で、径1cmのやや拉げた楕円形の褐色シルト塊がごく少量混じる。	A		
SP	313	CZ-15	不整円形。径17～20cm、深さ7cm。	径1～2mmの角礫混じりの暗褐色砂質土。	B	弥生土器もしくは土師器の細細片2点、径1cmの炭化物片が多く出土。	
SP	314	CY-14	SA-59の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	315	CY-14	SA-59の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	316	CY-14	柱痕跡を確認。本文記載。		B		古墳後期
SP	317	CY-14					
SP	318	CY-14	SA-60の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
	319	SD-93に振り替え。欠番					
SP	320	DA-13	立柱痕跡を確認。本文記載。		B	Fig. 128-15が出土。	古墳後期
SP	321	DA-13	立柱痕跡を確認。本文記載。		B		古墳後期
SP	322	DA-13	SC-28の主柱穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	323	CZ・DA-13	本文記載。		A	Fig. 128-16が出土。	古墳後期
SP	324	CZ・DA-13	立柱痕跡を確認。本文記載。		A		古墳後期
SP	325	DA-13	略円形。径30～33cm、深さ13cm。横断溝底で検出。	黒褐色シルト。上部に径2～3cm黄褐色砂質シルト塊が多く混じる。	A		
SP	326	DA-13	立柱痕跡を確認。本文記載。		B		古墳後期
SP	327	CX-15	SA-60の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	328	CX-15	SA-60の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	329	CX-15	長円形。長径23cm、短径21cm、深さ14cm。	黒褐色シルトで、径3～4cmの楕円形の黄褐色シルト塊が多く混じる。	A		
SP	330	CX-15	柱痕跡を確認。本文記載。		A		弥生中期～古墳中期
SP	331	CZ-14	立柱痕跡を確認。本文記載。		B		古墳後期
SP	332	CZ-14	立柱痕跡を確認。本文記載。		A		弥生中期～古墳中期
SP	333	CZ-14	立柱痕跡を確認。本文記載。		B		古墳後期
SP	334	CY-14・15	SB-43の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	335	CZ-14	SB-43の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	336	CZ-14	SK-80を切る小穴。本文記載。		B		古墳後期
	337	SK-80に振り替え。欠番。					
SP	338	CZ-14	SB-46の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	339	CZ-14	柱痕跡を確認。本文記載。		B		古墳後期
SP	340	CZ-14	柱痕跡を確認。本文記載。		B	Fig. 128-17が出土。	古墳後期
SP	341	CZ-14	柱痕跡を確認。本文記載。		A		古墳後期
SP	342	CZ-14	柱痕跡を確認。本文記載。		A		弥生中期～古墳中期
SP	343	CZ-13	SC-34の柱穴。本文記載。		A		弥生後期
SP	344	CZ-13	立柱痕跡を確認。本文記載。		B	Fig. 128-21・22、Fig. 132-8が出土。	古墳後期
SP	345	CZ-12・13	SC-34の柱穴。本文記載。		A		弥生後期
SP	346	CZ-13	本文記載。		A	Fig. 128-19・20が出土。	弥生
SP	347	CZ-13	SC-35の柱穴。本文記載。		A		弥生後期
	348	SK-81に振り替え。欠番。					
	349	SK-81の北側部分を誤認。欠番。					
SP	350	CY-13	SC-35の柱穴。本文記載。		A		弥生後期
SP	351	CY-13	SC-35の柱穴。本文記載。		A		弥生後期
SP	352	CY-13	略円形。径24～26cm、深さ13cm。攪乱溝の底面で確認。	暗褐色シルト。径1～2mmの礫が所々に混じる。	B		
SP	353	CY・CZ-13	SC-35の柱穴。本文記載。		A	Fig. 128-18が出土。	弥生後期
SP	354	CY-13	SC-34の柱穴。本文記載。		A		弥生後期
	355	SK-82に振り替え。欠番。					
	356	SD-94に振り替え。欠番。					
SP	357	DG-17	SC-7の柱穴。SP-358を切る。本文記載。		A		弥生
SP	358	DG-17	不整円形。径25～27cm、深さ11cm。SP-357に切られる。	暗褐色砂質土で、径1～2cmの楕円形のにぶい黄褐色砂質土塊が多く混じる。	A	径0.2～0.3cmの粒状の炭化物片がやや多く出土。	
SP	359	DG-17・18	略円形の小穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	360	DF・DG-17	円形。径21～22cm、深さ5cm。SP-359を切る。	暗褐色砂質土で、径1cmほどの楕円形の褐色シルト塊がやや多く混じる。	B		
SP	361	DG-17・18	楕円形。長径34cm、短径27cm?、深さ6cm。SP-359に切られる。	角礫混じりの暗褐色砂質土で、径1cmほどの楕円形の褐色砂質土塊が少量混じる。	A	弥生土器の小片2点が出土。	
SP	362	DF・DG-17	長円形。長径50cm、短径40cm、深さ5cm。SK-82を切る。	暗褐色砂質土で、径1cmほどの拉げた楕円形の褐色砂質土塊がやや多く混じる。	A	土器片と、径0.5cmほどの細長い炭化物片がごく少量出土。	
SP	363	DG-18	円形。径22～23cm、深さ10cm。SD-94を切る。	暗褐色砂質土。径2cmほどの角張った小石がごく少量混じる。	B		
	364	SK-83に振り替え。欠番。					
SP	365	DG-18	大半が調査区外にのびる。	暗褐色砂質土。径0.2～0.3cmの角礫がやや多く混じる。	B		
	366	SK-84に振り替え。欠番。					
SP	367	DF-19	円形。径34cm、深さ11cm。SD-319を切る。	暗褐色砂質土で、幅3cmほどの暗褐色砂質土のレンズ状ブロックがごく少量混じる。	A	径0.2～0.3cm大の粒状の炭化物片がごく少量出土。	
SP	368	DG-18	略円形。径21～23cm、深さ4cmと浅い。	暗褐色砂質土。	A		

遺構 略号	遺構 番号	調査区	平面形状・規模・切合関係	埋土の特徴	埋土	出土遺物	時期
SP	369	DG-18・19	略長円形。長径48cm、短径42cm、深さ8cm。	暗褐色砂質土で、径1cmの輪郭がぼやけ拉げた楕円形の暗褐色砂質土塊が少量混じる。	B	土器片が出土。径0.2~0.3cmの粒状の炭化物片がごく少量出土。	
SP	370	DG-19	不整円形。推定直径40~45cm、深さ5cm。SD-319に切られる。	暗褐色砂質土とにぶい黄褐色砂質土が混じり合う。	A		
SP	371	DG-19	円形。径18cm前後、深さ5cm。	暗褐色砂質土で、径1cmの拉げた楕円形のにぶい黄褐色シルト塊が少量混じる。	B		
SP	372	DG-19	略円形。径20~21cm、深さ9cm。	暗褐色砂質土。	A	径0.2~0.3cmの粒状の炭化物がごく少量出土。	
SP	373	DG-19	略長円形。長径26cm、短径19cm、深さ12cm。	暗褐色砂質土で、径1~5cmの拉げた楕円形の褐色砂質土塊が少量混じる。	B	0.5cm大の角張った炭化物をごく少量含む。	
SP	374	DB-13	立柱痕跡を確認。本文記載。		A		弥生
SP	375	DE-14	立柱痕跡を確認。本文記載。		B	Fig.128-23・24が出土。	古墳後期
SP	376	DE-14	略円形。径55cm、深さ12cm。底面中央が窪む。	暗褐色砂質土であるが、部分的にやや粘性を帯びる。幅5cmほどの褐色砂質シルトのレンズ状ブロックがごく少量混じる。	A	埋土中から、弥生土器の胴部細片4点、径5mmの角張った炭化物片がごく少量出土。	
SP	377	DE-14	略円形の小穴。本文記載。		B	Fig. 128-33・34が出土。	古墳後期
SP	378	DE-14	略円形。径45cm前後、深さ19cm。擂り鉢状の小穴で、東半部は攪乱で破壊。	暗褐色砂質土で、部分的にやや粘性を帯びる。径1~2cmのにぶい黄褐色砂質シルトのレンズ状ブロックがやや多く混じる。	A	径5mmの角張った炭化物片がごく少量出土。	
SP	379	CZ-13	SC-35・38を切る。本文記載。		B	Fig. 128-25・26が出土。	古墳後期
SP	380	CY-13	SC-35の床面で検出。本文記載。		A	Fig. 128-27~29が出土。	弥生
SP	381	DF-16	略円形。径27~30cm、深さ8cm。東側部分に高さ4cmほどのテラス状の段あり。	暗褐色砂質土で、径1cmの楕円形の褐色シルト塊がごく少量混じる。	A	径2~3mmの粒状の炭化物片がごく少量出土。	
SP	382	DF-16	略円形。径40~45cm、深さ8cm。南半部は攪乱で破壊されている。	径3~5mmの角礫が多く混じる暗褐色砂質土で、径3cmのにぶい黄褐色シルト塊がごく少量混じる。	B	径5mmの角張った炭化物片がごく少量出土。	
SP	383	DE-16	円形。径23~25cm、深さ9cm。	暗褐色砂質土で、径1cmの楕円形のにぶい黄褐色砂質土塊が少量混じる。	B		
SP	384	DE-16	略長円形。長径61cm、短径53cm、深さ16cm。東北隅に径11cm、深さ4cmほどの小穴状の窪みがある。	暗褐色砂質土で、径1~3cmの楕円形の褐色砂質シルト塊がごく少量混じる。	A	埋土中から、弥生土器の胴部細片2点、径5mmの角張った炭化物片がごく少量出土。	
SP	385	DE-16	円形。径40cm、深さ13cm。東半部は調査区外にのびる。	暗褐色砂質土で、径1cmの楕円形の暗褐色砂質土塊がごく少量混じる。	A		
SP	386	CZ-13	立柱痕跡を確認。本文記載。		B	Fig. 128-39が出土。	古墳後期
SP	387	CZ-13	SB-62の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	388	CZ-13	長円形。長径19cm、短径14cm、深さ12cm。	黒褐色シルト。径1cmの楕円形のにぶい黄褐色砂質土塊が少量混じる。	A	弥生土器胴部細片1点が出土。	
SP	389	CZ-13	立柱痕跡を確認。本文記載。		B	Fig. 128-36が出土。	古墳後期
	390	SC-34の出入り口部分を誤認。欠番。					
SP	391	DF-23	円形。径35cm、深さ10cm。東半部は攪乱で破壊されている。	暗茶褐色砂質土で、径2~3cmの褐色砂質シルトのレンズ状ブロックがごく少量みられる。	A	弥生土器の口縁部片、弥生土器の壺や甕の胴部小片6点が出土。また、長さ5cm、幅3.3cm、厚さ2cmの紡形に近い砂岩円礫が出土。	
SP	392	DF-23	略円形の小穴。本文記載。		A	台石（Fig. 130-2）が出土。	弥生
SP	393	DF-23	長円形。長径60~65cm、深さ12cm。東半部は攪乱で破壊されている。	暗茶褐色砂質土で、径1cmほどの褐色シルトのレンズ状ブロックがごく少量含まれる。	A		
SP	394	DF-23	円形。径13cm、深さ19cm	暗茶褐色砂質土で、径1~2cmの褐色砂質土のレンズ状ブロックが少量みられる。	A		
SP	395	DF-23	SB-51の柱穴。本文記載。		A		弥生中期後葉~後期
SP	396	DF-23	円形。径18~19cm、深さ7cm。	暗茶褐色砂質土で、径1~2cmの楕円形の褐色シルト塊が少量混じる。	A		
SP	397	DF-23	柱痕跡を確認。本文記載。		A		弥生中期後葉~後期
SP	398	DF-23	柱痕跡を確認。本文記載。		B		古墳後期
SP	399	DF-23	SB-51の柱穴。本文記載。		A		弥生中期後葉~後期
SP	400	DF-23	略円形。径28cm、深さ5cm。	黒褐色砂質土。	A	弥生土器の胴部小片1点が出土。	
SP	401	DF-22	柱痕跡を確認。本文記載。		A		弥生中期後葉~後期
SP	402	CZ-14	立柱痕跡を確認。本文記載。		A		弥生
SP	403	CZ-14	立柱痕跡を確認。本文記載。		B		古墳後期
SP	404	CZ-14	SB-46の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	405	CZ-14	柱痕跡を確認。本文記載。		B	Fig. 128-30が出土。	古墳後期
SP	406	CZ-13	柱痕跡を確認。本文記載。		B	Fig. 128-40~42が出土。	古墳後期
SP	407	CZ-14	柱痕跡を確認。本文記載。		B		古墳後期
SP	408	CZ-14	不整円形。径24~26cm、深さ10cm。	黒褐色シルトで、小指先大の黄褐色砂質土塊が点々と混じる。とくに下部に多い。	A		
SP	409	CZ-14	立柱痕跡を確認。本文記載。		B	Fig. 128-31・32が出土。	古墳後期
	410	SP-392に振り替え。欠番。					
SP	411	CY・CZ-13	立柱痕跡を確認。本文記載。		B	Fig. 128-37・38が出土。	古墳後期
SP	412	CY・CZ-13	SB-46の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	413	CY-13	略円形。径40cm、深さ6cm。SC-35・38を切る。南半部は攪乱溝で破壊。	小礫が所々に混じる褐色シルト。下部に径2~3cmの楕円形の黄褐色シルト塊が多く混じる。	B		

遺構		調査区	平面形状・規模・切合関係	埋土の特徴	埋土	出土遺物	時期
略号	番号						
SP	414	CY-12	略円形。径22～25cm、深さ6cm。SC-35・38を切る。	暗褐色シルト。上部には径1～2mmの礫が多く混じるが、下部には褐色シルトの小塊が多く混じる。	B	埋土上部から弥生土器の胴部細片1点出土。	
SP	415	CZ-12	略円形。径17～19cm、深さ4cm。SC-35を切る。	褐色シルト。下部を中心として黄褐色砂質シルトのレンズ状ブロックがみられる。所々に径1～2mmの礫が混じる。	A	弥生土器の胴部細片3点が出土。	
SP	416	CZ-13	立柱痕跡を確認。本文記載。		B	Fig.128-43～46が出土。	古墳後期
SP	417	CZ-13	不整な長円形。長径34cm、短径23cm、深さ7cm	暗褐色シルト。褐色シルトの楕円形やレンズ状の塊が混じる。	A	弥生土器の胴部小片1点が出土。	
SP	418	CZ-13	SB-62の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	419	CY-12	立柱痕跡を確認。本文記載。		B	Fig.128-35が出土。	古墳後期
SP	420	CY-12	立柱痕跡を確認。本文記載。		B		古墳後期
SP	421	CY-12	SC-38の床面で検出。底面はかなり凹凸があり、樹木根の跡か。	黒褐色シルトに、小指先大の黄褐色シルトの小塊が多く混じる。	A		
	422	SK-85に振り替え。欠番。					
SP	423	CX-14	SB-54の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
	424	SD-95に振り替え。欠番。					
SP	425	CX-14	略円形。径19cm、深さ10cm。	暗褐色砂質シルト。褐色シルトの薄いレンズ状ブロックが上部にやや多くみられる。	A		
SP	426	CX-14	円形。径25～30cm、深さ20cm。东半部は調査区外。	黒褐色砂質土。	A	弥生土器の胴部細片～小片4点が出土。	
SP	427	CX-14	略円形。径48～54cm、深さ9cm。	暗褐色砂質土。径2～3mmの楕円形の黄褐色シルト塊が多く混じる。	A	弥生土器の胴部小片3点（R-1725）が出土。	
SP	428	CY-14	SB-49の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	429	CY-14	立柱痕跡を確認。本文記載。		B	Fig.131-1～3が出土。	古墳後期
SP	430	CY-14	SB-49の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	431	CY-14	SB-59の柱穴。本文記載。		B	敲石（Fig.127-4）が出土。	古墳後期
SP	432	CY-15	SB-42の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	433	CY-15	長円形。長径45cm、短径28～29cm、深さ12cm。	径2～3mmの砂礫が上部に多く混じる暗褐色砂質土。幅1～2cmのにぶい黄褐色シルトのレンズ状ブロックが少量みられる。	B	二次的火熱をうけて赤変した弥生土器の胴部小片1点、径3～5mmの炭化物片が少量出土。	
SP	434	CY-12	SB-45の柱穴。本文記載		B		古墳後期
SP	435	CY-12	SB-45の柱穴。本文記載		B		古墳後期
SP	436	CY-12	略円形。径26cm、深さ8cm。	黒褐色砂質シルトに、大粒の黄褐色シルト塊が多く混じる。	A		
SP	437	CY-12	柱痕跡を確認。本文記載。		A		弥生
SP	438	CY-12	略円形。径15～17cm、深さ10cm。	黒褐色砂質シルトに、大粒の黄褐色シルト塊が多く混じる。	A	弥生土器もしくは土師器の胴部小片1点が出土	
SP	439	CX-12	長円形。長径22cm、短径17cm、深さ9cm。	黒褐色シルト。	A	弥生土器の胴部小片3点が出土。	
SP	440	CY-13	SC-38の柱穴。本文記載。		A		弥生中期
SP	441	CY-13	略円形。径16～18cm。深さ11cm。SC-38の床面で検出。	黒褐色シルトに、径1cmの黄褐色シルト塊がわずかに混じる。	A		
SP	442	CY-13	略円形。径28cm。深さ7cm。SC-38の床面で検出。撹乱で南半部が破壊。	黒褐色シルトで、径1cmの丸い黄褐色シルト塊がわずかに混じる。	A	土師器もしくは弥生土器の小片1点が出土。	
SP	443	CY-13・14	柱痕跡を確認。本文記載。		B	Fig.131-4が出土。	古墳後期
SP	444	CX-14	柱痕跡を確認。本文記載。			Fig.131-5、鉄滓残片（Fig.89-8）が出土。	古墳後期
	445	SK-86に振り替え。欠番。					
SP	446	CY-15	SB-42の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	447	CY-14	SA-59の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
	448	II層を埋土とする撹乱を誤認。欠番。					
SP	449	CY・CZ-14	略円形。径30～31cm、深さ6cm。	暗褐色砂質土。幅2～3cmの褐色シルトのレンズ状ブロックが少量みられる。	A	弥生土器の胴部細片2点、径2～3mmの粒状の炭化物片がごく少量出土。	
	450	SD-95のCY-14区北側の延長部分。欠番。					
SP	451	CX-14	円形。径45cm、深さ6cm。杭状の小穴。東半部は調査区外。	暗褐色砂質シルト。径5cmの楕円形の褐色砂質シルト塊が混じる。	A		
SP	452	CX-14・15	円形。径35cm、深さ15cm。東半部は調査区外。	部分的にやや粘性をおびる暗褐色砂質土。幅1～2cmの褐色シルトのレンズ状ブロックが少量みられる。	A	弥生土器の甕口縁部（Fig.131-6）、胴部小片1点、長さ4.5cm、幅3.8cm、厚さ1.8cm前後の扁平な餅形の花崗岩円礫が出土。	弥生
SP	453	CX-13	柱痕跡を確認。本文記載。		A		弥生
SP	454	CX-13	柱痕跡を確認。本文記載。		A		弥生
SP	455	CX-13	SB-54の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	456	CX-13	柱痕跡を確認。本文記載。		A		弥生
SP	457	CX-13	柱痕跡を確認。本文記載。		A	Fig.131-7・8が出土。	弥生
SP	458	CX-13	SB-44の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	459	CX・CY-13	柱痕跡を確認。本文記載。		A		弥生
SP	460	CZ-12	略円形。径18～20cm、深さ6cm。	にぶい黄褐色シルトの中に、径1～2cmの褐色シルト塊が多く混じる。			
SP	461	DB-15	立柱痕跡を確認。本文記載。		B	Fig.131-9が出土。	古墳後期
SP	462	CX-13	略円形。径20cm、深さ15cm。东半部は撹乱溝で破壊。	暗褐色砂質土。褐色シルトの薄いレンズ状ブロックがやや多くみられる。	A		

遺構 略号	番号	調査区	平面形状・規模・切合関係	埋土の特徴	埋土	出土遺物	時期
SP	463	CY-13	不整な楕円形。長径46cm、短径36cm、深さ9cm。	径2～3mmの角礫が多く混じる暗褐色砂質土。褐色シルトのレンズ状ブロックが少量含まれる。	B	古墳前～中期の小型丸底壺と考えられる肩部片、径5mmの角張った炭化物片が少量出土。	
SP	464	CY-13	柱痕跡を確認。本文記載。		B		古墳後期
SP	465	CY-13	略円形。径15～17cm、深さ28cm。SC-38の床面で検出。	暗褐色砂質土。褐色シルトのレンズ状ブロックが多くみられる。	A	弥生中期の高坏脚部片（Fig. 131-10）、甕や壺の胴部破片が4点出土。	
SP	466	CY-13	略円形。径29～30cm、深さ21cm。SP-480を切る。	径2～3mmの礫が混じる暗褐色砂質土。褐色シルトのレンズ状ブロックが多くみられる。	B	内面にケズリ調整を施した弥生中期の甕の胴部小片1点（R-1785）が出土。	
SP	467	CX-13	SB-44の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	468	CX-13	略円形。径49～51cm、深さ9cm。	径3～5mmの礫が多く混じる暗褐色砂質土。幅2～3cmの褐色シルトのレンズ状ブロックが多い。	B	弥生土器の胴部小片1点が出土。	
SP	469	CX-13	略円形。径15～17cm、深さ18cm。	径2～3mmの礫がごく少量混じる暗褐色砂質土。	A	弥生後期後葉の壺底部片（Fig. 131-11）と胴部細片1点が出土。	
SP	470	CY-13	略円形。径25～27cm、深さ5cm。	径3～5mmの礫が多く混じる暗褐色砂質土。径1～2cmの楕円形の褐色シルト塊が多く含まれる。	B		
SP	471	CY-13	略円形。径43～45cm、深さ8～9cm。南側は、SK-36に切られ破壊。	径2～3mmの角礫が多く混じる暗褐色砂質土。褐色シルトのレンズ状ブロックがやや多くみられる。	B	土器細片1点、径2～3mmの粒状の炭化物片がやや多く出土。	古墳後期
SP	472	CY-13	略円形。径22～23cm、深さ18cm。撹乱溝の底面で検出。	暗褐色砂質土。褐色シルトのレンズ状ブロックが少量含まれる。	A	弥生土器の鉢口縁部片（Fig. 131-12）、胴部細片2点が出土。	弥生
SP	473	CY-13	SB-46の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	474	CY-14	SB-43の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	475	CY-14	略円形。径43～46cm、深さ9cm。西側に深さ6cmほどの小穴状の窪みがある。	暗褐色砂質土。径2～3cmの楕円形の褐色シルト塊が多く混じる。	A	弥生後期初頭～前葉の高坏の口縁部と考えられる破片、弥生中期の甕口縁部破片、大形壺や甕の胴部細片～小片が7点が出土。	
SP	476	CY-12・13	略円形。径49～51cm、深さ11cm。SC-38の床面で検出。	径3～5mmの角礫が多く混じる暗褐砂質土。径1～3cmの楕円形の褐色砂質土塊が多くみられる。	B	弥生土器の胴部小片が数点出土。	
SP	477	CY-13	楕円形。長径25cm、短径20cm、深さ14cm。SC-35床面での検出だが、本来はSC-35を切る。	径2～3mmの角礫が多く混じる暗褐色砂質土。褐色シルトの薄いレンズ状ブロックが少量みられる。	B	埋土最上部から弥生後期と考えられる胴部細片が1点出土。	
	478	SD-96に掘り替え。欠番。					
SP	479	CX・CY-13	略円形。径77cm、深さ8cm。皿状。SP-480を切る。	暗褐色砂質土。	A		
SP	480	CX-13	略円形。径80cm、深さ12cm。SD-96とSP-466・479に切られる。	黒褐色砂質土。暗褐色砂質土がブロックで混入。	A	土器細片1点が出土。	
SP	481	CY-13	不整楕円形。長径32cm、短径28cm、深さ17cm。SP-477と切り合うが、先後関係は不明。	径2～3mmの礫が少量混じる暗褐色砂質土。	B	弥生土器の大形壺の胴部破片が出土。	
SP	482	DD-14	立柱痕跡を確認。本文記載。		A		弥生
SP	483	DD-14	立柱痕跡を確認。本文記載。		B		古墳後期
SP	484	DD-14	立柱痕跡を確認。本文記載。		B		古墳後期
SP	485	DD-14	大型の小穴。本文記載		A		弥生
SP	486	DD-14	立柱痕跡を確認。本文記載。		A	Fig. 131-14、敲石（Fig. 130-1）が出土。	弥生
SP	487	DD-14・15	立柱痕跡を確認。本文記載。		A	Fig. 131-15・16が出土。	弥生
SP	488	DD-14	略円形。径60～68cm、深さ9cm。SC-14床面で検出。	黒褐色砂質シルト。ごく少量の小指先大の黄褐色シルト塊が混じる。	A	弥生中期後葉の壺口縁部（Fig. 131-17）が出土。	
	489	SK-99に掘り替え。欠番。					
SP	490	DD-14	長円形。長径34cm、短径28cm、深さ50cm。SC-14床面で検出。	黒褐色砂質シルト。径1～2cmの拉げた黄褐色シルト塊が混じる。黄褐色シルト塊は下部ほど多い。	A	弥生土器の胴部小片4点が出土。	
SP	491		本文記載。		A	Fig. 132-1～6が出土。	
SP	492	DD-14	略円形。径37～39cm、深さ14cm。SC-15の床面で検出。SC-14を切る。	暗褐色砂質土。褐色シルトの薄いレンズ状ブロックがごく少量みられる。	A	弥生土器の胴部細片1点が出土。径5mmの角張った炭化物片がごく少量出土。	
SP	493	DB-13	円形。径30cm、深さ25cm。SC-25の床面で検出。柱穴のSP-251に切られる。	径3～5mmの礫が多く混じる黒褐色砂質土。褐色シルトのレンズ状ブロックが少量みられる。	B	弥生時代の甕口縁端部片1点、胴部細片2点、炭化物片少量が出土。	
	494	SK-87に掘り替え。欠番。					
SP	495	DA-12	略円形。径40～41cm、深さ8cm。SK-29の上面で確認。SK-29を切る。	径2～3mmの礫が多く混じる暗褐色砂質土。褐色砂質シルトのレンズ状ブロックが少量みられる。	B	弥生土器の胴部細片2点、径5mmの角張った炭化物片が少量出土。	
SP	496	DA-13	不整円形。径27cm、深さ8cm。SK-87に切られる。	径3～4mmの礫が多く混じる暗褐色砂質土。	B	土器細片、径5mmの角張った炭化物片が少量出土。	
SP	497	DD-14	本文記載。		A	鉄滓残片（Fig. 89-7）が出土。	古墳後期
	498	SC-17の出入り口部分としたため欠番。					
SP	499	CZ-14	SC-33の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	500	DA-14	立柱痕跡を確認。本文記載。		B	Fig. 131-20～22が出土。	古墳後期
SP	501	CY-13	略円形。径25cm、深さ11cm。撹乱溝の底面で検出。	径2mm前後の礫が少量混じる暗褐色砂質土。にぶい黄褐色砂質土のレンズ状ブロックが少量みられる。部分的に粘性をおびる。	A		

遺構 略号	遺構 番号	調査区	平面形状・規模・切合関係	埋土の特徴	埋土	出土遺物	時期
SP	502	CZ-15	立柱痕跡を確認。本文記載。		B	Fig.131-23が出土。	古墳後期
SK	503	DB-13	SC-25の竈前置土坑。本文記載		B		古墳後期
SP	504	CZ-15	略円形。径37～41cm、深さ5cmの皿状の小穴。	径2～3mmの礫が多く混じる暗褐色砂質土。褐色シルトの薄いレンズ状ブロックがやや多く含まれる。	B	径2～3mmの粒状の炭化物片がごく少量出土。	
SP	505	CZ-14	略円形。径46cm前後、深さ5cmの皿状の小穴。SP-506に切られる。	にぶい黄褐色砂質土に、径2～3cmの楕円形の褐色シルト塊が多く混じる。	B	径2～3mmの粒状の炭化物片がごく少量出土。	
SP	506	CZ-14	長円形。長径29cm、短径25cm、深さ9cm。SP-505を切る。	暗褐色で、にぶい黄褐色砂質土が多く混ざる。	A	弥生中期末～後期初頭の甕口縁部(Fig.131-24)、壺肩部破片(Fig.131-25)、胴部細片～小片7点が出土。	
SP	507	DC-15	SC-22の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	508	DC-14	長円形。長径35cm、短径30cm。	黒褐色シルト。径2～3cmの黄褐色シルト塊が多く混じる。	A		
SP	509	DC-14	隅丸方形。一辺62cm前後、深さ4～5cm。浅い舟底状の小穴。SC-18に切られる。	黒褐色シルト。径2～4cmの黄褐色シルト塊が多く混じる。	A		中世
SP	510	DD-15	立柱痕等を確認。本文記載。		A	Fig.131-19が出土。	中世
SP	511	DD-15	略円形。径19～21cm、深さ12～13cm。	黒褐色シルト。	A	弥生中期の甕底部(図化)、壺肩部細片1点が出土。	
SP	512	DC-14	SC-16の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	513	DC-14	SC-16の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	514	DC-14	長円形。長径36cm、短径31cm、深さ26cm。SC-16床面で検出。	黒褐色シルト。	A	弥生土器もしくは土師器の胴部細片2点)が出土。	
SP	515	DC-14	長円形。長径47cm、短径35cm、深さ13cm。SC-16を切る。	暗褐色砂質土。径1cmの楕円形のにぶい黄褐色砂質土塊がごく少量混じる。	A	弥生土器の甕胴部片1点、長さ5.5cm、幅4.5cm、厚さ2.5cmの花崗岩の円礫(R-1361)が出土。	
SP	516	DC-14	長円形。長径68cm、短径44cm、深さ6cm。SC-16を切る。	黒褐色シルト。径2～3cmの黄褐色シルト塊が多く混じる。	A		
SP	517	DC・DD-14	不整形。長さ55cm、推定幅45cm、深さ4cm。SC-21床面で検出。SP-187に切られる。	黒褐色シルトに、径2～3cmの黄褐色シルト塊が多く混じる。	A		
SP	518	CZ-14	不整円形。径35～37cm、深さ9cm。SK-36の床面で検出。	径1～2mmの礫がまばらに混じる褐色砂質シルト。径1cmの丸い黄褐色シルト塊が所々に混じる。	A		
SP	519	CY-14	立柱痕跡を確認。本文記載。		B	Fig.131-26、砥石(Fig.127-6)が出土。	古墳後期
SP	520	CZ-14	略円形。径31cm、深さ27cm。SK-36を切る。南半部は攪乱で破壊されている。	上部に径2～3mmの礫が多く混じる暗褐色シルト。径5mmの粒状の黄褐色シルト塊が多く含まれる。	B	径5mmの角張った炭化物片が少量出土。	
	521	SD-97に振り替え。欠番。					
SP	522	CZ-13	円形。径22～24cm、深さ3cm。攪乱溝の底面で検出。	暗褐色砂質土。径1～2cmの褐色シルトのレンズ状ブロックがやや多くみられる。	A		
SP	523	CZ-13	不整な長円形。長径42cm、短径35cm、深さ4cm。浅皿状。	暗褐色砂質土。褐色シルトの薄いレンズ状ブロックがごく少量みられる。	A	径5mmの角張った炭化物片がごく少量出土。	
SP	524	CZ-13	円形。径34～36cm、深さ10cm。	暗褐色砂質土。径1～2cmの褐色シルトのレンズ状ブロックが少量みられる。	A	径5mmの角張った炭化物片がごく少量出土。	
SP	525	CY-12	略円形。径25cm、深さ33cm。SD-97を切り、SP-526に切られる。	暗褐色砂質土。褐色シルトのレンズ状ブロックがごく少量みられる。	A	弥生中期後葉の甕(Fig.131-27)、胴部小片8点、径5mmの角張った炭化物片がごく少量出土。	
SP	526	CY-12・13	略円形。径21cm、深さ15cm。SP-252を切る。	暗褐色砂質土。褐色シルトのレンズ状ブロックがごく少量みられる。	A	土器の細片が出土。	
SP	527	CY-13	不整長円形。長径34cm、短径21cm、深さ20cm。SC-38床面で検出。	暗褐色砂質土。径3～10cmの楕円形の褐色シルト塊が多く混じる。	A	土器細片が出土。	
SP	528	DC-12・13	柱痕跡を確認。本文記載。		B	Fig.131-28～30が出土。	中世
SP	529	DC-12・13	柱痕跡を確認。本文記載。		B	Fig.131-31・32が出土。	中世
SP	530	CZ-12	略円形。径40cm、深さ20cm。SC-28・30を切る。	径2～3mmの礫が多く混じる暗褐色砂質土。埋土中位には、幅2～6cmの褐色シルトの薄いレンズ状ブロックが帯状に集中してみられる。	B	須恵器の甕胴部片(Fig.131-33)、弥生土器の胴部小片20点前後、土師器細片2点、長さ8cm、幅4.8cm、厚さ2cmの扁平な花崗岩円礫(R-3810)、径2～5mmの細長い炭化物片がごく少量出土。	
SP	531	CZ-12	略円形。径36～39cm、深さ16cm。	径3～5mmの礫が多く混じる暗褐色砂質土。	B	古墳後期と考えられる土師器の甕胴部片6点、花崗岩円礫を用いた敲石(Fig.127-5)が出土。径3mmの炭化物片が多くみられる。	
SP	532	DA-12	SC-30の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	533						
SP	534	DB-14	柱痕跡を確認。本文記載。		B		古墳後期
SP	535	DB-14	柱痕跡を確認。本文記載。		B		古墳後期
SP	536	CY-13	長円形。長径35cm、短径33cm、深さ18cm。SC-38の床面で検出。	暗褐色砂質土。中部に径2～3cmの楕円形の褐色シルト塊が多く混じる。	A	弥生土器の胴部細片が1点出土したのみ(R-1393)。図化できなかった。	
SP	537	CZ-14	柱痕跡を確認。本文記載。		A		弥生中期～古墳中期

遺構 略号	番号	調査区	平面形状・規模・切合関係	埋土の特徴	埋土	出土遺物	時期
SP	538	CZ-14	長円形。径12～15cm、深さ14cm。SC-33の床面で検出。	暗褐色砂質土。褐色シルトの薄いレンズ状ブロックが少量みられる。	A	土器細片1点、径5mmの角張った炭化物片が多く出土。	
	539	SC-28の埋土の一部を誤認。欠番。					
	540	II層を埋土とする撹乱を誤認。欠番。					
	541	撹乱底面の窪みを誤認。欠番。					
SP	542	DB-13	不整円形。径25～26cm、深さ5cm。SP-555を切る。	暗褐色砂質土。礫が少量混じる。幅1～3cmの褐色シルトのレンズ状ブロックが少量みられる。	A	弥生土器もしくは土師器の胴部小片2点）が出土。	
SP	543	CY-13	円形。径14cm。	暗褐色砂質シルト。	A	内面に刷毛目調整を施した胴部細片1点、胴部細片1点、敲石（Fig. 127-8）残片が出土。	
	544	欠番。					
SP	545	DB-14	SA-20を構成する小穴。本文記載。		B	Fig. 131-37・38が出土。	古墳後期
SP	546	DB-14	SA-20を構成する小穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	547	CZ-14	略円形。径16～18cm、深さ25cm。SC-33床面で確認。	径1～2mmの礫がごく少量混じる暗褐色砂質土。褐色シルトの薄いレンズ状ブロックが少量みられる。	B	径1cmの角張った炭化物片が少量出土。	
SP	548	CZ-14	柱痕跡を確認。本文記載。		A		弥生中期～古墳中期
SP	549	CZ-14	細長い楕円形。長径45cm、短径23cm、深さ13cm。SC-33床面で確認。	暗褐色砂質土。褐色シルトのレンズ状ブロックが少量みられる。	A		
SP	550	CZ-15	柱痕跡を確認。本文記載。		A		弥生中期～古墳中期
	551	SC-28の埋土の一部を誤認。欠番。					
	552	SK-88に振り替え。欠番。					
SP	553	DB-14	立柱痕跡を確認。本文記載。		B	Fig.131-39が出土。	古墳後期
SP	554	DB-13	略円形？ 推定径30～40cm、深さ11cm。SP-249に切られ、ごく一部が残存する。	径2～5mmの礫が多く混じる暗褐色砂質土。褐色シルトの薄いレンズ状ブロックが少量みられる。	B	弥生土器もしくは土師器の胴部小片4点、径1cmの角張った炭化物片がごく少量出土。	
SP	555	DB-13	不整形。径80cm、深さ8cm。舟底状の小穴。SP-256・549・549に切られる。	径5mm前後の礫が多く混じる暗褐色砂質土。径1～2cmの楕円形の褐色シルト塊が多く含まれる。	B	土師器甕の口縁部細片（Fig. 131-36）、弥生土器ないし土師器の胴部細片6点が出土。	
SP	556	DB-14	SA-20を構成する小穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	557	CZ-14	円形。径29～30cm、深さ4～5cm。SC-33に切られる。	黄褐色シルトの中に、径1～2cmの楕円形の黒褐色シルト塊が多く混じる。径1mmの礫が部分的にかたまっているが、それほど砂礫は目立たない。	B	土器細片が1点出土。時期不明。	
	558	SK-89に振り替え。欠番。					
SP	559	CY-13・14	長円形。長径45cm。SK-36に切られる。	暗褐色シルト。径1cmほどの楕円形の褐色シルト塊が多く混じる。	A		
SP	560	CY-14	略円形。径18～20cm、深さ25cm。SK-36の床面で検出。	暗褐色シルトで、径1cmの楕円形の褐色シルト塊が多く混じる。	A		
SP	561	CZ-12	立柱痕跡を確認。本文記載。		B	Fig. 132-7が出土。	古墳後期
SP	562	CZ-12	略円形。径45cm、深さ31cm。SD-3の底面で確認。SP-579を切る。	径3～5mmの礫が多く混じる暗褐色砂質土。褐色砂質土のレンズ状ブロックがごく少量みられる。	A	径5mmの角張った炭化物片ほかが少量出土。	
SP	563	DA-12	略円形。径44～47cm、深さ9cm。SD-3の底面で確認。	径2～5mmの礫が多く混じる暗褐色砂質土。	B		
SP	564	DA-11	略円形。径30～31cm、深さ11cm。SD-3の底面で確認。	径2～3mmの礫がやや多く混じる暗褐色砂質土。	B	弥生土器の甕と胴部小片4点（R-1836）が出土。	
SP	565	DB-12	略円形。径43cm、深さ12cm。SD-3の底面で確認。	径2～3mmの礫が多く混じる暗褐色砂質土。径1mmの楕円形の褐色シルト塊がやや多く含まれる。	B	弥生土器の底部小片1点、径5mmの角張った炭化物片が少量出土。	
SP	566	DB-11	略円形。径25cm、深さ17cm。SD-3の底面で確認。	径2～3mmの礫が多く混じる暗褐色砂質土。	B		
SP	567	DB-12	SB-47の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	568	DB-14	SA-20を構成する小穴。本文記載。		B		古墳後期
	569	SK-19に振り替え。欠番。					
SP	570	DC-13	不整な長円形。長径43cm、短径38cm、深さ14cm。	径2～3mmの礫が多く混じる暗褐色砂質土。褐色シルトのレンズ状ブロックがやや多くみられる。	B	径5mmの角張った炭化物片が少量出土。	
SP	571	DA-12・13	立柱痕跡を確認。本文記載。		A		弥生
SP	572	CZ-14	長円形。長径19cm、短径13cm、深さ5cm。	砂礫が多く混じる暗褐色砂質土。径5mmほどの丸い褐色シルト塊が多く混じる。	B		
SP	573	DC-14	SC-16床面で検出。SC-16に伴う何らかの施設か？ 本文記載。	径2mm前後の小礫が多く混じる暗褐色砂質土。	B	弥生土器の細片6点が出土。	
SP	574	CZ-12	略円形。径21cm、深さ7cm。SC-30に切られる。SC-34床面で検出したが、切る。	径1mmの礫が多く混じる暗褐色シルト。径1cmの拉げた楕円形の褐色シルト塊が少量含まれる。	B		
SP	575	CZ-12・13	長円形。長径45cm、短径40cm、深さ22cm。SC-28に切られ、SC-30を切る。	小礫が非常に多く混じる褐色砂質シルト。小指先大の拉げたにぶい黄褐色シルト塊が点々と含まれる。埋土中位に焼土を含む小礫混じりの褐色砂質シルトのレンズ状ブロックがみられる。	B	弥生土器の胴部小片3点が出土。	
SP	576	CZ-13	略円形。径57cm、深さ24cm。SC-28・30を切る。	小礫が多く混じる褐色砂質シルト。埋土下部には、径1～3cmの横に拉げた楕円形の黄褐色砂質シルト塊が点々と混じる。	B	弥生土器の小へ6点が出土。炭化物片が多く出土。	
SP	577	CZ-14	長円形。長径28cm、短径26cm、深さ6cm。	暗褐色砂質シルトで、径1～2cmの楕円形の黄褐色シルト塊がごく少量混じる。	A		

遺構		調査区	平面形状・規模・切合関係	埋土の特徴	埋土	出土遺物	時期
略号	番号						
SP	578	CZ・DA-11	不整な長円形。長径45cm、短径29cm、深さ13cm。SD-3の底面の深みか。	灰褐色砂。		弥生土器もしくは土師器の胴部小片2点、須恵器胴部小片1点が出土。	
SP	579	CZ-12	不整な円形。径65cm、深さ25cm。SD-3底面の深みか。SP-562に切られる。	灰褐色砂。		弥生土器片、古墳時代後期の土師器・須恵器の胴部片、赤切り底の土師器底部片、緑色片岩の石片（Fig. 127-2）、石広丁破片（Fig. 127-3）が出土。	中貝
SP	580	CZ-12	不整な楕円形。長径36cm、短径21cm、深さ13cm。SD-3底面の深みか。	灰褐色砂。		古代末～中世前半の須恵質土器の胴部片（Fig.132-9）が出土。	中貝
SP	581	DC-14	柱底跡を確認。本文記載。		A		弥生
	582	SP-419の掘り残し部分を誤認。欠番。					
SP	583	DD-15	立柱底跡を確認。本文記載。		A	Fig. 132-10・11が出土。	弥生
SP	584	DB-14	立柱底跡を確認。本文記載。		A		弥生
	585	SP-344の掘り残し部分を誤認。欠番。					
SP	586	DB-15	SC-22の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	587	DC-15	SC-18の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	588	CB-15	SC-18の柱穴。本文記載。		B		古墳後期
SP	589	DA-14	SC-27の柱穴。本文記載。		A		弥生後期
SP	590	DA-14	楕円形。径52～53cm、深さ30cm。SC-27を切る。	径3～6mmの礫が多く混じる黒褐色砂質土。褐色シルトの薄いレンズ状ブロックがごく少量含まれる。	B	径5mmの角張った炭化物片や、径2～3mmの粒状の炭化物片がごく少量出土。	
SP	591	DA-13	楕円形。径24～26cm、深さ7cm	暗褐色砂質シルト。	A		
SP	592	DG-13	不整円形。径35～38cm、深さ2cm。浅い皿状の深み。	暗褐色砂質土。径2～3cmの楕円形の褐色シルト塊が多く混じる。	B	弥生土器もしくは土師器の胴部細片～小片4点が出土。	
SP	593	DA-13	円形。径17～19cm、深さ7cm。SC-28の床面で検出。	暗褐色砂質シルト。	A		
SP	594	DA-13	不整円形。長径45cm、短径43cm、深さ13cm。SC-28の床面で出土。	砂礫混じりの暗褐色砂質シルト。	B		
SP	595	DB-14	円形。径20～21cm、深さ5cm。	暗褐色砂質土。径1～3cmのにぶい黄褐色砂質土塊が多く混じる。	A		
SP	596	CY-12	円形。径26cm、深さ7cm。SC-38の床面で検出。	埋土の観察を行っていない。			
SP	597	DA-13	長円形。長径34cm、短径32cm、深さ22cm。SC-28の床面で検出。	暗褐色砂質シルト。	A		
SP	598	DG-12	長円形。推定径35cm前後。南半部は調査区外にのびる。SD-60を切る。	砂礫混じりの暗褐色砂質土。	B		
SP	599	CY-14	18×22cmの楕円形。	暗褐色砂質土。径3cmの楕円形の褐色シルト塊が多く混じる。	B	土器細片が出土。	
	600	Ⅱ層を埋土とする後乱を誤認。欠番。					
SP	601	DC・DD-14	長円形。長径33cm、短径25cm、深さ9cm。SC-21床面で検出。	暗褐色砂質土。褐色シルトの薄いレンズ状ブロックをごく少量含む。	A	径1cmの細長い炭化物片や、径2～3mmの粒状の炭化物片がごく少量出土。	
SP	602	DF-14	推定径55cm、深さ4cmほどの浅い不整形の皿状の小穴。SP-167との先後関係は不明。	黒褐色シルトで、下部に径2～4cmの丸い黄褐色シルト塊が多く混じる。	A	弥生時代中期後葉の壺や甕の細片が出土。	弥生
SP	603	DF-23	楕円形。長径36cm、深さ11cm。東半部は撹乱で破壊されている。	黒褐色砂質土。	A		
SP	604	DB-12	不整円形。径27～29cm、深さ20cm。SD-3の底面で検出。	暗褐色砂質シルト。	A		
SP	605	DA-12	楕円形。径30cm、深さ14cm。SD-3の底面で確認。	砂礫混じりの黒褐色砂質土。	B		
SP	606	DD-13	長円形。長径30cm、短径19cm、深さ25cm。SD-2の底面で検出。	粗砂が詰まる。			古代末～中世前期
SP	607	DD-13	円形。径18cm、深さ7cm。SD-2の底面で検出。	粗砂が詰まる。			古代末～中世前期
SP	608	CZ-12	楕円形。径30cm、深さ14cm。SD-3の底面で確認。	砂礫混じりの黒褐色砂質土。	B		
SP	609	DB-14	楕円形。径35cm、深さ13cm。	暗褐色砂質シルト。小数先大のにぶい黄褐色シルト塊が点々と混じる。	A		
SP	610	CZ-12	SC-30の柱穴。本文記載。		B		
SP	611	CZ-13	SC-30の柱穴。本文記載。		B		

巻末表２　文京遺跡13次調査出土土器類・陶磁器類観察表

挿図遺物番号		出土遺構	出土層位・調査区	種類	器種	形状・器面調整・胎土・焼成などの特徴	遺物登録番号	収納コンテナ
Fig. 8	1	SC-5上部	DG-21-2区Ⅲ層上部	弥生土器	壺	複合口縁の縁部の破片。粘土接合面で剥離。外面は横ナデ。	R-5137	1
	2	〃	DG-21-2区Ⅲ層上部	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ。	R-5136	1
Fig. 11	1	SC-6	埋土	弥生土器	甕	外面は二次的な火熱を受けて赤変。内底面には煮焦げの痕と考えられる炭化物の吸着がみられる。器面が荒れて調整は不明であるが、底部端内面には指オサエ痕が残る。	R-6135	2
	2	〃	埋土	弥生土器	甕	外面は刷毛目調整、内面は植物の茎束によって掻き上げている。上げ底内面には指頭痕と刷毛目工具痕が残る。	R-5001	2
	3	〃	埋土	弥生土器	高坏	外面は器面が荒れ、調整は不明。坏部内面は四方から時計回りにミガキ調整を施す。中央部はナデ調整。	R-5084	2
Fig. 13	1	SC-6上部	DG-19-17区Ⅲ層下部	弥生土器	壺	口縁端面に３条の凹線文を一気に施す。凹線文の断面は、凹部が「U」字形で沈線に近い。内外面ともに横ナデ。	R-5089	2
	2	〃	DG-19-12区Ⅲ層最下部	弥生土器	壺	口縁端面に２条の凹線文を施す。凹線文の断面は凹部が浅く波状状である。外面は横ナデ。内面は器面が荒れ調整は不明。	R-3643	2
	3	〃	DG-19-12区Ⅲ層最下部	弥生土器	壺	内外面ともに横ナデ。	R-5011	2
	4	〃	DG-19-11区Ⅲ層上部	弥生土器	壺	複合口縁壺。外面は荒れが進み調整の仔細不明。内面は横ナデ。頸胴部境の内面には粘土接合痕が残る。	R-5004	2
	5	〃	DG-19-16区Ⅲ層上部	弥生土器	壺	口縁端部上面に粘土を貼り付けて肥厚させ,口縁端面に箆状工具で「ハ」字形に斜線文を施す。内外面とも器面が荒れ、調整不明。	R-5007	2
	6	〃	DG-19-11区Ⅱ層中部	弥生土器	甕	口縁端部を摘み上げるように横ナデ。	R-5006	2
	7	〃	DG-19-2区Ⅱ層中部	弥生土器	甕	内外面は横ナデ。口縁屈曲部に箆状工具で刻目を施す突帯を貼付。	R-5003	2
	8	〃	DG-19-15区Ⅱ層下部	弥生土器	甕	口縁端部を上方に拡張し、３条の凹線文を巡らす。上方の凹線文２条の幅は狭く、凹凸の境が曖昧で浅い。内外面ともに横ナデで、特に口縁屈曲部外面は強くナデ。	R-5002	2
	9	〃	DG-19-12区Ⅱ層下部	弥生土器	甕	胴部内外面はミガキ、口縁屈曲部付近はミガキの後にナデ調整。口縁部は横ナデ調整。	R-5005	2
	10	〃	DG-19-12区Ⅱ層中部	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ。内面には黒斑が生じている。	R-5087	2
	11	〃	DG-19-11区Ⅱ層中部	弥生土器	甕	外面は板状工具による縦方向のナデ、内面は指頭によるナデ。	R-5086	2
	12	〃	DG-19-16区Ⅱ層下部	弥生土器	高坏	やや内湾気味の口縁部外面に４条の凹線文を巡らす。凹線文の断面は凹部が「U」字形で沈線に近い。	R-5008	2
	13	〃	DG-19-21区Ⅱ層中層	弥生土器	高坏	坏部外面には横方向のミガキ調整と考えられる痕跡がごく一部残る。坏部内面～口縁部端部は丁寧な横ナデ。	R-5010	2
	14	〃	DG-19-12区Ⅱ層最下部	弥生土器	高坏	貫通する矢羽根透孔が１ヶ所残存。内外面ともに横ナデ。	R-5088	2
	15	〃	DG-19-11区Ⅱ層上部	須恵器	坏蓋	口縁部内面には浅く小さな段が巡る。内外面ともに回転横ナデ。	R-5085	2
	16	〃	DG-19-21区Ⅱ層上層	土師器	皿	口縁部～胴部は内外面ともに回転横ナデ。外底面には回転糸切り離し痕が残る。	R-5009	2
Fig. 16	1	SC-7上部	DG-17-21区Ⅱ層下部	弥生土器	壺	内外面ともに横ナデ。口縁端面に３条の凹線文が施される。口縁屈曲部に箆状工具で刻目を施した断面鋸歯形の粘土帯を貼付。	R-5066	6
	2	〃	DG-17-17区Ⅱ層下部	弥生土器	壺	内面は器面荒れ調整は不明、外面は横ナデ。口縁端面に２条の凹線文を一気に施す。凹線文の断面は「U」字形で沈線に近い。	R-5062	6
	3	〃	DG-17-21区Ⅱ層下部	弥生土器	壺？	内外面ともに器面が荒れ調整は不明。口縁端面に４条の凹線文を一気に施す。凹線文の断面は「U」字形で、沈線に近い。	R-5064	6
	4	〃	DG-17-16区Ⅱ層中部	弥生土器	壺	外面は横ナデ。内面は器面が荒れて調整不明。頸胴部境に断面三角形突帯を貼付。	R-5124	6
	5	〃	DG-17-21区Ⅱ層下部	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ。口縁部下に棒状工具で刺突した断面三角形突帯を貼付。	R-5113	6
	6	〃	DF-17-20区Ⅱ層中部	弥生土器	甕	口縁外面はナデ、その他は器面が荒れ、調整は不明。口縁部下に不整円形の刻目を施した断面三角形突帯を貼付。Pl. 15-①	R-5069	6
	7	〃	DG-17-16区Ⅱ層下部	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ。口縁上端を拡張し、２条の凹線文を施す。凹線文の凹凸は器面が荒れて不明瞭。口縁屈曲部に断面鋸歯形の突帯を貼り付け、爪で刻目を施す。	R-5061	6
	8	〃	DG-17-17区Ⅱ層最下部	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ。口縁端部に２条の凹線文を施す。２条の凹線文間の凸部は周辺より高く突出。口縁屈曲部に箆状工具で刺突文を巡らせる。	R-5063	6
	9	〃	DF-18-5区Ⅱ層中部	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ。口縁端面は強い横ナデによって窪む。口縁屈曲部に細い粘土紐を押しつぶすように貼り付けて刻目を施す。	R-5106	6
	10	〃	DG-17-22区Ⅱ層中部	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ。口縁端面は強い横ナデによって窪む。口縁屈曲部に箆状工具で刻目を施した突帯を貼付する。	R-5125	6
	11	〃	DG-17-22区Ⅱ層中部	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ。口縁部内面に黒斑が生じている。	R-5067	6
	12	〃	DG-18-1区Ⅱ層中部	弥生土器	甕	雑で強い横ナデのため口縁部幅は一定していない。内面は器面が荒れて調整不明。	R-5126	6
	13	〃	DG-17-16区Ⅱ層中部	弥生土器	？	内面は器面荒れのため調整不明。外面はナデ。	R-5060	6
	14	〃	DG-17-21区Ⅱ層上部	弥生土器	壺	ミニチュア土器。内外面ともに指頭によるナデ調整。手捏ね成形。	R-5112	6
	15	〃	DG-17-21区Ⅱ層上部	弥生土器	甕	脚台状の上げ底。外面、内面胴部下半～底部は器面の荒れが著しく調整不明。上げ底内面は横ナデ調整。内底面には黒斑が生じている。	R-5120	6
	16	〃	DG-17-21区Ⅱ層下部	弥生土器	甕	胴部外面は刷毛目調整。内面～底部内外面は指先によるナデ。内外面に黒斑。	R-5065	6
	17	〃	DG-17-11区Ⅱ層下部	弥生土器	高坏	内外面ともに器面が荒れて調整は不明。脚端部の外面に３条、脚端部に２条の凹線文が巡る。	R-5123	6
	18	〃	DG-17-16区Ⅱ層上部	須恵器	短頸壺or鉢	内外面ともに回転横ナデ調整。外面の胴部中位にはカキメが施される。頸胴部の境界に細い沈線が１条巡る。	R-5059	6
Fig. 18	1	SC-8	埋土	弥生土器	壺	内外面ともに横ナデ仕上げ。横ナデに先行する板状工具によるナデ調整痕が部分的に残る。口縁端面に２条の凹線文をもつ。凹線文は波状状で、凹部は幅広く浅い。Pl. 15-③	R-5095	11
	2	〃	埋土	弥生土器	壺	内外面ともに横ナデ。口縁端部を上下に拡張して、３条の凹線文を巡らす。凹線文の断面は浅い「U」字形で、一本ずつ引かれ、継ぎ目が観察できる。施文の後に横ナデ調整。Pl. 15-②	R-5012	11

挿図遺物番号		出土遺構	出土層位・調査区	種別	器種	形状・器面調整・胎土・焼成などの特徴	遺物登録番号	収納コンテナ
Fig. 18	3	〃	埋土	弥生土器	壺	口縁端部を横ナデで拡張して、2条の沈線状の凹線文を巡らす。口縁部周辺に強い横ナデを施すために口縁下端に粘土がよれている。頸部外面には刷毛目が部分的に残る。PL 15-⑦	R-5092	11
	4	〃	埋土	弥生土器	壺	頸部外面は縦方向の刷毛目調整、後は横ナデ仕上げ。口縁端面に5条の凹線文が巡る。凹線文は一条ずつ引かれ、凹部の深さは一定せず、凹線文の継ぎ目が観察できる。PL 15-⑧	R-5014	11
	5	〃	埋土	弥生土器	壺	頸部の付け根付近の破片。低い帯状の突帯を貼付し、刷毛目工具の小口部を上下方向から押捺して、2段の刻目を施す。頸部外面は縦方向の刷毛目調整。内面は刷毛目を軽くナデ消す。指オサエ痕が残る。	R-5096	11
	6	〃	埋土	弥生土器	甕	口縁部の細片。内外面ともに横ナデ。	R-5094	11
	7	〃	埋土	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ。口縁屈曲部に断面三角形突帯を貼付し、刷毛目工具の小口の角部を押捺して刻目を施す。PL 15-⑥	R-5091	11
	8	〃	埋土	弥生土器	甕	口縁部外面～内面は横ナデ、胴部外面には部分的に横方向の刷毛目が残存。口縁屈曲部に粘土帯を貼付し、箆状工具を押捺して刻目を施す。	R-647	11
	9	〃	埋土	弥生土器	甕	口縁内外面は横ナデ、胴部外面と内面上半は刷毛目、内面下半はケズリ調整。口縁屈曲部下には、刷毛目工具の小口部を押捺して列点文を巡らす。PL 15-③	R-650	11
	10	〃	埋土	弥生土器	甕	口縁端部を上方に摘み上げるように強く横ナデするために端面が窪む。口縁屈曲部下に、線状の断面三角形突帯を貼付。口縁部～胴部外面は横ナデ、胴部内面には刷毛目調整。屈曲部付近には指頭痕が帯状に集中する。PL 15-②	R-664	11
	11	〃	埋土	弥生土器	壺or甕	内底面は指頭で押さえながらナデ上げる。外面は板状工具でナデ上げ。外底面に黒斑。	R-675	11
	12	〃	埋土	弥生土器	甕	内底面は草本類の茎束でナデ上げ。外面は板状工具でナデ。底部端部を摘むように指頭で押さえている。	R-5093	11
	13	〃	埋土	弥生土器	鉢	凸レンズ状の不安定な底部。胴部内面は草本類の茎束による擦過、外面は板状工具でナデ上げ、上半を指頭でナデ仕上げ。PL 15-④	R-649	11
	14	〃	埋土＋DG-13-18区Ⅲ層下部	弥生土器	鉢	内外面ともに横ナデ。肩部の内外面に板状工具を横方向にナデつけた痕跡が残る。肩部外面に箆状工具で短斜線文を施す。	R-5020	11
	15	〃	埋土	弥生土器	高坏	口縁部外面に、一気に6条の断面「U」字形の沈線状の凹線文を施し、その直下に刷毛目工具の小口部を押捺して刻目を巡らす。口縁部内外は丁寧な横ナデ、坏部は内面に刷毛目が部分的に残り、外面には縦方向のミガキのような痕跡が観察できる。PL 15-⑨	R-5016	11
	16	〃	埋土	弥生土器	高坏	外面は横ナデ、内面は荒れが著しく調整不明。坏部上半～口縁部の外面に不整形の黒斑。	R-5013	11
	17	〃	埋土	弥生土器	高坏	脚部に矢羽根透孔を穿孔。裾部に3条の凹線文を一気に巡らす。凹線文の凹部断面は「U」字形で沈線に近い。外面は丁寧な横ナデ、内面はケズリ調整の後に裾部を横ナデ。PL 15-⑩	R-5017	11
	18	〃	埋土	弥生土器	高坏	裾近くに円孔を焼成前に穿孔する。円孔の数は不明。内外面ともに横ナデ、外面はその上に縦方向のミガキを施す。	R-5018	11
	19	〃	埋土	須恵器	坏蓋	坏部中位に、小さくつまみ出すように突出する凸線が巡る。平坦な天井外面は回転ヘラケズリ、他は回転横ナデ。	R-5015	11
Fig. 19	1	SC-8	SK-126（炉跡）埋土	弥生土器	甕	口縁端面は強い横ナデによって窪む。内外面ともに横ナデ仕上げ。部分的に赤彩の痕跡。	R-5019	71
	2	〃	SK-127（炉跡）埋土	弥生土器	甕	口縁端部を横ナデで拡張し、2条の浅い沈線状の凹線文を施す。口縁部内外面は横ナデ。胴部外面は板状工具によるナデの後に、光沢をもたず幅2mmほどのミガキ様の調整痕が残る。内面は、草本類の茎束による掻き上げの後にケズリ。PL 15-⑪	R-690	71
Fig. 20	1	SC-8上部	DG-13-23区Ⅲ層上部	弥生土器	壺	口縁端面に箆状工具で切るように刻目を施す。口縁端面～内面に部分的に赤彩が残る。内面には黒斑が生じている。内外面ともに横ナデ仕上げ。	R-5021	11
	2	〃	DG-13-7区Ⅲ層上部	弥生土器	壺	口縁端部を強い横ナデで上下に拡張し、2条の凹線文を施す。凹線文は凹部が浅く幅広いため、凸部が突出して見える。頸部付け根に断面三角形の突帯を貼り付け、布を巻いた指頭で太い刻目を施す。内外面ともに横ナデ。	R-5028	11
	3	〃	Ⅲ層	弥生土器	甕	口縁端部を上方に摘むように拡張し、2条の凹線文を巡らす。上段の凹線文に爪が当たり傷が生じている。内外面ともに横ナデ。	R-5038	11
	4	〃	Ⅲ層	弥生土器	甕	口縁端部は、細い粘土紐を貼付もしくは上方に折り曲げて拡張し、強い横ナデを施す。内外面ともに横ナデ。	R-5039	11
	5	〃	DG-13-12区Ⅲ層下部	弥生土器	甕	口縁端面には横ナデによる細密条線が残る。外面は箆状工具または板状工具でナデ。内面は横ナデ。PL 15-⑫	R-5033	11
	6	〃	DG-13-17区Ⅲ層上部	弥生土器	鉢	口縁部周辺は内外面ともに横ナデ。胴部の外面は横方向のミガキ、内面は刷毛目。	R-5035	11
	7	〃	DG-13-8区Ⅲ層上部	弥生土器	器台	口縁端面に円形浮文を貼付。円形浮文、口縁部内面の一部に赤彩。内外面とも横ナデ。	R-5031	11
	8	〃	DG-13-8区Ⅲ層上部	弥生土器	器台	円筒形の脚柱部は内外面ともに刷毛目調整。ラッパ状に広がる脚裾部の外面は刷毛目調整の後にナデ。内面は丁寧なナデ調整。	R-5099	11
	9	〃	DG-13-3区Ⅲ層上部	弥生土器	壺	凸レンズ状の不安定な底部。器壁が厚く、重厚なつくり。外面は荒れが著しく調整は不明。内底面はナデ調整。	R-5026	11
	10	〃	DG-13-7区Ⅲ層上部	弥生土器	壺or鉢	平底。外面は草本類の茎束等でナデ上げる。内面は指頭によるナデ調整。黒斑あり。	R-5097	11
	11	〃	DG-13-2区Ⅲ層上部	弥生土器	甕	平底。外面は箆状工具もしくは板状工具で底部を押さえながらナデ付ける。内面は指頭によるナデ調整。	R-5022	11
	12	〃	DG-13-3区Ⅲ層上部	弥生土器	壺	平底。外面はナデ調整。内面は横方向の刷毛目調整。	R-5027	11
	13	〃	DG-13-7区Ⅲ層上部	弥生土器	甕	裾が踏ん張る上げ底。内外面ともにナデ。部分的に指頭痕が残る。	R-5029	11
	14	〃	DG-13-8区Ⅲ層上部	弥生土器	甕	裾が踏ん張るような上げ底。内外面ともに指頭によるナデ仕上げ。	R-5100	11
	15	〃	DG-13-7区Ⅲ層上部	弥生土器	甕or鉢	小さな平底。外面は刷毛目調整の後ナデ仕上げ。内面には指頭痕が残る。	R-5030	11
	16	〃	DG-13-8区Ⅲ層上部	須恵器	坏蓋	口縁端部を摘むように横ナデ。内外面ともに回転横ナデ。	R-5032	11

挿図遺物番号		出土遺構	出土層位・調査区	種　別	器　種	形状・器面調整・胎土・焼成などの特徴	遺物登録番号	収納コンテナ
Fig. 23	1	SC-11上部	DF-13-11区Ⅱ層上部	弥生土器	壺	口縁端部に4条の凹線文を施す。凹線文は波板状に近いが、幅は狭めで1条ずつ引かれている。内外面ともにナデ横ナデ調整。	R-5130	14
	2	〃	DF-13-1区Ⅱ層上部	弥生土器	壺	頸部下半に5条の沈線文が残る。内外面ともに横ナデ調整。	R-5128	14
	3	〃	DF-13-1区Ⅱ層上部	弥生土器	甕	粘土接合面で剥離破損。内外面ともにナデ調整。	R-5127	14
	4	〃	DF-13-6区Ⅱ層上部	弥生土器	甕	内外面ともに刷毛目調整。内面と胴部外面は刷毛目をナデ消す。	R-5129	14
	5	〃	DF-13-11区Ⅱ層上部	弥生土器	鉢	外面は刷毛目、内面はナデ調整。口縁端面は横ナデで面取りされる。	R-5131	14
Fig. 25	1	SC-27	埋土中部	弥生土器	壺	口縁端面に3条の凹線文を一本ずつ巡らす。凹線文は最上段と下二段の間に段差があり、最上段が狭い。凹線文の幅は狭く深い。凹部の断面は「U」字形で、凸部との境には稜がつき、沈線に近い。部分的に赤彩の痕跡が残る。	R-5207	37
	2	〃	南半部埋土	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ調整。強い横ナデで口縁端部を上方に摘み上げる。口縁端面口縁部内面の屈曲部には、浅い段状の沈線が巡る。	R-5203	37
	3	〃	南半部埋土	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ調整。口縁端面は横ナデで面取りされる。	R-5204	37
	4	〃	南半部埋土	弥生土器	甕	口縁端部を上方に摘み上げるように横ナデを施す。	R-5202	37
	5	〃	北半部埋土	弥生土器	高坏	口縁部に3条の凹線文を1条ずつ巡らす。凹線文は深く、凹部の断面形が「U」字形で、沈線に近い。内外面ともに横ナデ。口縁端面は横ナデで窪んでいる。	R-5213	37
	6	〃	南半部埋土	弥生土器	高坏	小型の高坏。坏部上半に4条の凹線文を施す。凹線文の凹部断面は浅めの「U」字形。1条ごとに凹線文の深さと幅は一定していない。とくに、中央の2条の凹線文は浅く狭い。内外面ともに丁寧なナデ調整。	R-5205	37
	7	〃	DA・DB-13・14区埋土	弥生土器	台付鉢	口縁部に粘土を貼り付け肥厚させ、上端面に2条、外面に4条の凹線文が巡る。凹線文は2条一単位で施され、断面は波板状。坏部外面の凹線文直下には櫛状工具の刻目風の短斜線文を巡らす。	R-5201	37
	8	〃	南半部埋土	弥生土器	高坏	脚部破片。小片のために径は不確実。外面は丁寧なナデ調整。6条の沈線文が巡り、部分的に赤彩の痕跡がみられる。内面には絞り痕と接合痕が残る。	R-5206	37
	9	〃	埋土	弥生土器	壺	内外面ともにナデ調整。外底面に黒斑が残る。	R-5210	37
	10	〃	南半部埋土	須恵器	坏身	外底面は回転ヘラケズリ、他は回転横ナデ。	R-5208	37
	11	〃	埋土上部	土師器	甕	「く」字形口縁をもち、口縁部の中央がやや膨らみ気味。内外面ともに横ナデ調整。	R-5211	37
Fig. 27	1	SC-34	埋土	弥生土器	甕	口縁端部の一部を欠く。内面～口縁部周辺は横ナデ。胴部外面は丁寧なナデ仕上げ。器体の芯部分には黒化層が厚く残る。Pl. 16-①	R-5795	48
	2	〃	埋土+CZ-13-2区Ⅲ層下部	弥生土器	甕	口縁部周辺は横ナデ。胴部外面はナデ、下半には擦過痕がわずかに観察できる。胴部内面はケズリ、肩部付近はナデ調整。	R-5799	48
	3	〃	埋土	弥生土器	甕	口縁部周辺は横ナデ。胴部外面はナデ、内面はケズリ、肩部付近には指頭圧痕が残る。	R-5796	48
	4	〃	埋土	弥生土器	甕	口縁部周辺は横ナデ調整。胴部外面は縦方向のナデ。内面はケズリ。Pl. 16-②	R-5798	48
Fig. 28	1	SC-34	埋土	弥生土器	壺	外面は縦方向のナデ調整。内面はナデ調整、粘土帯の接合部分に指頭痕が帯状に集中。	R-716	48
	2	〃	埋土	弥生土器	甕	上げ底。外面は横ナデ調整。内面は指頭による押さえつける。	R-5797	48
	3	〃	埋土	弥生土器	甕	上げ底。外面は縦方向のナデ調整。成形時の粘土の接合方法を観察できる良好資料。	R-708	48
	4	〃	SP-343埋土	弥生土器	甕	口縁部の破片。口縁端部を内外面ともに横ナデ調整。	R-5801	101
Fig. 30	1	SC-35	床面直上	弥生土器	壺	内外面ともに横ナデ。頸部の付け根に断面三角形突帯を貼り付ける。	R-1256	51
	2	〃	埋土	弥生土器	甕	口縁端部を横ナデで上方に摘み上げる。内外面ともに横ナデ調整。	R-5789	51
	3	〃	埋土	弥生土器	甕	器面は二次的な火熱を受けて赤変するとともに、荒れが著しい。内面の口縁部下でわずかに指頭圧痕を観察できる程度である。	R-5758	51
	4	〃	床面直上	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ。小片のため、器体の傾きはやや不確実。	R-5756	51
	5	〃	床面直上	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ。器壁の芯部に黒色の黒化層が残る。	R-5755	51
	6	〃	床面	弥生土器	壺or鉢	外面はナデ仕上げ。内面には内底面を中心にヘラ状工具をナデ付けた痕跡が残る。内面は黒変。	R-747	51
	7	〃	床面直上	弥生土器	壺or鉢	底部端は擦れて丸くなっている。胴部外面には、径2～3.5cm、深さ3～4mmの焼成後剥離痕が残る。器壁芯部は褐灰色であるが、表面および剥離面は同じ黄褐色に焼き上がる。	R-750	51
	8	〃	床面	弥生土器	壺	胴部下半に径4～5cm、深さ4mmの楕円形のクレーター状の焼成破裂痕が残る。内外面ともに荒れが著しい。	R-754	51
	9	〃	床面直上	弥生土器	甕	上げ底の底部破片。外面は二次的火熱を受けて、器面の荒れが著しく、調整は不明。	R-743	51
	10	〃	床面直上	弥生土器	甕	上げ底の底部破片。外面は荒れが著しい。内面と外底面には指頭痕が多く観察できる。内底面には煤が付着。コゲ付きか?	R-727	51
	11	〃	床面直上	弥生土器	甕	上げ底の底部破片。外面はミガキ仕上げ。内面は強いナデ調整。内底面に煤が付着。	R-5773	51
	12	〃	埋土	弥生土器	甕	13と同一個体?　内外面ともに横ナデ。口縁部の屈折部外面に、横ナデで沈線状の細く浅い条線が1～2条部分的に生じている。	R-5794	51
	13	〃	埋土+CY-13-25区Ⅲ層下部	弥生土器	甕	胴部下半部の大型破片。外面には細密条線が部分的に残る。内面はナデ。胴部中位の粘土帯の接合部と思われる部分には指頭圧痕が帯状に残る。内底近くは横ナデ。胴部下半は二次的な火熱を受けて赤変。これに対応する内面には焦げ付きと考えられる炭化物が付着。	R-5793	51
	14	〃	埋土	須恵器	坏蓋	内面中央に不定方向のナデ調整が施されているので、蓋と考えた。内面～胴部は回転横ナデ。天井部外面は回転ヘラケズリ。	R-5772	51
	15	〃	埋土	土師器	甕	胴部外面は刷毛目、内面は乱雑なケズリ。口縁部周辺は横ナデ。	R-5788	51
Fig. 31	1	SC-38上部	CY-13-7区Ⅲ層上部	弥生土器	壺	口縁端面に3条の凹線文を一本ずつ施す。凹線文の凹部断面は、「U」字形で沈線状である。内外面ともに横ナデ調整。	R-5741	54
	2	SC-35or38上部	CY-13-8区Ⅲ層上部	弥生土器	壺	口縁端面に3条の凹線文を一本ずつ施文。凹線文は浅く、最上段の凹線文は断面が「コ」字形、下方の2段の凹線文は「U」字形で、その間の凸部がやや突出する。内外面ともに横ナデ調整。小片のため口径はやや不確実。器壁の芯部に黒化層が厚く残る。	R-5783	52

挿図遺物番号		出土遺構	出土層位・調査区	種別	器種	形状・器面調整・胎土・焼成などの特徴	遺物登録番号	収納コンテナ
Fig. 31	3	SC-38上部	CY-13-3区Ⅲ層上部	弥生土器	壺	内外面ともに横ナデ。小片のために口径は不確実。器壁の芯部に黒化層が厚く残る。	R-5782	52
	4	SC-35上部	CY-13-20区Ⅲ層下部	弥生土器	壺	肩部破片。外面は丁寧な横ナデ。内面は荒れが著しく、調整は不明。	R-5779	52
	5	〃	CY-13-20区Ⅲ層最下部	弥生土器	壺	頸部に断面三角形突帯を巡らす。外面は荒れが著しい。内面はナデ仕上げ。肩部内面には絞り痕が残る。	R-5776	52
	6	SC-35・38上部	CY-13-4区Ⅲ層下部	弥生土器	高坏	脚部の裾に2条の凹線文。端面に凹線文と沈線文を1条ずつ施す。凹線文は断面が「U」字形で幅が広い。端面の凹線文は凹部と凸部の境に稜をもち沈線に近い。脚中位には細いヘラ描き沈線を施し、6方向から貫通する矢羽根透孔を穿孔する。内面には絞り痕が残る。	R-5778	52
	7	〃	CY-12-24区Ⅲ層上部	弥生土器	壺	外面は二次的火熱で赤変し、器面も荒れている。内面はナデ仕上げ。	R-5787	52
	8	SC-38上部	CY-13-17区Ⅲ層中部	弥生土器	甕	外面は指頭でナデ上げ。上げ底面にも指頭で横方向の強いナデ。内面はナデ。内面に薄く炭化物が付着。	R-5740	54
	9	〃	CY-13-6区Ⅲ層	弥生土器	甕	内底面は指頭でナデ上げ。上げ底面にも指頭で横方向の強いナデ。	R-5737	54
	10	SC-35上部	CY-13-25区Ⅲ層中部	土師器	鉢	小型丸底鉢。外面は丁寧な横ナデ仕上げ。口縁部内面は刷毛目の後に横ナデ。胴部内面には指頭でかなり強いナデを調整を施す。	R-5786	52
	11	〃	CY-13-20区Ⅲ層最下部	土師器	甕	口縁端部を内側にわずかに摘み出す。内外面とも横ナデ調整。胴部外面はケズリ調整。	R-5774	52
Fig. 33	1	SC-38	床面	弥生土器	鉢	口縁部の直下の屈曲部と上面に指頭痕が残り、口縁部を指頭で折り曲げて逆「L」字形に成形。その後、横ナデ仕上げを施す。	R-5735	54
	2	〃	埋土	弥生土器	壺	上げ底。内外面ともにナデ調整。とくに外面は丁寧にナデ仕上げ。	R-5734	54
	3	〃	床面	弥生土器	甕	厚手の平底で、底部側面には、指頭痕が多く残る。内底面ともに指頭痕が残る。	R-5736	54
Fig. 34	1	SC-40	埋土中部	弥生土器	甕	口縁部の細片。内外面ともに横ナデ調整。	R-1479	55
	2	〃	埋土下部	弥生土器	甕	口縁部の細片。内外面ともに横ナデ調整。	R-6000	55
	3	〃	埋土上部	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ調整で、口縁下端には部分的に粘土のよれが生じている。	R-5999	55
	4	〃	埋土中部	弥生土器	壺or鉢	平底の底部細片。外面はナデ調整、内面は横毛目調整。	R-5998	55
Fig. 36	1	SB-51	SP-395掘り形埋土	弥生土器	把手	ジョッキ形土器の把手? 上方がわずかに幅が広がる。側面はわずかに湾曲する。全面丁寧なナデ仕上げ。	R-5917	101
	2	〃	SP-395掘り形埋土	弥生土器	壺	平底の底部細片。内面はナデ。外面は荒れて調整は不明。	R-5916	101
Fig. 38	1	SD-91	埋土＋DF-16区Ⅲ層	弥生土器	壺	口縁部は上下に拡張し、端面に凹線文4条を施す。凹線文の静止は器面が荒れ不明。外面は刷毛目調整。内面は横ナデ。Pl. 16-⑤	R-6166	93
	2	〃	埋土	弥生土器	壺	頸部に突帯が巡る。突帯には指頭を押捺して刻目を施す。外面は横ナデ。内面は荒れが著しく調整は不明。	R-6169	93
	3	〃	埋土	弥生土器	甕	口縁端部を上下に拡張し、端面に1本ずつ3条の凹線文を施す。凹線文は凹部は幅が広く浅く「U」字形の断面で沈線に近い。内外面ともに横ナデ調整。	R-6168	93
	4	〃	埋土	弥生土器	甕	胴部は内外面に刷毛目調整を施し、口縁部周辺を横ナデ。	R-6170	93
	5	〃	埋土	弥生土器	壺	外面はミガキ調整、内面は指頭によるナデ調整。	R-6171	93
	6	〃	埋土	弥生土器	高坏	外面には部分的に刷毛目が観察できる。内面には絞り痕が残り、粘土のよれがみられる。	R-6165	93
	7	SD-93	埋土	弥生土器	壺	内外面ともにナデ調整。頸胴部の境に断面三角形の突帯を貼り付け、平織りの布を巻いた箆状工具を押捺して刻目を施す。	R-6112	94
	8	SD-96	埋土	弥生土器	甕	外面はナデ、内面はケズリ。小片のために底径は不確実。	R-5852	103
	9	SD-97	埋土	弥生土器	壺	口縁端面に凹線文2条を巡らす。頸部外面はナデ、内面は指頭によるナデ上げ。胴部外面は横毛目、内面には指頭痕が残る。胴部上半部の外面には焼成時黒斑が残る。Pl. 16-③	R-6132	96
	10	〃	埋土	弥生土器	甕	口縁端面に3条の凹線文を巡らす。胴部の外面は中位以下に二次的な火熱を受けて赤変。胴部内面は、上半にナデ、中位にケズリ調整を施す。外面は胴部上位に刷毛目が残る。Pl. 16-④	R-6131	96
	11	〃	埋土	弥生土器	壺	頸胴部の境に三角形突帯を貼付し、箆状工具で切るように刻目を施す。刻目の一部は肩部までのびる。外面は刷毛目、内面はナデ調整。	R-6130	96
	12	〃	埋土	弥生土器	甕	外底面側から焼成後に、外径13mm、内径5.5mmの小孔を穿つ。内外面ともにナデ調整。底部側面には指頭痕が残る。外面胴部～底部内面にかけ黒斑が生じている。	R-6133	96
	13	〃	埋土	弥生土器	甕	外面は、胴部をミガキ、肩部と底部境～底部にナデを施す。内面には指頭痕が残る。	R-6134	96
Fig. 41	1a	SK-29	埋土	弥生土器	壺	口縁端面に3条の凹線文を施し、うち2条が残存。頸胴部境に方形の粘土帯を貼付し、粘土帯中位より上下に刻む。焼成時破裂土器。内外面ともにナデ調整。Pl. 18-①・②	R-5295	62
	1b	〃	埋土	弥生土器	壺		R-6113	62
	2	〃	埋土	弥生土器	甕	内外面ともにナデ。口縁端部は、横ナデでわずかに窪む。胴部中位の外面に黒斑。Pl. 18-⑥	R-5294	62
	3	〃	埋土	弥生土器	甕	内面肩部に器面を抉るようなケズリ、口縁部に刷毛目、外面胴部に刷毛目、口縁部は横ナデ。口縁部に指頭痕が残る。口縁部は歪みが著しい。	R-5298	62
	4	〃	埋土	須恵器	坏蓋	端完形。天井部外面約3/4にケズリ、他は回転横ナデ。天井部と口縁部の境に段をもつ。	R-5299	62
	5	SK-29上部	DA-12-20区Ⅲ層上部	須恵器	坏蓋	外面天井部約2/3にケズリ、その他は回転横ナデ。天井部と口縁部の境に段をもつ。	R-6101	63
	6	〃	DA-12-24区Ⅲ層上部	須恵器	坏蓋	内外面に回転横ナデ。外面はロクロ痕で凹凸がある。	R-6102	63
	7	〃	DA-12-20区Ⅲ層上部	須恵器	平瓶	内外面回転横ナデ。外面中位に凹線文を施す。口縁端部は面をナデ窪ませる。	R-5300	63
	8	〃	DA-12-25区Ⅲ層上部	須恵器	甕	外面下半部はカキメ、その他は回転横ナデ。口縁端部下端に粘土を接合し接合部分を凹線状に仕上げる。	R-6107	63
	9	〃	埋土上面	土師器	甕	内外面とも器面が荒れ調整不明。	R-5297	62
Fig. 42	1	SK-29	埋土	弥生土器	壺?	焼成破裂土器片。破裂面は黒褐色、外面の器表面はミガキ調整が施され橙色を呈する。Pl. 18-②	R-6114	62
	2	〃	埋土	弥生土器	壺?	焼成破裂土器片。破裂面は橙色、外面の器表はにぶい橙色。外面に青黒色の黒斑部あり。Pl. 18-④	R-6115	62

挿図遺物番号		出土遺構	出土層位・調査区	種別	器種	形状・器面調整・胎土・焼成などの特徴	遺物登録番号	収納コンテナ
Fig. 42	3	〃	埋土	弥生土器	甕?	焼成破損土器片。破損面は橙色、外面の器表はにぶい橙色。内面に黒斑が生じている。外面はミガキ、箆状工具による斜格子文を施文。PL 18-⑤	R-6116	62
Fig. 45	1	SK-39	底面直上	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ調整。強い横ナデを施すことで、口縁部上面を内湾させ、端部を上方に跳ね上げる。	R-5287	66
	2	SK-76	埋土	弥生土器	甕	胴部の内面は稜線が残るほどの強いナデ、外面は縦方向の刷毛目調整。口縁部周辺はナデ調整を施す。	R-1510	74
	3	SK-80	埋土	弥生土器	甕	口縁端部を上下に拡張し、口縁端面に凹線文を2条施す。	R-6195	75
	4	〃	埋土	弥生土器	高坏	脚柱外面には7条の沈線文、その直下に矢羽根透孔を6もしくは7方向に施す。さらに3条の凹線文。脚端面に凹線文を1条巡らす。脚部の内面にはしぼり痕が顕著。	R-6194	75
Fig. 46	1	SK-50	南東壁際床面	弥生土器	壺	長頸壺。口縁部外面には1条ずつ浅い沈線状の凹線文を3条巡らす。頸部内面に指頭痕、口部内面にナデ調整の痕跡を部分的に観察できるが、器面が荒れて調整は不明。PL 16-④	R-5990	57
	2	〃	南東壁際床面	弥生土器	壺	「く」字形口縁の無頸壺。口径は10cm前後か? 内外面ともに荒れ、調整の詳細不明。	R-5989	57
	3	〃	南東壁際床面	弥生土器	壺	頸部中央に、浅い沈線文を巡らす。8条まで確認できた。器面が荒れ破片上端付近に沈線の有無は不明。内面には絞り痕が残る。	R-5988	57
	4	〃	南東壁際床面	弥生土器	壺	内面は刷毛目調整を施し、肩部近くに指頭によるナデ調整を追加。外面は荒れが著しく、調整は不明。	R-5987	57
	5	〃	南東壁際床面	弥生土器	壺	内底面に指頭痕が残るほか、器面が荒れて調整は不明。	R-5985	57
	6	〃	南東壁際床面	弥生土器	壺	外面は縦方向のミガキ、内面は器面が荒れて調整は不明。	R-5986	57
Fig. 49	1	SX-48	DG-19-2区Ⅲ層+DF-18-25区Ⅲ層下部	弥生土器	壺	口縁端面に凹線文を4条施す。外面は刷毛目調整の後に口縁部周辺をナデ調整。内面はナデ調整の後にミガキ仕上げ。	R-6160	145
	2	〃	DG-18-11・16・20~22、DG-19-2区Ⅲ層	弥生土器	壺	頸部の外面は刷毛目調整の後にナデを施す。内面は横ナデ調整。口縁部周辺は横ナデ。頸部の付け根には平織りの布をまいた原体で刻目を施す。PL 16-⑤	R-6154	146
	3	〃	DG-18-16~18・21・22、DG-19-2区Ⅲ層下部、中部	弥生土器	壺	口縁端面に3条の凹線文を巡らす。凹線文の断面は器面が荒れて不明。頸部の付け根には箆状工具で切るように刻目線文を施す。内外面ともにナデ調整であるが、内面には指頭によるナデ上げの痕跡が残る。	R-6155	145
	4	〃	DG-18-23区Ⅲ層	弥生土器	壺	口縁端部に粘土を追加して「T」字形に拡張する。内外面ともに荒れて調整は不明。	R-6140	145
	5	〃	DG-18-16区Ⅲ層+Ⅲ層最下部	弥生土器	壺	口縁端面に凹線文を4条施す。内外面ともに横ナデ調整。器壁の芯部には厚い黒化層が残り、口縁部の一部に黒化層が染み出して黒変部となっている。PL 16-⑦	R-6143	146
	6	〃	DG-18-17・22Ⅲ層	弥生土器	壺	内外面ともに横ナデ調整、内面には指頭痕が残る。	R-6141	145
	7	〃	DG-19-1区Ⅲ層最下部	弥生土器	壺	頸部の付け根に貼り付けられた低い幅広の突帯周辺の破片。突帯には、上下2段に刷毛目工具の小口部を押捺して刻目をつける。外面はナデ、内面は刷毛目調整の後に乱雑なナデ。	R-6281	145
	8	〃	DG-19-2区Ⅲ層	弥生土器	甕	外面には箆状工具で押さえた痕跡が残る。胴部は内外面ともに刷毛目調整。内面の刷毛目は粗い。その後、口縁部周辺を横ナデする。	R-6157	145
	9	〃	DF-18-20区Ⅲ層下部	弥生土器	甕	口縁端面に2条の凹線文を巡らす。胴部の内面には指頭痕が残り、外面は上半に刷毛目の後に粗くナデ、下半をミガキ調整する。口縁部の周辺は横ナデ調整。PL 16-⑨	R-6288	146
	10	〃	DG-19-2区Ⅲ層下部	弥生土器	甕	口縁端部を上方に跳ね上げるように横ナデする。内外面ともに器面が荒れているが、調整はナデか? 口縁屈曲部には指頭痕がわずかに残る。器壁芯部に厚く黒化層が残る。	R-6283	145
	11	〃	DG-18-22区Ⅲ層下部	弥生土器	甕	外面の口縁屈曲部には、下方からナデ付けたような箆状工具痕が残る。内外面ともに横ナデ調整。胴部内面には部分的に黒変。	R-6153	145
	12	〃	DG-19-7Ⅲ区層中部	弥生土器	鉢?	内外面ともに横ナデ調整。	R-6285	145
	13	〃	DG-18-16区Ⅲ層中部+DG-18-17区Ⅲ層下部	弥生土器	甕	口縁端面を面取り。内外面ともにナデ調整。口縁部外面と肩部の内面には指頭痕が残る。器壁の芯部には淡い黒灰色の黒化層が残る。	R-6145	145
	14	〃	DG-19-1区Ⅲ層下部	弥生土器	甕	口縁屈曲部に低い断面蒲鉾形の突帯を貼り付け、布を巻きつけた指頭で摘むように刻目を施す。内外面ともに荒れが著しく、調整は不明。	R-6164	145
	15	〃	DG-18-21区Ⅲ層下部	弥生土器	甕	口縁端面に3条の凹線文を施文する。内外面ともに横ナデ調整。	R-6151	145
	16	〃	DG-18-17区Ⅲ層中部	弥生土器	甕	口縁端部を上下に拡張し、凹線文3条を施す。内外面ともに横ナデ。	R-6146	145
	17	〃	DG-18-16区Ⅲ層	弥生土器	高坏	坏部上半の湾曲部分から口縁部に5条の凹線文を施す。坏部外面は刷毛目調整の後にミガキ、内面はミガキ。口縁部周辺は横ナデ。PL 16-⑧	R-6137	145
	18	〃	DG-18-16区Ⅲ層	弥生土器	高坏	脚部中位に5条の沈線文を巡らし、脚裾部に3条の凹線文を施す。その間に、箆状工具で山形文を施文。脚端端面には凹線文を1条巡らす。外面は器面が荒れ調整不明。内面は横ナデで、脚裾内面に粘土がよれている部分がある。脚接部付近に小さな黒斑が生じている。	R-6138	145
	19	〃	DG-18-16区Ⅲ層	弥生土器	脚付鉢	脚端部に4条の沈線が施文される。内外面ともにナデ調整。脚端内面は横ナデで深く窪む。内面に指頭痕が残る。PL 16-①	R-6136	145
Fig. 50	1	SX-48	DG-18-17区Ⅲ層中部	弥生土器	壺	若干の上げ底。上げ底面にはナデ痕跡が残る。胴部外面は板状工具で器面を押さえながらナデつける。内面は指頭によるナデ上げ。	R-6148	145
	2	〃	DG-19-1区Ⅲ層下部	弥生土器	壺	内外面ともにナデ調整を施す。外底面には黒斑が生じている。	R-6163	145
	3	〃	DG-18-17区Ⅲ層	弥生土器	壺	底部から胴部外面はナデ調整。底部近くには指頭痕が残る。内面は荒れのため、調整不明。内外面ともに全体が黒変。	R-6142	145
	4	〃	DG-19-1区Ⅲ層下部	弥生土器	壺	外底面はナデ調整。胴部外面はミガキ、内面は器面が荒れて調整不明。器台の口縁部の可能性もある。	R-6162	145
	5	〃	DG-18-22区Ⅲ層	弥生土器	壺	内外面ともに器面が荒れ、調整不明。器壁の芯部には、淡い黒灰色の黒化層が残る。	R-6139	145
	6	〃	DG-19-2区Ⅲ層	弥生土器	壺	外面は荒れ、調整不明。内面はケズリで、部分的に指頭で押さえる。	R-6159	145
	7	〃	DG-19-7区Ⅲ層下部	弥生土器	壺	外底面はナデ調整。胴部の外面はミガキ仕上げ、内面はケズリ調整。外底面から胴部にかけて黒灰色の黒斑が生じる。	R-6286	145
	8	〃	DG-18-21区Ⅲ層下部	弥生土器	鉢	深鉢形のミニチュア土器。外面は板状工具で押さえながらナデ調整を行う。内面は指頭でナデ調整を施す。	R-6149	145

挿図遺物番号		出土遺構	出土層位・調査区	種別	器種	形状・器面調整・胎土・焼成などの特徴	遺物登録番号	収納コンテナ
Fig. 50	9	〃	DG-18-17区Ⅲ層下部	弥生土器	甕	脚部が「ハ」字形にひろがる上げ底。内外面ともにナデ調整を施す。底部周辺には指頭痕が残る。	R-6147	145
	10	〃	DG-18-16区Ⅲ層下部＋DG-18-21区Ⅲ層下部	弥生土器	甕	上げ底。内外面ともにナデ調整。脚部外面は指頭でナデ上げ、上げ底面と内底面は指頭で強く押さえつける。	R-6144	145
	11	〃	DG-19-２区Ⅲ層	弥生土器	甕	「ハ」字形に広がる上げ底。内面は器面が荒れ調整不明。外面は横ナデ仕上げ。上げ底接合時の指頭痕が集中して残る。脚部器壁の芯部には厚い黒化層が残り、内面に染み出す。	R-6158	145
	12	〃	DG-19-１区Ⅲ層下部	弥生土器	甕	外面はミガキ調整、内底面を指頭でナデ上げる。外底面から脚部にかけて黒斑。	R-6161	145
	13	〃	DG-18-21区Ⅲ層下部	弥生土器	甕	脚部は粘土接合面で剥がれている。内外面ともにナデ調整を施し、指頭痕が明瞭に残る。脚部外面は、さらに板状工具でナデつける。	R-6152	145
Fig. 52	1	SX-73	DG-16区Ⅲ層	弥生土器	壺	口縁端面に、６条の凹線文を施し、円形浮文を貼付。頸胴部の境に突帯を巡らし、２段の刻目を施す。Fig. 55-9と同一個体の可能性が高い。PL 16-⑫	R-5043	4
	2	〃	DG-17区Ⅲ層	弥生土器	壺	口縁端面に波状の凹線文を４条巡らす。頸部の外面はミガキ調整。口縁部付近は横ナデ調整。内面は器面が荒れて調整は不明。PL 17-①	R-5048	3
	3	〃	DG-16Ⅲ層＋DG-16-18区Ⅲ層最下部	弥生土器	壺	口縁端面に４条の凹線文を施す。頸胴部の外面は刷毛目、内面はナデ。口縁部付近は横ナデ。頸部の内面に絞り痕が残る。PL 17-②	R-5044	6
	4	〃	DG-16Ⅲ層	弥生土器	壺	口縁端面に２条の凹線文を巡らす。胴部は内外面ともに刷毛目調整。外面はミガキで仕上げる。胴部内面は、刷毛目工具で強くナデ、部分的にケズリに近い調整となっている。口縁部付近は横ナデ調整。PL 17-④	R-5049	3
Fig. 53	1	SX-73	DG-16Ⅲ層	弥生土器	壺	胴部外面は刷毛目調整して、仕上げにミガキ。胴部内面は、下半部にケズリ、中位以上は刷毛目調整。肩部内面は刷毛目をナデ消す。頸部は内外面ともに刷毛目調。内面はミガキで仕上げ。口縁部は横ナデ。PL 17-③	R-5105	
Fig. 54	1	SX-73	DG-16区Ⅲ層	弥生土器	壺	口縁屈曲部に平織りの布をまいた指頭で刻目を施す突帯をめぐらす。内外面ともに板状工具で横ナデ調整を施し、胴部上半部の内面にはミガキを追加する。PL 17-⑤	R-5046	5
	2	〃	DG-16区Ⅲ層	弥生土器	甕	胴部の外面には刷毛目調整を施す。下半部はミガキ仕上げ。内面はケズリ調整し、上半部を指頭でナデ上げる。	R-5042	3
	3	〃	DG-16区Ⅲ層	弥生土器	甕	胴部の外面は刷毛目調整して軽くナデ、下半部はミガキ。内面はナデ調整し、下半部にケズリを施す。口縁部周辺は横ナデ。口縁屈曲部は、指頭を強く押し当てて成形し、その後指頭痕をナデ消す。PL 17-⑥	R-5040	5
	4	〃	DG-16区Ⅲ層	弥生土器	甕	口縁端面に３条の沈線状の凹線文をもつ。凹線文は凹部断面が浅く幅の狭い「U」字形。内外面ともに、器面が荒れ、調整は不明。PL 17-⑦	R-408	3
	5	〃	DG-16区Ⅲ層	弥生土器	甕	胴部は内外面ともに刷毛目調整。外面の下半部にミガキ、内面にケズリ調整を追加。口縁部付近はナデ調整を施す。PL 17-⑧	R-5047	6
	6	〃	DG-16区Ⅲ層	弥生土器	甕	口縁端面に幅が狭くて浅い３条の沈線文を施す。胴部の外面は刷毛目調整、内面はケズリ調整。口縁部付近は横ナデ調整する。	R-370	3
	7	〃	DG-16Ⅲ層	弥生土器	甕	薄い平底。外底面は指ナデ調整を施し、外底面の周縁には明瞭な指頭痕が残る。外面はミガキ仕上げ。内面は板状工具によるケズリ。	R-5052	3
	8	〃	DG-16Ⅲ層	弥生土器	甕	上げ底部と内面は指ナデ調整。胴部外面は底部から指もしくは板状工具でナデ上げる。上げ底部の全面に黒斑が生じている。	R-5050	3
Fig. 55	1	SX-73	DG-16区Ⅲ層	弥生土器	甕	口縁端面に凹線文を２条施す。口縁屈曲部には刻目突帯。胴部は内外面ともに刷毛目調整し、内面にケズリを追加。口縁部付近は横ナデ。PL 17-⑨	R-378	5
	2	〃	DG-16Ⅲ層	弥生土器	高坏	坏部上半に５条の凹線文を施す。内外面ともに横ナデ調整。外面には、部分的にミガキのような痕跡が残る。PL 17-⑩	R-5053	3
	3	〃	DG-16Ⅲ層	弥生土器	高坏	脚部に矢羽根透孔と３条の凹線文、脚端部に１条の凹線文を施す。内外面ともに横ナデ。内面には脚部を摘み出した際の指頭痕が残る。PL 17-⑪	R-5051	3
	4	〃	DG-16Ⅲ層	弥生土器	壺	中～大型品であるが、器壁は薄い。外面に残るミガキは、幅が狭く細かく密である。内面はケズリ調整で、均等な器壁の厚さに仕上げる。胴部外面には、最大径付近に黒灰色の黒斑が生じている。	R-5150	3
	5	〃	DG-16区Ⅲ層	弥生土器	甕	外面は箆状工具でミガキ。内面は板状工具でケズリ。器壁の芯部には黒灰色の厚い黒化層が残り、内面には黒化層が染み出し黒変部となる。Fig. 54-3と同一個体か?	R-5070	5
	6	〃	DG-16区Ⅲ層	弥生土器	壺	外底面は指ナデ調整。胴部外面はミガキ、内面はケズリ。底部から胴部にかけて外面に黒斑部がみられ、内面は全体が淡い灰色の黒斑。	R-401	3
	7	〃	DG-16区Ⅲ層	弥生土器	壺	内外面ともに、器面が荒れ調整は不明。胴部の外面は部分的に火熱を受けて赤変している。器壁の芯部に灰色の厚い黒化層が残る。	R-363	3
	8	〃	DG-16区Ⅲ層	弥生土器	壺	内外面ともにナデ調整。胴部外面に箆状工具でミガキをかける。内面には明瞭な指頭痕を残す。底部外面には底面を中心として黒斑が生じている。	R-318	3
	9	〃	DG-16区Ⅲ層	弥生土器	壺	外底面は乱雑にナデ調整を施す。底部裾から胴部にかけて外面には箆状工具を押し当ててナデ調整。内面は器面が荒れて調整は不明。	R-5043	4
	10	〃	DG-16区Ⅲ層	弥生土器	甕	胴部外面は横刷毛目調整。下半部にミガキをかける。胴部内面はケズリ調整を施して、上半部は刷毛目調整。	R-5041	5
Fig. 58	1	SC-10	埋土	土師器	壺	小型丸底壺のミニチュア品。手捏ね成形。内外面に指頭によるナデ痕跡が多く残る。PL 19-⑤	R-5078	13
	2	〃	埋土	土師器	壺	小型丸底壺。肩部外面には刷毛目が残る。口縁部は横ナデ。胴部内面はケズリ。PL 19-⑥	R-5079	13
	3	〃	埋土＋DF-12-３区Ⅲ層最下部	土師器	壺	小型丸底壺。外面は横ナデ。内面は荒れのため、調整不明。ただし、胴部中位～口縁屈曲部にかけて指頭痕が観察できる。	R-5140	12
	4	〃	埋土	土師器	壺	口縁部周辺はナデ調整。胴部は外面を刷毛目調整、内面をケズリ調整する。肩部内面には粘土紐接合痕の上に指頭痕が残る。口縁部と胴部外面に黒斑が生じている。PL 19-③	R-5080	13

掲図遺物番号		出土遺構	出土部位・調査区	種類	器種	形状・器面調整・胎土・焼成などの特徴	遺物登録番号	収納コンテナ
Fig. 58	5	〃	埋土	土師器	甕	内面は口縁部に横ナデ、胴部上半に工具によるナデ、下半にケズリ。底部と口縁屈曲部付近には指頭痕が残る。外面は口縁部に横ナデ、胴部にハケメ調整。Pl. 19-①	R-182	13
	6	〃	埋土	土師器	甕	口縁部周辺は横ナデ。胴部は内面はケズリ、外面は刷毛目調整。胴部最大径部付近に黒斑が生じている。Pl. 19-②	R-5082	13
	7	〃	埋土	土師器	甕	口縁部外面は横ナデ仕上げ、内面は刷毛目が残る。胴部外面はナデ、内面はケズリ調整。	R-5073	12
	8	〃	埋土	土師器	甕	口縁部周辺は横ナデ。胴部の外面はナデ、内面には強いケズリを施す。	R-5077	12
	9	〃	埋土＋DF-12-17区Ⅲ層最下部	土師器	甕	口縁部周辺は横ナデ。胴部の外面は器面が荒れ調整は不明、内面は乱雑なケズリ調整。口縁屈曲部の内面には粘土接合痕が残る。	R-5081	12
	10	〃	埋土＋DF-12-3区Ⅲ層最下部	土師器	高坏	坏部は内外面ともに丁寧なナデ。脚部内面は脚柱部にケズリ、裾部にナデを施す。外面は脚柱部に刷毛目の後にナデ仕上げ。Pl. 19-④	R-5083	13
	11	〃	埋土	土師器	高坏	内面は、脚柱部にケズリ、裾部にナデを施す。外面は、脚柱部～裾部を棒状工具等で押さえ、仕上げに裾部をナデ調整。	R-5076	13
	12	〃	埋土	弥生土器	高坏	脚柱部の破片。充填円盤が接合面で剥離している。外面はナデ、内面はケズリ。4条の沈線文が残る。	R-195	12
	13	〃	埋土	弥生土器	甕	口縁端面に2条の凹線文を巡らす。内外面ともにナデ。	R-5075	12
Fig. 60	1	SC-12	床面直上	須恵器	坏身	内外面とも回転横ナデ調整。外面体部は自然釉が付着しているため調整不明。立ち上がり端部は破損。口縁受け部は部分的に歪む。	R-5309	15
	2	〃	床面直上	土師器	甕	口縁部の小片。外面には指頭痕がみられる。内外面ともに横ナデ調整を施す。	R-5310	15
Fig. 61	1	SC-12上部	I-15-11区区Ⅲ層上部	須恵器	坏蓋	天井部の破片。外面は回転ヘラケズリ。内面は回転横ナデ。器壁はやや厚みがある。	R-5304	15
	2	〃	I-15-11区区Ⅲ層上部	須恵器	坏蓋	天井部の破片。外面は粗い回転ヘラケズリ、内面には回転横ナデを施す。	R-5303	15
	3	〃	I-15-11区区Ⅲ層上部	須恵器	坏身	口縁部は内傾気味に立ち上がる。受け部との境に沈線状の窪みが巡る。受け部の先端には面ができ、尖り気味。内外面ともに回転横ナデ。	R-5302	15
	4	〃	I-15-11区区Ⅲ層	土師器	甕	退化した二重口縁。口縁端部の内面に横ナデで小さな面ができる。内外面ともに二次的な火熱を受けて、一部赤変。器面は荒れ調整は不明であるが、内外面に指頭痕が残る。	R-5307	15
	5	〃	I-15-6・11区区Ⅲ層	土師器	甕	内外面ともに横ナデ調整。口縁端部の内面に横ナデで、わずかに窪む面が生じている。	R-5305	15
	6	〃	I-15-6・11区区Ⅲ層	弥生土器	高坏	脚部に矢羽根透孔を箆状工具で穿つが、未貫通。その下方に浅い凹線文を1条と箆状工具による沈線状の凹線文を4条巡らし、端部にも沈線状の凹線文が1条施され、下方は横ナデで窪んでいる。脚裾の内面は、横ナデで鋭く内湾する。	R-5306	15
	7	〃	I-15-1区区Ⅲ層上部	弥生土器	甕	底部が踏ん張る上げ底。外面は指頭によるナデ、内面は荒れが著しく調整は不明。外底面から底部側面にかけて幅3cmほどの帯状の黒斑が生じている。	R-5301	15
Fig. 63	1	SC-13	埋土	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ。口縁端面に擬凹線文を巡らす。	R-5366	16
	2	〃	埋土	須恵器	高坏	坏部中位に小さく浅い段が巡る。内外面ともに回転横ナデ。坏部下半の外面には自然釉が付着する。	R-5365	16
Fig. 64	1	SC-14	埋土上半部	須恵器	坏蓋	内外面ともに、回転横ナデ。	R-5356	17
	2	〃	埋土上半部	須恵器	坏身	外底面は回転ヘラケズリ、内面は回転横ナデ。	R-5355	17
	3	〃	埋土	須恵器	平瓶	外面は横ナデ仕上げ、内面の同心円文の当て具痕はナデ消される。	R-5352	17
	4	〃	埋土	須恵器	壺or甕	外面には平行条線のタタキの後に横ナデ仕上げ。内面には同心円文の当て具痕が残る。	R-5353	17
	5	〃	床面	須恵器	壺or甕	外面には平行条線のタタキの後に横ナデ仕上げ。内面には大きめの同心円文の当て具痕。	R-5354	17
	6	〃	埋土	土師器	甕	内外面ともに横ナデ。	R-5360	17
	7	〃	埋土	土師器	甕	外面は荒れが著しく調整不明。内面は刷毛目の後にナデ仕上げ。	R-5361	17
	8	〃	埋土	土師器	甕	外面は刷毛目調整の後にかるくナデ。口縁屈曲部には刷毛目工具の小口痕が残る。内面にも指頭痕が残る。	R-5364	17
	9	〃	貼り床部	須恵器	坏身	内外面ともに回転横ナデ。小片のため、径は不確実。もう少し大きくなるか。	R-5358	17
	10	〃	貼り床部＋SC-16上部Ⅲ層	須恵器	高坏	内外面ともに回転横ナデ。口縁端面を横ナデするため、小さな面と浅い段が生じる。	R-5357	17
Fig. 65	1	SC-15	南西部埋土	須恵器	坏蓋	内外面ともに回転横ナデ。	R-5338	18
	2	〃	南西部床面上	須恵器	坏身	内外面ともに回転横ナデ。	R-5339	18
	3	〃	北西部埋土	須恵器	坏身	内外面ともに回転横ナデ。外面に自然釉が付着。小片のため、径は不確実。もう少し大きくなるか。	R-5341	18
	4	〃	埋土	須恵器	高坏	内外面とも器面が荒れ、調整は不明。	R-5337	18
	5	〃	埋土	須恵器	甕or壺	外面は平行条線のタタキ目、内面には同心円文の当て具痕が残る。	R-5340	18
Fig. 67	1	SC-15上部	DD-14-22区Ⅲ層下部	須恵器	坏蓋	天井部の外面は回転ヘラケズリ。内面は回転横ナデ。	R-5332	18
	2	〃	DD-14-17区Ⅲ層上部	須恵器	坏身	内外面ともに回転横ナデ。	R-5316	18
	3	〃	DD-15-1区Ⅲ層中部	須恵器	坏身	内外面ともに回転横ナデ。	R-5329	18
	4	〃	DD-14-22区Ⅲ層上部	須恵器	坏身	内外面ともに回転横ナデ。	R-5315	18
	5	〃	DD-15-3区Ⅲ層中部	須恵器	坏身	内外面ともに回転横ナデ。	R-5312	18
	6	〃	DD-14-18区Ⅲ層上部	須恵器	坏身	SC-25上部Ⅲ層出土の破片と接合・復元。内外面とも回転横ナデ。	R-5311	18
	7	〃	DD-14-17区Ⅲ層最下部	須恵器	甑	内外面ともに回転横ナデ。	R-5331	18
	8	〃	DD-15-2区Ⅲ層上部	須恵器	壺	内外面ともに回転横ナデ。口縁端部を肥厚させ、端面には浅い凹線状の沈線が巡る。	R-5319	18
	9	〃	DD-14-17区Ⅲ層上部	須恵器	高坏	坏部中位に段状の浅い凹線が巡る。内外面ともに回転横ナデ。内面には指頭による強いナデ調整がみられる。	R-5324	18
	10	〃	DD-14-17区Ⅲ層上部	須恵器	高坏	坏部上半が中位で屈曲。内外面ともに回転横ナデ。	R-5327	18
	11	〃	DD-14-18区区Ⅲ層中部	須恵器	高坏	坏部下半は回転ヘラケズリ、上半部との境には浅く小さな段が巡る。口縁部周辺～内面は回転横ナデ。	R-5313	18
	12	〃	DD-15-1区Ⅲ層上部	土師器	高坏	器面が荒れ、調整は不明。	R-5334	18

挿図遺物番号		出土遺構	出土層位・調査区	種別	器種	形状・器面調整・胎土・焼成などの特徴	遺物登録番号	収納コンテナ
Fig. 67	13	〃	DD-14-17区Ⅱ層上部	須恵器	高杯	ラッパ状に開く脚部破片で、脚端部を段状に折り曲げる。内外面ともに回転横ナデ。	R-5318	18
	14	〃	DD-15-1区Ⅱ層中部	須恵器	平瓶	外面はカキメ調整。内面は回転横ナデ。	R-5330	18
	15	〃	DD-14-18区Ⅱ層上部	須恵器	𤭯	外面は箆状工具による手持ちケズリ。内面は横ナデ。	R-5314	18
	16	〃	DD-15-2区Ⅱ層上部	須恵器	壺	内外面ともに回転横ナデ。内面には指頭痕が残る。	R-5320	18
	17	〃	DD-14-23区Ⅱ層上部	須恵器	壺	胴部外面は下半部を回転ヘラケズリ、上半を回転横ナデ。内面は底部近くを指頭でナデ、胴部内面は指頭で押さえた後にナデを施す。	R-5321	18
	18	〃	DD-14-17区Ⅱ層上部	須恵器	甕or壺	外面に平行条線のタタキ目、内面には同心円文の当て具痕が残る。	R-5328	18
	19	〃	DD-14-23区Ⅱ層上部	土師器	把手付き甕or甑	把手基部の突起部分を胴部の器壁に穴をあけて差し込む。指頭によるナデ調整であるが、部分的に刷毛目が残る。	R-5336	18
Fig. 69	1	SC-16	埋土	須恵器	杯蓋	天井部の外面は回転ヘラケズリ、内面は回転横ナデ。	R-5400	20
	2	〃	埋土＋DC-14-24区Ⅲ層下部＋DC-15-4区Ⅲ層下部	須恵器	杯蓋	天井部の外面は回転ヘラケズリ、内面には指頭で螺旋状に回転横ナデを施す。PL 20-①	R-5389	20
	3	〃	北半部床面上	須恵器	高杯	内外面ともに回転横ナデ。口縁端面を横ナデするため、小さな面と浅い段が生じる。杯部中位の外面にも、小さな凹線状の段が巡る。	R-5385	20
	4	〃	埋土	須恵器	壺	提瓶の口縁部とも考えたが、口径が大きいことから壺とした。内外面ともに回転横ナデ。	R-5386	20
Fig. 71	1	SC-16上部	DC-15-2区Ⅱ層中～下部	須恵器	杯蓋	内外面ともに回転横ナデ。口縁部外面に部分的に幅2㎜の細い棒状工具を押捺。	R-5383	20
	2	〃	DC-15-5区Ⅱ層下部	須恵器	杯身	内外面ともに回転横ナデ。	R-5371	20
	3	〃	DC-14-14区Ⅱ層下部	須恵器	杯身	内外面ともに回転横ナデ。外面には自然釉が付着。	R-5396	20
	4	〃	DC-15-2区Ⅱ層中～下部	須恵器	杯身	内外面ともに回転横ナデ。	R-5382	20
	5	〃	DC-15-4区Ⅱ層下部	須恵器	高杯	外面は、中位の段以下を回転ヘラケズリ、上半部および内面は回転横ナデ。	R-5378	20
	6	〃	DC-15-4区Ⅲ層上部	須恵器	高杯	器体の歪みが著しく径は不確実。内外面ともに回転横ナデ。	R-5374	20
	7	〃	DC-15-5区Ⅲ層上部	須恵器	蓋	天井部外面は回転ヘラケズリの後に不定方向の横ナデ。内面は回転横ナデ。	R-5395	20
	8	〃	DC-15-5区Ⅲ層上部	須恵器	短頸壺	内外面ともに回転横ナデ。	R-5381	20
	9	〃	DC-15-5区Ⅲ層上部	須恵器	壺	外面は荒れが著しく調整不明。内面は回転横ナデであるが、口縁屈曲部に箆先工具をナデつけている痕跡を観察できる。	R-5380	20
	10	〃	DC-15-4区Ⅲ層下部	須恵器	𤭯	内外面ともに回転横ナデ。	R-5379	20
	11	〃	DC-14-18区Ⅲ層中部	須恵器	𤭯	外面は回転横ナデ。内面は指頭によるナデ調整。とくに、肩部内面には指頭痕が残る。	R-5387	20
	12	〃	SP-573埋土＋DD-14-18区Ⅲ層下部＋DC-15-9区Ⅲ層最下部＋DC-14-20区Ⅲ層下部	須恵器	脚台付き長頸壺	内外面ともに回転横ナデ。中位に円形の透孔を焼成前に施す。PL 20-②	R-5376	20
	13	〃	DC-14-18区Ⅲ層中部	須恵器	壺	内外面ともに回転横ナデ。	R-5388	20
	14	〃	DC-15-5区Ⅲ層上部	須恵器	壺	内外面ともに回転横ナデ。	R-5399	20
	15	〃	DC-14-14区Ⅲ層下部	須恵器	壺	外面は平行条線タタキの後にカキメを間隔をあけて施す。内面の同心円文の当て具痕はナデで消される。	R-5398	20
	16	〃	DC-14-19区Ⅱ層下部	弥生土器	甕	胴部外面はナデ、内面には箆状工具をナデつけた痕跡が残る。口縁部周辺は横ナデ。	R-5390	20
	17	〃	DC-14-19区Ⅱ層下部	弥生土器	甕	胴部外面はナデであるが、部分的に箆状工具によるナデつけがみられる。内面には棒状工具もしくは先端の幅が狭い箆状工具でナデつけた痕跡が残る。	R-5391	20
Fig. 73	1	SC-17	埋土	須恵器	杯身	内外面ともに回転横ナデ。	R-5433	23
	2	〃	西半部埋土	須恵器	杯身	外底面は回転ヘラケズリ、他は回転横ナデ。	R-5403	23
	3	〃	床面上	須恵器	杯身	内外面ともに回転横ナデ。器壁が厚みがあり、壺の底部の可能性あり。	R-5407	23
	4	〃	東半部埋土中	須恵器	杯身	内外面ともに回転横ナデ。	R-5410	23
	5	〃	埋土	須恵器	提瓶？	内外面ともに回転横ナデ。自然釉が付着。	R-5413	23
	6	〃	埋土	須恵器	𤭯	内外面ともに回転横ナデ。外面の下半部は器面が荒れ、調整は不明。	R-5402	23
	7	〃	床面上	須恵器	高杯	内外面ともに回転横ナデ。	R-5444	23
	8	〃	埋土	須恵器	高杯	内外面ともに回転横ナデ。	R-5406	23
	9	〃	埋土	須恵器	甕or壺	外面には平行状線文のタタキを縦横交互に施す。内面には同心円文の当て具痕が残る。	R-5434	23
	10	〃	東半部埋土	弥生土器	甕	外面はミガキ、内面は横方向に指頭による強く乱雑なナデ。口縁部周辺は横ナデ。	R-5408	23
Fig. 75	1	SC-17上部	DC-15-9区Ⅱ層下部	須恵器	杯蓋	天井部の外面は回転ヘラケズリ、他は回転横ナデ。	R-5448	23
	2	〃	DC-15-9区Ⅱ層中部	須恵器	杯身	内外面ともに回転横ナデ。	R-5422	23
	3	〃	DC-15-8区Ⅲ層中部	須恵器	杯身	内外面ともに回転横ナデ。	R-5441	23
	4	〃	DC-15-9区Ⅲ層中～下部	須恵器	杯身	外底面は回転ヘラケズリ、他は回転横ナデ。	R-5419	23
	5	〃	DC-15-9区Ⅲ層中部	須恵器	杯身	外底面は回転ヘラケズリ、他は回転横ナデ。	R-5427	23
	6	〃	DC-15-9区Ⅲ層中～下部	須恵器	蓋	短頸壺の蓋。内外面ともに回転横ナデ。	R-5420	23
	7	〃	DC-15-8区Ⅲ層中～下部	須恵器	杯身	内外面ともに回転横ナデ。	R-5424	23
	8	〃	DC-15-8区Ⅲ層中～下部	須恵器	杯身	内外面ともに回転横ナデ。	R-5423	23
	9	〃	DC-15-8区Ⅲ層中～下部	須恵器	杯身	内外面ともに回転横ナデ。	R-5425	23
	10	〃	DC-15-9区Ⅲ層上部	須恵器	高杯	蓋の可能性もあり。内外面ともに回転横ナデ。	R-5414	23
	11	〃	DC-15-10区Ⅲ層中部	須恵器	高杯	脚との接合部はヘラケズリ、杯部と内面は回転横ナデ。	R-5428	23
	12	〃	DC-15-11区Ⅲ層中部	須恵器	高杯	外面はナデのためわずかに凹凸をなす。回転横ナデ調整。	R-5429	23
	13	〃	DC-15-12区Ⅲ層中部	須恵器	高杯	ラッパ状に開く脚端部は小さく屈曲し、尖りぎみにおさめられる。	R-5430	23
	14	〃	DC-15-8区Ⅲ層上部	須恵器	壺or𤭯	内外面ともに回転横ナデ。	R-5436	23
	15	〃	DC-15-8区Ⅲ層中部	須恵器	長頸壺	内外面ともに回転横ナデ。	R-5442	23
	16	〃	DC-15-10区Ⅲ層下部	須恵器	器台	脚端部を小さく折り返し面をつくる。内外面ともにを回転横ナデ。PL 20-③	R-5450	53
	17	〃	DC-15-9区Ⅲ層下部	土師器	甕	器面の荒れが著しく調整は不明。	R-5443	23

挿図遺物番号		出土遺構	出土層位・調査区	種別	器種	形状・器面調整・胎土・焼成などの特徴	遺物登録番号	収納コンテナ
Fig. 77	1	SC-18	埋土	須恵器	杯蓋	天井部外面は回転ヘラケズリ、他は回転横ナデ。	R-6006	26
	2	〃	埋土	須恵器	杯蓋	内外面ともに回転横ナデ。口縁端部は横ナデで先端が尖る。高杯杯部の可能性もあり。	R-6001	26
	3	〃	埋土	須恵器	杯身	内外面ともに回転横ナデ。器壁は薄め。	R-5500	26
	4	〃	埋土	須恵器	杯身	内外面ともに回転横ナデ。	R-5488	26
	5	〃	埋土	須恵器	杯身	内外面ともに回転横ナデ。	R-5487	26
	6	〃	埋土	須恵器	杯身	外底面は回転ヘラケズリ、他は回転横ナデ。	R-5496	26
	7	〃	埋土	須恵器	杯身	内外面ともに回転横ナデ。	R-5492	26
	8	〃	埋土	須恵器	蓋	短頸壺の蓋。内外面ともに回転横ナデ。	R-5497	26
	9	〃	埋土	須恵器	蓋	短頸壺の蓋。内外面ともに回転横ナデ。傾きが急で、口径も細片のために不確実で、高杯である可能性もあり。	R-6010	26
	10	〃	東半部埋土+北半部埋土	須恵器	杯身	内外面ともに回転横ナデ。	R-5411	23
	11	〃	埋土+DC-15-2区Ⅲ層中～下部	須恵器	高杯	内外面ともに回転横ナデ。	R-5384	20
	12	〃	埋土	須恵器	𤭯or提瓶	内外面ともに回転横ナデ。	R-5490	26
	13	〃	埋土	須恵器	𤭯or提瓶	内外面ともに回転横ナデ。全面に自然釉が付着。	R-5489	26
	14	〃	床面	須恵器	壺	外底面は回転ヘラケズリの後に軽くナデ、他は回転横ナデ。	R-5494	26
	15	〃	埋土	土師器	甕	内外面ともに横ナデ。	R-6003	26
	16	〃	埋土	土師器	甕	全体に厚みがある。内外面ともに横ナデ。器壁の芯部には、褐色の黒化層がみられる。	R-6004	26
	17	〃	埋土	弥生土器	甕	口縁端部を拡張し、凹線文を3条施す。内外面ともに横ナデ。	R-6005	26
Fig. 78	1	SC-18	貼り床部	須恵器	杯身	内外面ともに回転横ナデ。	R-5486	26
	2	〃	貼り床部	弥生土器	壺	内外面とも横ナデ調整。頸部内面には指頭痕が残る。	R-5499	26
	3	〃	貼り床部	弥生土器	壺	内面には縦方向の指頭による強いナデ痕跡が残る。	R-6007	26
	4	〃	貼り床部	弥生土器	高杯	内外面ともに横ナデ。内面の仕上げは粗雑。	R-6009	26
Fig. 79	1	SC-21	埋土+DD-14-6区Ⅲ層最下部	須恵器	杯蓋	天井部の外面は回転ヘラケズリ、内面は螺旋状に回転横ナデ。口縁部も回転横ナデ。Pl. 20-④	R-5469	28
	2	〃	埋土	須恵器	高杯	内外面ともに回転横ナデ調整。	R-5477	28
	3	〃	床面直上	須恵器	蓋	短頸壺の蓋。やや深い椀形。内外面ともに回転横ナデ。	R-5476	28
	4	SC-21上部	DD-14-13区Ⅲ層上部	須恵器	杯蓋	内外面ともに回転横ナデ調整。	R-5474	28
	5	〃	F-4-20+G-4-16区Ⅲ層下部・中部	須恵器	杯身	外底面は回転ヘラケズリ、他は回転横ナデ。	R-5471	28
	6	〃	DD-14-11区Ⅲ層下部	須恵器	杯身	外底面は回転ヘラケズリ、他は回転横ナデであるが、内底面には指頭による強いナデ。	R-5472	28
	7	〃	DD-14-16区Ⅲ層上部	須恵器	杯身	外底面は回転ヘラケズリ、他は回転横ナデ。	R-5470	28
	8	〃	DD-14-13区Ⅲ層最下部	須恵器	横瓶	外面はカキメ。内面は横ナデ。	R-468	28
Fig. 82	1	SC-22	埋土	須恵器	杯身	内外面ともに回転横ナデ。	R-6043	30
	2	〃	埋土	須恵器	鉢?	内外面ともに回転横ナデ。	R-6044	30
	3	〃	埋土	土師器	甕	口縁部は横ナデ。胴部の外面はナデ、内面は刷毛目調整。	R-6046	30
Fig. 83	1	SC-22上部	DB-15-10区Ⅲ層下部	須恵器	杯蓋	天井外面は回転ヘラケズリ,内面は回転横ナデ,外面にヘラ記号をもつ。	R-6051	30
	2	〃	DB-15-9・10区先行トレンチ	須恵器	杯蓋	天井外面は回転ヘラケズリ、内面は回転横ナデ。	R-6048	30
	3	〃	DB-15-10区Ⅲ層上部	須恵器	杯蓋	天井外面は回転ヘラケズリ、内面は回転横ナデ。	R-6056	30
	4	〃	DB-15-9区Ⅲ層下部	須恵器	杯身	外底面は回転ヘラケズリ、他は回転横ナデ。	R-6053	30
	5	〃	DC-14-23区Ⅲ層上部	須恵器	杯身	内外面ともに回転横ナデ。	R-6014	30
	6	〃	DB-15-10区Ⅲ層最下部	土師質	杯身	内外面ともに回転横ナデ。	R-6018	30
	7	〃	DC-15-2区Ⅲ層下部	須恵器	杯身	外面は荒れが著しく、調整は不明。内面は回転横ナデ。	R-6055	30
	8	〃	DC-15-3区Ⅲ層上部	須恵器	杯身	内外面ともに回転横ナデ。	R-6059	30
	9	〃	DC-15-3区Ⅲ層上部	須恵器	杯身	内外面ともに回転横ナデ。	R-6057	30
	10	〃	DB-15-9区Ⅲ層下部	須恵器	高杯	杯部下半は回転ヘラケズリ、他は回転横ナデ。	R-6052	30
	11	〃	DC-15-3区Ⅲ層中部	須恵器	高杯	杯部下半は回転ヘラケズリ、他は回転横ナデ。	R-6016	30
	12	〃	DC-15-3区Ⅲ層上部	須恵器	高杯	内外面ともに回転横ナデ。	R-6058	30
	13	〃	DC-14-23区Ⅲ層上部	須恵器	高杯	内外面ともに回転横ナデ。	R-6015	30
	14	〃	DB-15-9区Ⅲ層最下部	須恵器	碗	内外面ともに回転横ナデ。Pl. 20-⑤	R-6012	30
	15	〃	DB-14-23・24+DB-15-4区Ⅲ層上部	須恵器	碗	胴部下半の外面はヘラケズリ、他は回転横ナデ。Pl. 20-⑥	R-6041	30
	16	〃	DB-15-9・10区先行トレンチ	須恵器	壺	内外面ともに回転横ナデ。	R-6047	30
	17	〃	DB-15-10区Ⅲ層下部	須恵器	𤭯	外面はカキメ、内面は回転横ナデ。	R-6050	30
	18	〃	DC-15-3区Ⅲ層上部	須恵器	壺or𤭯	底部外面は回転ヘラケズリ、内面は横ナデ。	R-6060	30
	19	〃	DC-15-2区Ⅲ層下部	須恵器	壺	外面は回転ヘラケズリ、内面はナデ。	R-6017	30
	20	〃	DB-15-9区Ⅲ層最下部	土師器	甕	内外面ともに横ナデ。	R-6013	30
	21	〃	DC-14-22区Ⅲ層下部	土師器	甕	内外面ともに横ナデ。	R-6024	30
Fig. 85	1	SC-25	埋土	須恵器	杯身	内外面ともに回転横ナデ。	R-5147	33
	2	〃	埋土	須恵器	杯身	内外面ともに回転横ナデ。	R-5146	33
	3	〃	埋土	須恵器	鉢	外底面は回転ヘラケズリ、他は回転横ナデ。外面全面に、灰オリーブ色～暗オリーブ色の自然釉が付着。胴部外面にヘラ記号あり。Pl. 20-⑦	R-573	33
	4	〃	埋土	須恵器	鉢	内外面ともに回転横ナデ。黄褐色の自然釉が内外面に付着。	R-5142	33
	5	〃	埋土	須恵器	壺	外面はカキメで仕上げる。内面には同心円文のタタキ当て具痕が残る。内面には灰オリーブ色～濃オリーブ色の自然釉が付着。	R-5145	33
	6	〃	埋土	土師器	椀	口縁部の内外面～外底面は横ナデ、内底面は荒れが著しく調整不明。外底面には黒斑が残る。Pl. 20-⑧	R-570	33
	7	〃	床面直上	土師器	甕	内外面ともに横ナデ。	R-5148	33
	8	〃	埋土	土師器	甕	内外面はナデ調整。	R-5144	33
	9	〃	埋土	土師器	甕	外面は荒れのために調整不明、内面は横ナデ。	R-5143	33

挿図遺物番号		出土遺構	出土層位・調査区	種　別	器　種	形状・器面調整・胎土・焼成などの特徴	遺物登録番号	収納コンテナ
Fig.85	10	〃	埋土	土師器	甕	外面は荒れのために調整不明、内面は横ナデ。	R-5141	33
	11	〃	埋土	土師器	甕	胴部内外面は刷毛目調整の後にナデ、口縁部周辺は器面が荒れて調整不明。胴部外面に黒斑が生じている。PL.20-⑨	R-572	33
Fig.87	1	SC-25	SK-503埋土	須恵器	坏蓋	内外面ともに回転横ナデ。	R-5149	33
	2	〃	SP-251埋土	須恵器	坏身	内外面ともに回転横ナデ。焼成やや軟質。	R-5155	33
Fig.88	1	SC-25上部	DB-14-3区Ⅱ層上・中部	須恵器	坏蓋？	内外面ともに回転横ナデ。焼成は軟質。器体の傾きから高坏の可能性もあり。	R-5194	33
	2	〃	DB-13-19区Ⅱ層下部	須恵器	坏蓋	天井部外面は回転ヘラケズリ、他は回転横ナデ。内面天井部には指頭痕が残る。	R-5181	33
	3	〃	DB-14-3区Ⅱ層上部	須恵器	坏蓋	内外面ともに回転横ナデ。	R-5192	33
	4	〃	DB-13-9区Ⅱ層中部	須恵器	坏身	内外面ともに回転横ナデ。	R-5180	33
	5	〃	DB-14-1区Ⅱ層中部	須恵器	坏身	内外面ともに回転横ナデ。	R-5190	33
	6	〃	DB-13-16区Ⅱ層上部	須恵器	坏身	内外面ともに回転横ナデ。	R-5168	33
	7	〃	DB-13-22区Ⅱ層中部	須恵器	坏身	外底面は回転ヘラケズリ、他は回転横ナデ。	R-5173	33
	8	〃	DA-14-4区Ⅱ層下部	須恵器	高坏	内外面ともに回転横ナデ。	R-5156	33
	9	〃	DB-14-1区Ⅱ層上部	須恵器	高坏	内外面ともに回転横ナデ。赤焼け須恵器。	R-5188	33
	10	〃	DB-13-11区Ⅱ層上部	須恵器	高坏	内外面ともに荒れが著しく、調整は不明。焼成は軟質。	R-5166	33
	11	〃	DB-14-2区Ⅱ層中部	須恵器	長頸壺	口径不確実。内外面回転横ナデ。口縁端部を除く内面全体に黄褐色の自然釉付着。	R-5186	33
	12	〃	DB-13-8区Ⅱ層上部	須恵器	鉢	外面は回転横ナデの後にカキメを施す。内面は回転横ナデ。	R-5164	33
	13	〃	DB-14-3区Ⅱ層上部	須恵器	蓋	短頸壺の蓋。内外面ともに回転横ナデ。	R-5193	33
	14	〃	DB-14-1区Ⅱ層上部	須恵器	長頸壺	外面は回転横ナデの後にカキメ調整。内面は横ナデ。焼成は軟質。	R-5189	33
	15	〃	DA-13-25区Ⅱ層上部	須恵器	？	内外面ともに回転横ナデ。	R-5153	33
	16	〃	DB-13-6区Ⅱ層上部	須恵器	平瓶or提瓶	内外面ともに回転横ナデ。	R-5163	33
	17	〃	DB-13-17区Ⅱ層上部	須恵器	横瓶	外面はカキメ、内面はナデ。	R-5170	33
	18	〃	DB-13-6区Ⅱ層中部	須恵器	壺	口縁部周辺から頸部内面は回転横ナデ、頸部外面はカキメ調整。	R-5177	33
	19	〃	DB-14-7区Ⅱ層上部	須恵器	壺	外面はカキメ調整、内面は回転横ナデ、部分的に指頭痕が残る。	R-5187	33
	20	〃	DA-14-4区Ⅱ層最下部	須恵器	甕	内外面ともに回転横ナデ。焼成は軟質。小片のために口径は不確実。	R-5158	33
	21	〃	DB-13-19区Ⅱ層上部	土師器	甕	内外面ともに横ナデ。	R-5171	33
	22	〃	DA-13-24区Ⅱ層中部	土師器	甕	内外面ともに横ナデ。	R-5152	33
	23	〃	DA-14-5区Ⅱ層上部	土師器	甕	内外面ともに横ナデ。	R-5159	33
	24	〃	DA-14-5区Ⅱ層下部	土師器	甕	内外面ともに横ナデ。	R-5161	33
	25	〃	DA-14-5区Ⅱ層中部	土師器	甕	内外面ともに横ナデ。	R-5160	33
	26	〃	DB-13-22区Ⅱ層最下部	土師器	甕	内外面ともに横ナデ。	R-5184	33
	27	〃	DB-14-4区Ⅱ層上部	土師器	甕	口縁部周辺は横ナデ。胴部内外面は刷毛目の後にナデ。	R-5196	33
	28	〃	DB-14-4区Ⅱ層下部	土師器	甕	口縁部周辺は横ナデ。胴部内面には刷毛目が残る。	R-5195	33
	29	〃	DB-13-22区Ⅱ層最下部	土師器	甑	外面は荒れが著しく調整不明。内面は刷毛目調整。成形時に器体に入った亀裂を補修するためか、厚く粘土が貼り付けられている。	R-5175	33
	30	〃	DA・DB-13・14区Ⅱ層	土師器	甑	二次的な火熱を受けて、器面が荒れ、調整は不明。	R-574	33
Fig.91	1	SC-28	埋土	須恵器	高坏	内外面ともに回転横ナデ。ただし、脚部内面は回転ケズリが施される。器体は歪みが著しい。焼成は不良。PL.20-⑩	R-528	40
	2	〃	埋土＋DA-13-17区Ⅱ層下部	須恵器	短頸壺	形成中に底部に5～6cmの穴をあけて、指を差し込み胴部下半の調整を行った後、粘土円盤を貼り付ける。そのため、胴部内面には指頭痕が集中してみられる。胴部外面は、平行条線タタキの後にカキメを施す。内面は横ナデ。焼成不良。PL.21-①	R-5733	40
	3	〃	埋土	弥生土器	壺	複合口縁外面に6条の沈線を巡らし、その下方に4条1単位の櫛歯状工具で「×」字文を施文。器壁の芯部に黒化部が残る。	R-517	40
	4	〃	埋土	弥生土器	壺	外面は横ナデ、内面螺旋のミガキ調整。頸部の中位に粘土紐を張り付け、布を巻いた指頭で押捺刻目を施す。	R-5699	40
	5	〃	埋土	弥生土器	高坏	坏部の屈曲部に6条の沈線状凹線を施し、その下方にヘラ状工具で浅い鋸歯文を施文。内外面とも横ナデ仕上げ。	R-5698	40
	6	〃	埋土	弥生土器	高坏	脚部中位に7条の細く浅い沈線を巡らし、6方向に矢羽根透孔を配置する。ただし、透かし穴は未貫通。	R-5694	40
	7	〃	埋土	土師器	甕	内外面とも二次的火熱を受けて器面が荒れ、調整は不明。	R-524	40
	8	〃	埋土	弥生土器	壺	不安定な凸レンズ状底。外面の器表2～4mmが橙褐色に焼き上がり、器壁の芯部～内面は黒色の黒化部が残る。	R-532	40
	9	〃	埋土	弥生土器	壺	不安定な凸レンズ状底。外面は荒れが著しく、調整の子細は不明。内面は丁寧なケズリ調整。内外に黒斑が生じている。	R-5697	40
	10	〃	埋土	弥生土器	甕	上げ底。外面には指頭痕がわずかに残る。内面はナデ調整。	R-512	40
Fig.92	1	SC-28	SP-264埋土	須恵器	蓋	薄手のつくりで、復元径が小さいので、Ⅱ層出土のFig.94-12・13と同じく、短頸壺の蓋の可能性を考える。	R-5730	40
	2	〃	SP-264上部流入土①層	弥生土器	壺	内外面ともに横ナデ。	R-5731	40
	3	〃	SP-264埋土	弥生土器	甕	口縁屈曲部に粘土紐を貼付し、平織りの布を巻いた指頭で押捺しながら刻目を施す。	R-5732	40
Fig.94	1	SC-28上部	CZ-13-9区Ⅱ層下部	須恵器	坏蓋	外面は荒れが著し、調整の子細不明。内面は回転横ナデ。	R-5708	40
	2	〃	CZ-12-25区Ⅱ層上部	須恵器	坏蓋	天井部は回転ヘラケズリ。他は回転横ナデ。	R-5717	40
	3	〃	DA-13-6区Ⅱ層下部	須恵器	坏身	内外面ともに回転横ナデ。受け部の付け根に丸い棒状工具を押さえつける。	R-5709	40
	4	〃	DA-13-8区Ⅱ層上部	須恵器	坏身	内外面ともに回転横ナデ。受け部の付け根には、先端が小さく丸い棒状工具を押さえつけ。小片のため、口径はやや不確実。	R-5711	40
	5	〃	Ⅱ層	須恵器	坏身	内外面ともに横ナデ。受け部の付け根には、先端が小さく丸い棒状工具を押さえつけ。小片のため、口径はやや不確実。	R-5710	40
	6	〃	DA-13-7・14区Ⅱ層上・下部	須恵器	坏身	外底面は回転ケズリ、内面は回転横ナデ。PL.20-⑪	R-5696	40
	7	〃	DA-12-22区Ⅱ層上部	須恵器	坏身	内外面ともに回転横ナデ。焼成不良。小片のために器体の傾きは不確実。	R-5719	40
	8	〃	DA-13-6区Ⅱ層下部	須恵器	坏身	外底面近くに回転ヘラケズリ痕がみられる。他の内外面は回転横ナデ。受け部端に重ね焼成のバリが付着。	R-5718	40

挿図遺物番号		出土遺構	出土層位・調査区	種類	器種	形状・器面調整・胎土・焼成などの特徴	遺物登録番号	収納コンテナ
Fig. 94	9	〃	DA-13-7区Ⅲ層上部	須恵器	高坏	内外面ともに回転横ナデ。口縁端面を強く横ナデするために浅い段ができている。	R-5713	40
	10	〃	DA-12-23区Ⅲ層上部	須恵器	高坏	口縁端部を摘むように横ナデするため、内面に浅い段が形成。内外面とも回転横ナデ。	R-5707	40
	11	〃	DA-13-10区Ⅲ層上部	須恵器	甕	肩部破片。外面は平行条線タタキの後に横ナデ。内面には同心円文当て具痕、平織りの布圧痕が部分的に残る。	R-5714	40
	12	〃	DA-13-7区Ⅲ層下部	須恵器	壺	薄手のつくり。内外面ともに回転横ナデ。小片のために口径はやや不確実。	R-5721	40
	13	〃	DA-12-23区Ⅲ層下部	須恵器	壺	薄手のつくり。内外面ともに回転横ナデ。小片のために口径はやや不確実。	R-5722	40
	14	〃	DA-13-8区Ⅲ層上部	須恵器	壺	薄手のつくりで、内外面ともに回転横ナデ調整。	R-5715	40
	15	〃	DA-13-3区Ⅲ層上部	須恵器	𤭯	𤭯の口縁部片と考えた。内外面ともに回転横ナデ。小片で、しかも器体が歪んでいるため、口径は不確実。	R-5716	40
	16	〃	DA-13-6区Ⅲ層下部	須恵器	提瓶	胴部破片。器体の歪みが著しい。外面は[illegible]に近い回転ナデ調整、内面は横ナデ。	R-5723	40
	17	〃	DA-12-22区Ⅲ層下部	土師器	甕	外面は二次的な火熱を受けて荒れが著しく、赤変。内面は横ナデ。器壁の芯部には灰黒色の黒化層が残る。	R-5724	40
	18	〃	DA-12-22区Ⅲ層上部	土師器	甕	口縁端面は横ナデすることで小さな面ができている。内外面ともに横ナデ。小片のために口径は不確実。	R-5725	40
	19	〃	DA-13-2・3・8・22区Ⅲ層下部	土師器	甕	内外面とも横ナデ。口縁部の屈曲部に部分的に平行条線タタキが残る。また内面には指頭痕がわずかに観察できる。破片によっては二次的火熱を受けて赤変したものがある。	R-5700	40
Fig. 96	1	SC-30	北東部床面直上	須恵器	坏蓋	天井部外面は回転ヘラケズリ。他は回転横ナデ。小片のために径はやや不確実。	R-5693	42
	2	〃	西半部埋土上部	須恵器	蓋	天井部外面は回転ケズリ。他は回転横ナデ。	R-5682	42
	3	〃	北半部埋土上部	須恵器	坏蓋	口縁端部を摘むように横ナデするため、内面に浅い段が巡る。内外面ともに回転横ナデ。	R-5683	42
	4	〃	埋土中部～上部	弥生土器	甕	口縁端部を上方へ横ナデで摘み上げる。内外面ともにナデ調整。	R-5677	42
	5	〃	床面直上	弥生土器	甕？	内外面ともに横ナデ。	R-5673	42
	6	〃	埋土	弥生土器	壺	複合口縁壺。タガ部上面に3条一単位の山形文、その上方に刷毛目工具小口の角部を押捺して列点文を施文。	R-5684	42
	7	〃	埋土下部	弥生土器	壺	内外面ともに横ナデ。	R-5680	42
	8	〃	東半部埋土	弥生土器	壺？	内外面ともに横ナデ。	R-5678	42
	9	〃	北東部埋土	弥生土器	壺？	口縁直下まで刷毛目工具でナデ上げ、その後に軽くナデ仕上げる。器壁の芯部に灰色の黒化層が残る。焼成不良。	R-5686	42
	10	〃	北半部埋土上部	弥生土器	高坏	内外面とも横ナデ。	R-5685	42
	11	〃	埋土下部	弥生土器	壺	外面は丁寧なナデ仕上げ。内面はナデ。器壁芯部には黒色の黒化層が厚く残り、内面は黒化層がしみ出して黒変する。器表面のごく薄くが橙褐色に浮き上がる。	R-5676	42
	12	〃	埋土	弥生土器	甕	外面は横ナデ、内面はナデ。内外に黒斑が生じている。	R-5681	42
	13	〃	埋土	弥生土器	壺	外面は丁寧なナデ仕上げ。内面はナデ。器壁芯部には黒色の黒化層が厚く残り、内面は黒化層がしみ出して黒変する。器表面のごく薄くが橙褐色に浮き上がる。	R-5679	42
	14	〃	埋土	弥生土器	甕	外面および外底面は指頭によるナデ調整。内面はナデ。外底～底部側面に黒斑。	R-5675	42
	15	〃	北東部床面直上	弥生土器	壺	ミニチュア土器。外面はナデ。内面には指頭痕および粘土紐接合痕が残る。器壁の芯部に淡い黒色の黒化層が残る。焼成不良。	R-5674	42
Fig. 98	1	SC-30	貼り床部	須恵器	坏蓋	天井部外面は回転横ナデ。他は回転横ナデ。Pl. 21-②	R-5669	42
	2	〃	貼り床部	須恵器	坏蓋	内外面ともに回転横ナデ。	R-5671	42
	3	〃	貼り床部	須恵器	壺or甕	胴部破片。外面は平行条線タタキの後にカキ目調整を施す。内面には同心円当て具痕。	R-5672	42
	4	〃	貼り床部	弥生土器	壺	内外面ともに横ナデ調整。	R-5663	42
	5	〃	貼り床部	弥生土器	甕	口縁端部を横ナデで小さく上下に摘み出す。内外とも横ナデ。	R-5668	42
	6	〃	貼り床部	弥生土器	壺	外面はナデ。内面は器面が薄く剥落。	R-5664	42
	7	〃	貼り床部	弥生土器	甕	不安定な平底。指頭で底部側を部分的に摘み出す。胴部上位から指ナデを行うため、粘土のよれが生じている。	R-5665	42
	8	〃	貼り床部	弥生土器	甕	内外面ともに荒れが著しく、調整は不明。	R-5666	42
Fig. 100	1	SC-33	床面付近	須恵器	高坏	坏部下半の外面は回転ヘラケズリ、他は回転横ナデ。	R-5235	46
	2	〃	埋土+DA-14-16区Ⅲ層中・下部+DA-14-21区Ⅲ層中・下部	須恵器	𤭯	外面頸胴部境～胴部上半の接合部までは回転横ナデ、他はカキメ調整。内面はナデ。頸胴部内面に接合痕が残る。焼成前穿孔。	R-5239	46
	3	〃	床面直上	土師器	甕	口縁部周辺は器表荒れ、調整不明。胴部外面はナデ。内面屈曲部付近に指頭痕が残る。	R-5234	46
	4	〃	床面直上	弥生土器	壺	肩部外面には刷毛目調整、胴部下半は刷毛目調整の後にナデ。内面は刷毛目調整の後に指頭でナデ上げる。胴部最大径部の外面に黒斑が生じている。	R-5236	46
	5	〃	床面直上	弥生土器	壺	外面は丁寧なナデ。内面は板状工具で押さえながらナデつける。外底面から胴部下半に黒斑が生じている。	R-5237	46
	6	〃	床面直上	弥生土器	鉢	内外面ともに横ナデ。	R-5238	46
	7	〃	床面直上	弥生土器	高坏	外面はナデ、内面は絞り痕の上を指ナデ。	R-5233	46
Fig. 101	1	SC-33上部	CZ-14-20区Ⅲ層上部	須恵器	坏蓋	天井部外面は回転ヘラケズリ、内面は回転横ナデ。「×」形のヘラ記号。Pl. 21-③	R-5263	46
	2	〃	DA-14-21区Ⅲ層上部	須恵器	坏蓋	天井部外面は回転ヘラケズリ、他は回転横ナデ。全体に器壁は薄い。	R-5255	46
	3	〃	CZ-15-4区Ⅲ層上部	須恵器	坏蓋	天井部外面は回転ヘラケズリ、他は回転横ナデ。	R-5241	46
	4	〃	CZ-15-5区Ⅲ層中部	須恵器	坏身	天井部外面は回転ヘラケズリ、他は回転横ナデ。	R-5248	46
	5	〃	DA-14-16区Ⅲ層上部	須恵器	坏身	内外面ともに回転横ナデ。	R-5250	46
	6	〃	DA-14-21区Ⅲ層上部	須恵器	坏身	内外面ともに回転横ナデ。	R-5254	46
	7	〃	DA-15-1Ⅲ層中部	須恵器	坏身	外底面は回転ヘラケズリ、他は回転横ナデ。焼成中に底部の器壁が膨らみ空洞が生じている。	R-5275	46

挿図遺物番号		出土遺構	出土層位・調査区	種類	器種	形状・器面調整・胎土・焼成などの特徴	遺物登録番号	収納コンテナ
Fig.101	8	〃	CZ-14-24区Ⅲ層上部	須恵器	坏身	外底面は回転ヘラケズリ、他は回転横ナデ。	R-5267	46
	9	〃	CZ-14-20区Ⅲ層上部	須恵器	壺	外底面は回転ヘラケズリ、内面は回転横ナデ。内底面中央に円形の滓痕が重なる。PL.21-⑧	R-5262	46
	10	〃	DA-15-1+DA-15-6区Ⅲ層上部	須恵器	高坏	外底面は回転ヘラケズリ、他は回転横ナデ。	R-5274	46
	11	〃	DA-14-2区Ⅲ層上部	須恵器	高坏	内外面ともに回転横ナデ。	R-5256	46
	12	〃	CZ-15-5区Ⅲ層中部	須恵器	高坏	坏部下半は回転ヘラケズリ、他は回転横ナデ。	R-5244	46
	13	〃	CZ-14-20区Ⅲ層上部	須恵器	𤭯	内外面ともに回転横ナデ。焼成がやや不良で、器表面はにぶい黄褐色。	R-5261	46
	14	〃	DA-14-21区Ⅲ層中部	須恵器	蓋	内外面ともに回転横ナデ。	R-5257	46
	15	〃	CZ-15-5区Ⅲ層中部	須恵器	壺	内外面ともに回転横ナデ。口縁部外面に櫛状工具押圧して刻目を施す。	R-5245	46
	16	〃	CZ-15-5区Ⅲ層中部	須恵器	鉢	内外面ともに回転横ナデ。PL.21-①	R-5253	46
	17	〃	CZ-14-25、CZ-15-5区Ⅲ層最下部	須恵器	鉢	内外面ともに回転横ナデ。外面には、凹線文、3本一単位の櫛描き波状文を施文。内面全体に暗オリーブ灰色、外面全体には黒色の自然釉がみられる。焼成は不良。以下、17~19は同一個体。PL.21-⑤	R-5272	46
	18	〃	CZ-15-5区Ⅲ層中部	須恵器	鉢	内外面ともに回転横ナデ。櫛描波状文とその上下に凹線文を施す。波状文は4本一単位。内面全体に黒色、外面には部分的にオリーブ黒色の自然釉がみられる。PL.21-⑥	R-5247	46
	19	〃	CZ-14-25区Ⅲ層上部	須恵器	鉢	内外面ともに回転横ナデ。外面凹線文2条とその間に3本一単位の波状文を施す。内面全体に灰色、外面上位にオリーブ灰色の自然釉が付着。PL.21-⑦	R-5269	46
	20	〃	CZ-14-25区Ⅲ層中部+CZ-15-5区Ⅲ層最下部	須恵器	広口壺	口縁部端部は回転横ナデ。胴部の外面は平行条線のタタキ目、内面には同心円文の当て具痕。	R-5243	46
	21	〃	CZ-15-4区Ⅲ層下部	土師器	壺	内外面ともに横ナデ。口縁部が歪む。	R-5242	46
	22	〃	DA-15-1区Ⅲ層下部	土師器	甕	外面は荒れのため調整不明。内面はナデ。	R-5276	46
	23	〃	CZ-15-5区Ⅲ層中部	土師器	甕	口縁部外面はナデ、胴部外面は刷毛目の後に乱雑にナデ仕上げ。内面は器面が荒れて、調整不明。小片のため、口径は不確実。推定口径は約20~21cmほどか。	R-5246	46
	24	〃	CZ-14-20区Ⅲ層中部	土師器	甕	内外面ともに横ナデ。	R-5265	46
	25	〃	CZ-14-20区Ⅲ層上部	土師器	甕	内外面ともに横ナデ。	R-5264	46
	26	〃	DA-14-21区Ⅲ層中部	土師器	甕	内外面ともに横ナデ。口縁部下半部の内面に黒変部が残る。	R-5260	46
Fig.102	1	SC-37	埋土中	須恵器	坏蓋	内外面ともに回転横ナデ。	R-5452	53
	2	〃	埋土中	須恵器	坏蓋	内外面ともに回転横ナデ。	R-5457	53
	3	〃	埋土中	須恵器	蓋	短頸壺の蓋。内外面ともに回転横ナデ。	R-5456	53
	4	〃	埋土中	須恵器	高坏	内外面ともに回転横ナデ。	R-5453	53
	5	〃	埋土中	須恵器	高坏	内外面ともに回転横ナデ。径が大きすぎるのは、器体が歪んでいるため。	R-5458	53
	6	〃	床面直上+SC-18埋土	土師器	鉢	内外面ともにヘラミガキ。内面には弧を描くような暗文を施す。外面のミガキも暗文を意識したミガキとなっている。PL.21-⑩	R-5462	53
	7	〃	貼り床部	須恵器	坏蓋	天井部外面は回転ヘラケズリ、他は回転横ナデ。	R-5454	53
	8	〃	貼り床部	須恵器	坏身	内外面ともに回転横ナデ。	R-5451	53
	9	〃	貼り床部	須恵器	高坏?	小片で径はやや不確実であるが、径から高坏と考えた。坏部下半は回転ヘラケズリ、他は回転横ナデ。	R-6211	53
	10	〃	貼り床部	土師器	甕	胴部内外面は刷毛目、内面には指頭痕が残る。口縁部は横ナデ。焼成は不良、器壁の芯部に薄い黒化層が残る。	R-5455	53
	11	〃	貼り床部	土師器	甑?	甑にしては器体が短すぎる。外面は荒れが著しく調整は不明。内面は横刷毛目調整。	R-6212	53
	12	〃	貼り床部	土師器	甑?	小型の把手の破片。手捏ね成形で、指頭痕が全面に残る。	R-5460	53
Fig.105	1	SB-42	SP-432上部流入土①層	須恵器	坏蓋	径から坏蓋と考え図化した。天井部外面は回転ケズリ、内面は回転横ナデ。	R-5889	103
	2	〃	〃	須恵器	坏蓋	径から蓋と考え図化した。天井部外面は回転ケズリ、内面は回転横ナデ。	R-5888	103
	3	〃	SP-432埋土	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ。口縁屈曲部の突帯には平織りの布を巻いた指先で刻目を施す。	R-5887	103
	4	SB-43	SP-334立柱痕跡内	須恵器	坏身?	坏身とするには器体の傾きが強い。口縁端部を横ナデする結果、内面に浅い段が巡る。	R-5919	101
	5	〃	SP-334埋土	須恵器	壺	肩部破片。外面は平行条線タタキの後にカキメ、内面には同心円文の当て具痕が残る。外面には自然釉がみられる。	R-5918	101
	6	〃	SP-335埋土	須恵器	坏身	内外面ともに回転横ナデ。	R-5920	101
	7	〃	SP-474上部流入土①層	須恵器	横瓶	内外面ともに横ナデ。胴部付け後に篦状工具によるナデ痕が残る。	R-5878	103
	8	〃	〃	弥生土器	甕	口縁端面に2条の浅い凹線文を一気に巡らす。凹線文は幅が狭く浅く「U」字形で沈線状。口縁部~胴部外面はナデ、内面はケズリ。	R-5877	103
	9	SB-44	SP-458埋土	弥生土器	壺	口縁外面に4条の凹線文を2条ずつ巡らすが、凹線が重なり合う部分がみられる。内外面ともに横ナデ。	R-5892	103
	10	SB-45	SP-434掘り形埋土	須恵器	坏蓋?	天井部外面は回転ヘラケズリ、他は回転横ナデ。	R-5817	103
	11	〃	SP-434上部流入土①層	須恵器	坏身	内外面ともに回転横ナデ。	R-5903	103
	12	〃	SP-434掘り形埋土	須恵器	長頸壺	肩部に櫛歯状工具で短斜線文を巡らす。内外面ともに回転横ナデ。	R-5816	103
	13	〃	SP-434上部流入土①層	須恵器	甕?	胴部破片。外面には平行条線タタキ、内面には同心円文の当て具痕が残る。14と同一個体?	R-5905	103
	14	〃	SP-434上部流入土①層	須恵器	甕?	肩部破片。外面には平行条線タタキ、内面には同心円文の当て具痕。	R-5906	103
	15	〃	SP-434上部流入土①層	土師器	甕	口縁部先端の細片。内外面ともに横ナデ。	R-5904	103
	16	〃	SP-434掘り形埋土	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ。口縁端部がを上方へ跳ね上げる。	R-5818	103
	17	〃	SP-435埋土	須恵器	坏身	内外面とも回転横ナデ。	R-5820	103
	18	〃	SP-435上部流入土①層	須恵器	坏身	外底面は回転ヘラケズリ、他は回転横ナデ。	R-5819	103
	19	〃	SP-435掘り形埋土	須恵器	高坏	内外面ともに回転横ナデ。坏部の中位に段が巡る。	R-5821	103
	20	〃	SP-435埋土	弥生土器	壺	口縁部の細片。内外面ともに横ナデ。	R-5956	103
	21	SB-46	SP-404埋土	須恵器	蓋	口縁部の一部が捲れるように歪む。内外面ともに回転横ナデ。口縁端内面には、横ナデの結果、非常に浅く幅狭の沈線が巡る。器体が歪み、口径は不確実。	R-5880	103
	22	〃	SP-404埋土	須恵器	坏身	内外面ともに回転横ナデ。細片のため器体の傾きはやや不確実。	R-5881	103

挿図遺物番号		出土遺構	出土部位・調査区	種別	器種	形状・器面調整・胎土・焼成などの特徴	遺物登録番号	収納コンテナ
Fig.105	23	〃	SP-404埋土	須恵器	壺?	器壁が厚く壺の底部と考えた。外面は回転ヘラケズリ,内面は回転横ナデ。	R-5882	103
	24	〃	SP-404埋土	弥生土器	壺	内外面ともに荒れが著しく、調整は不明。	R-5879	103
	25	〃	SP-412上部流入土①層	土師器	高坏	外面は横方向のミガキを施し、そのため坏部中位に小さな段ができる。内面は丁寧な横ナデ。小片のため径はやや不確実。	R-5896	103
	26	〃	〃	須恵器	壺or甕	外面は平行条線タタキの後にカキメを施す。内面には同心円文の当て具痕が残る。	R-5898	103
	27	〃	SP-412埋土	須恵器	壺or甕	赤焼き須恵器。外面には格子タタキ、内面には同心円文の当て具痕が残る。	R-5897	103
	28	〃	SP-412上部流入土①層	土師器	甕	口縁端部を内側に摘むように横ナデ。内面は刷毛目の後に横ナデ。	R-5895	103
	29	〃	SP-473埋土	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ。	R-5883	103
	30	SB-49	SP-428埋土	須恵器	坏蓋?	高坏の可能性もあり。内外面ともに回転横ナデ。	R-5925	103
	31	〃	〃	須恵器	坏蓋	天井部外面は回転ヘラケズリ、他は回転横ナデ。径はもう少し大きくなる可能性あり。	R-5924	103
	32	〃	SP-428上部流入土①層	須恵器	壺or甕	外面は平行条線タタキの後にカキメを施す。内面には同心円文の当て具痕が残る。	R-5927	103
	33	〃	SP-430埋土	須恵器	坏身	外底面は回転ケズリ、他は回転横ナデ。	R-5885	103
	34	〃	〃	弥生土器	甕	口縁端上面に細い粘土紐を貼付。口縁屈曲部内面には、非常に浅い沈線が1条巡る。胴部外面は刷毛目の後に横ナデ、他は横ナデ仕上げ。	R-5886	103
	35	SB-57	SP-116埋土	須恵器	坏身	内外面ともに回転横ナデ。	R-6203	67
	36	〃	〃	須恵器	高坏	坏中位に段が巡る。内外面ともに回転横ナデ。	R-6204	67
	37	〃	〃	須恵器	高坏	内外面ともに回転横ナデ。外面には自然釉が点在する。	R-6080	67
	38	〃	SP-144埋土	須恵器	坏身	口縁端内面に回転横ナデで生じた浅い段をもつ面ができている。	R-5939	97
	39	〃	〃	須恵器	坏身	復元径から坏身と考えた。天井部外面は回転ケズリ。内面は横ナデ。	R-5938	97
Fig.111	1	SB-53	SP-124埋土	須恵器	壺or甕	外面は縦方向の後に横方向と交互に平行条線文タタキ。内面には同心円文の当て具痕。	R-6081	68
	2	〃	〃	弥生土器	鉢	胴部外面は施条工具で面ができるようにナデ、口縁部は横ナデ。	R-6082	68
	3	〃	SP-125埋土	土師器?	甕	肩部破片。外面は横ナデ。内面は指頭による押さえの後に横ナデ。	R-5940	97
	4	〃	SP-127埋土	須恵器	坏身	口縁立ち上がりは欠損。内外面ともに回転横ナデ。	R-6090	69
	5	〃	〃	須恵器	坏蓋	天上部外面は回転ヘラケズリ、他は回転横ナデ。	R-6092	69
	6	〃	〃	土師器	甑	内外面ともに、箆状工具による強いナデ。	R-6088	69
	7	〃	〃	土師器	甑	外面は刷毛目調整、内面はケズリ。	R-6206	69
	8	〃	〃	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ。	R-6207	69
	9	〃	〃	弥生土器	鉢	内外面ともにナデ。口縁部には内外に指頭痕がわずかに残る。	R-6091	69
	10	〃	〃	弥生土器	甕	外面は、底部側面に指頭によるナデを施した後に、刷毛目調整。内面は、内底面は指頭でおさえ、乱雑なケズリを施す。	R-6089	69
	11	〃	〃	弥生土器	壺	不安定な凸レンズ底。外面はナデ、内面は丁寧なナデ。	R-6205	69
	12	SB-56	SP-142埋土	弥生土器	甕	口縁部～胴部外面は横ナデ、胴部内面は乱雑なケズリ。	R-5944	97
	13	〃	〃	弥生土器	壺	口縁部外面の中央に沈線を1条巡らした後に、上下に箆状工具で押さえるように刺点文を施文する。内外面ともに横ナデ。	R-5933	97
	14	〃	〃	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ。口縁屈曲部には横ナデで細密条線が生じる。	R-5934	97
	15	〃	〃	弥生土器	壺	外面は、頸部近くを目の細かな刷毛目、胴部はやや太い刷毛目を施す。内面は、指頭による押さえの後に、幅広の刷毛目を施す。	R-702	97
	16	〃	〃	弥生土器	鉢	内外面ともに横ナデ。	R-5932	97
	17	〃	〃	弥生土器	甕	外面は荒れ調整は不明。内面はナデ。底部割が歪んでいる。	R-698	97
	18	SB-62	SP-299埋土	須恵器	坏身	坏身の底部として図化したが、蓋の天井部である可能性も残す。外底面は回転ヘラケズリ、内面は回転横ナデ。	R-5841	99
	19	〃	〃	弥生土器	甕	口縁上端を拡張し、2条の凹線文を施す。口縁屈曲部の内面には段状の沈線が巡る。内外面ともに横ナデ。	R-5840	99
	20	〃	SP-418埋土	弥生土器	甕	口縁端部に細い粘土紐を貼付し、端面に窪みをつける。口縁屈曲部内面に浅い沈線を1条巡らす。内外面とも丁寧な横ナデ仕上げ。	R-5893	103
Fig.114	1	SA-20	SP-235埋土	弥生土器	壺	胴部付け根に貼付された扁平な突帯が接合面で剥がれている。突帯にはヘラ状工具で切るように幅広の刻目が施される。	R-5963	99
	2	〃	SP-236埋土	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ。	R-5962	99
	3	〃	SP-544埋土	土師器	甕	内外面ともに横ナデ、口縁部内面の先端近くに指頭痕がわずかに残る。器壁の芯部には厚い灰黒色の黒化層が残る。	R-5960	105
	4	SB-59	SP-431上部流入土①層	土師器	壺	小型丸底壺の肩部破片。外面は横ナデ、外面は横ナデ。内面の口縁部近くには指頭痕がわずかに残る。器体の傾きはやや不確実。	R-5900	103
Fig.115	1	SD-92	埋土	須恵器	坏蓋	天井部外面は回転ヘラケズリ、他は回転横ナデ。	R-5135	84
	2	〃	埋土	土師器	甕	内外面ともに横ナデ。口縁端部の外面に指頭痕が残る。	R-5133	84
	3	〃	埋土	弥生土器	鉢	外面は指頭による整形後にミガキ。底部付近にはミガキは及ばず、指頭痕が残る。内面と上げ底面は、先端が丸い棒状工具でナデ。低い脚台部の対称的な位置に円形の穿孔を施す。	R-5132	84
	4	SD-94上部	DG-18-3区Ⅱ層上部	須恵器	坏蓋	天上部外面は回転ヘラケズリ、他は回転横ナデ。	R-6119	95
	5	〃	DG-18-7区Ⅱ層中部	土師器	壺	小型丸底壺。精製粘土を用い器壁を薄くつくる。外面および口縁部内面は、刷毛目で整形を行った後に、ナデを施す。部分的に刷毛目が残る。	R-6125	95
	6	〃	DG-18-7区Ⅱ層中部	弥生土器	壺	頸部の付け根に2条の凹線を巡らし、下方に細い棒状工具で刺突文を2段に施文。内面はナデ。	R-6124	95
	7	〃	DG-18-7区Ⅱ層中部	弥生土器	甕	外面は胴部に部分的に刷毛目が残る。内面はナデ調整を施すが、整形時の指頭痕が残る。	R-6126	95
	8	〃	DG-18区Ⅱ層	弥生土器	高坏	坏部と脚部の境に3条の幅が広い沈線を巡らす。坏部の内外面はナデ、脚部上半の内面には絞り痕が残り、下半は指頭によるナデ。脚部外面は器面が荒れ調整不明。	R-6118	95
	9	〃	DG-18-3区Ⅱ層中部	弥生土器	高坏	坏部と脚部の境に櫛状工具で8条の細い沈線が巡る。外面は丁寧なナデ、内面はケズリ。	R-6120	95
	10	〃	DG-18-7区Ⅱ層中部	弥生土器	壺	外面は板状工具もしくはヘラ状工具でナデつけるような調整。内面はケズリ調整。	R-6128	95

挿図遺物番号		出土遺構	出土層位・調査区	種別	器種	形状・器面調整・胎土・焼成などの特徴	遺物登録番号	収納コンテナ
Fig.115	11	〃	DG-18-6区Ⅱ層下部	弥生土器	壺	外面は刷毛目、底部裾には指頭痕が残る。内面は指頭によるナデ。胴部から外底面にかけて黒斑が生じている。	R-6123	96
	12	〃	DG-18-7区Ⅱ層中部	弥生土器	甕	外面はナデ。内面は器面が荒れ、調整不明。	R-6127	95
Fig.117	1	SF-41上部	暗褐色砂質シルト砂礫層	弥生土器	壺	口縁端面に2条の擬似凹線を施す。内外面ともに横ナデ。頸部内面に粘土接合痕が残る。	R-5992	55
	2	〃	暗褐色砂質シルト砂礫層	弥生土器	壺	内外面ともに鉄分が厚く付着するため、調整を観察できない。	R-5991	55
	3	〃	暗褐色砂質シルト砂礫層	弥生土器	高坏	内外面ともに横ナデ仕上げ。	R-5993	55
	4	〃	暗褐色砂質シルト砂礫層	弥生土器	高坏	脚部中位に7条の細いヘラ描き沈線を巡らし、下方に未貫通の矢羽根透かし孔を16個、焼成前に施す。裾部には3条の波状状の凹線、裾端面にも窪みに近い浅めの凹線が巡る。	R-5995	55
	5	〃	暗褐色砂質シルト砂礫層	弥生土器	甕	上げ底の底部破片。底部裾の外面は横ナデ、僅かに指頭による強いナデ調整。	R-5994	55
	6	〃	暗褐色砂質シルト砂礫層	磁器	高台付皿	近世の染付。胴部内外面に草花文を描く。	R-5997	55
	7	〃	暗褐色砂質シルト砂礫層とⅡ層との層界面	陶器	甕	近世の施釉陶器。肩部に2条の凹線が巡らされる。内外面ともに鉄釉を施す。	R-5996	55
Fig.119	1	SK-1	埋土	弥生土器	甕	内外面ナデ。口縁端部上位に1条凹線文が残る。	R-11	58
	2	〃	〃	弥生土器	壺	内外面胴部は横ナデ。底部は器面荒れ調整不明。	R-10	58
	3	SK-1上部	DG-18-2区Ⅱ層中部	弥生土器	壺	外面はナデ、内面は荒れが著しく調整不明。口縁端面に3条の凹線文を巡らす。凹線文は凹部断面が幅が狭い「U」字形で、沈線に近い。	R-5290	58
	4	〃	DG-18-2区Ⅱ層下部	弥生土器	壺	頸部の付け根に断面台形の突帯を貼り付け、平織りの布を巻いた指頭もしくは棒状工具で刻目をつける。内外面ともにナデ仕上げ。	R-5293	58
	5	〃	DG-18-2区Ⅱ層中部	弥生土器	甕	内外面ともナデ。外面全面は黒斑部。	R-5291	58
	6	SK-9	埋土	弥生土器	壺	口縁端部を上下に拡張して、端面に波状状の凹線文を3条施す。器壁の芯部に黒化層が厚く残る。	R-6064	59
	7	〃	〃	土師器	甕	口縁端部を欠損。外面は器面が荒れ調整不明。内面は強いナデ。	R-6065	59
	8	SC-23	東半部埋土	須恵器	坏蓋	口縁端部の内面には、回転横ナデで浅い段をもつ面ができている。外面天井部との境に段状の段が巡る。内外面ともに回転横ナデ。	R-5464	31
	9	〃	西半部埋土	須恵器	坏蓋	内外面とも回転横ナデ。	R-5463	31
	10	〃	埋土	土師器	甕	口縁端面に横ナデで小さな面ができている。内外面ともに横ナデ。	R-5466	31
	11	〃	西半部埋土	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ。	R-5465	31
	12	SK-26	埋土	須恵器	坏身	内外面ともに回転横ナデ。	R-6075	61
	13	〃	埋土	弥生土器	鉢?	内外面ともに横ナデ。	R-6076	61
Fig.120	1	SK-36	東側上層礫層ベルト西側	須恵器	蓋	径から考えて短頸壺の蓋と考える。内外面ともに荒れが著しく、調整の子細不明。灰色で、焼きはあまい。	R-5744	64
	2	〃	東側上層礫層ベルト西側	土師器	甕	口縁上端を小さく面取りし、端部を内傾に摘み出す。内外面とも荒れが著しく調整不明。	R-5745	64
	3	〃	東側の深い部分の埋土	土師器	高坏	脚部外面は丁寧なナデ仕上げ、内面はケズリ調整。	R-5746	64
	4	〃	東側の深い部分の埋土	弥生土器	甕	内外面ともに二次的な火熱を受け、赤変し器面の荒れが著しい。器体の傾きは不確実。	R-5747	64
	5	〃	埋土中～上部	弥生土器	甕	口縁端面を上下に拡張し、2条1単位の凹線を計4条巡らせる。上方3条の凹線は非常に浅い。頸部外面は刷毛目調整。	R-5749	64
	6	〃	埋土上～中部	弥生土器	高坏	脚裾に波状状の凹線文を3条、脚端面に1条ずつの2条の凹線文を巡らす。外面は横ナデ、内面には指頭痕が残る。	R-5830	65
	7	〃	埋土中～上部	弥生土器	脚台付鉢?	ミニチュア土器。外面には指頭によるナデ痕が多く残る。	R-5748	64
	8	SK-36上部	CY-14-10区Ⅱ層上部	須恵器	瓶	底部破片。内外面ともに回転横ナデ。外底近くに「ハ」字形の窯印をヘラ状工具で施す。	R-5834	65
	9	〃	CY-14-4区Ⅱ層中部	土製品	羽口	鞴羽口。外面には指頭によるナデ痕跡が残る。表面だけでなく、器体の芯部まで含まれた鉱物が溶解し、発泡し穴が入った状態。外面は淡い灰色、内面は浅黄色を呈する。PL.23①	R-5754	64
Fig.123	1	SK-81	焼土①層	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ。口縁端部を横ナデで跳ね上げる。	R-5848	101
	2	〃	埋土	弥生土器	甕	底部は抉れている。外面は刷毛目の後に横ナデを施す。	R-5761	101
	3	〃	焼土①層	弥生土器	壺	口縁端面を下方に拡張し、沈線風の凹線を回転させながら1条ずつ施文するが、部分的に4条もしくは5条となる。焼成不良品で、器壁の芯部を中心に小さな土塊となり崩れる。	R-5757	101
	4	〃	焼土③層直下	土師器	壺	小型丸底壺。略完形。口縁部内外は横ナデ、頸部～底部の外面はナデ。一部刷毛目が残る。外底面に黒斑が生じている。PL.19-②	R-1334	101
	5	〃	焼土③層直下	土師器	壺	小型丸底壺の底部破片。外面はナデ、内底面には指頭痕が残る。外底面には黒斑。	R-5953	101
	6	〃	焼土③層直下	土師器	壺	小型丸底壺の胴部破片。外面はナデ・刷毛目の後に、外底面を手持ちヘラケズリする。内面には指頭痕が残る。	R-1333	101
	7	〃	焼土③層直下	土師器	高坏	径から脚柱部の破片と考えた。外面および内面の裾部分は刷毛目の後に横ナデ、内面でも脚柱に近い部分は刷毛目。	R-5954	101
	8	SK-86	埋土	弥生土器	脚台付鉢	口縁部外面には5条の深い沈線状の凹線を1条ずつ巡らす。内外面ともに横ナデ。	R-5894	103
	9	SK-87上部	DA-13-10区Ⅱ層上部	須恵器	高坏	内外面ともに回転横ナデ。	R-6187	77
	10	〃	DA-13-10区Ⅱ層	須恵器	高坏	内外面ともに回転横ナデ。PL.21-⑨	R-6185	77
	11	〃	DA-13-10区Ⅱ層上部	須恵器	高坏	内外面ともに回転横ナデ。	R-6186	77
	12	SK-88	埋土	弥生土器	壺	口縁端面に、擬凹線状の凹線文を3条施す。内外面とも横ナデ調整。	R-6188	80
	13	〃	埋土	弥生土器	甕	内外面とも荒れが進み、調整の詳細は不明。径は小片のために不確実。	R-6210	80
	14	〃	埋土	須恵器	壺or甕	胴部破片。外面に平行条線のタタキの後にカキメ調整。内面には同心円文の当て具痕が残る。器体の傾きは不明。	R-6209	80
	15	SK-88上部	DB-14-9区Ⅱ層下部	須恵器	坏身	内外面ともに回転横ナデ。	R-6189	80
	16	SK-89	埋土	土師器	甕?	口縁部はわずかに肥厚し、内湾しながら外反する。	R-6176	82
	17	SK-89上部	DA-14-11区Ⅱ層中部	土師器	甕	口縁端部内面は強いナデ、外面口縁下部はわずかに肥厚する。	R-6175	82
	18	〃	DA-14-11区Ⅱ層下部	須恵器	坏身	受け部端部は破損。外底面は回転ヘラケズリ、他は回転横ナデ。	R-6180	82
Fig.124	1	SX-65	焼土ブロック内	須恵器	壺or甕	外面は斜格子タタキ、内面には同心円文の当て具痕が残る。	R-5791	52
	2	SX-68	焼土ブロック内	須恵器	蓋	口径から短頸壺の蓋と考えた。内外面ともに回転横ナデ。	R-5965	40

挿図遺物番号		出土遺構	出土層位・調査区	種別	器種	形状・器面調整・胎土・焼成などの特徴	遺物登録番号	収納コンテナ
Fig. 124	3	〃	焼土ブロック内	須恵器	甕	胴部破片。外面には縦方向の平行条線タタキの後に、カキメ調整。内面には同心円文の当て具痕が残る。	R-5728	40
	4	SX-69	焼土ブロック内	須恵器	蓋	短頸壺の蓋? 内外面ともに回転横ナデ。	R-5727	40
	5	〃	焼土ブロック内	弥生土器	高坏	4条の沈線状凹線、下方にヘラ描きの短斜線文を施文。坏部屈曲部の内面に棒状工具による押さえ気味のナデ痕が残る。	R-5726	40
Fig. 126	1	SP-128	埋土	弥生土器	壺	口縁端部は下方に拡張させ、端面に波板状の浅い凹線文を2条施す。	R-6200	70
	2	〃	埋土	弥生土器	壺	口縁端部を横ナデで拡張し、2条の凹線文を巡らす。下段の凹線文は幅が広く浅い波板状。上段はほとんど残存していないが、やや深め。	R-6100	70
	3	〃	埋土	弥生土器	甕	外面はミガキ、内面はナデ調整。	R-6199	70
	4	SP-141	埋土	須恵器	坏身	内外面ともに回転横ナデ。口縁端内面に横ナデで浅い段が生じている。	R-5941	97
	5	〃	埋土	須恵器	𤭯	口縁端部に回転横ナデで浅くあまい段が巡る。	R-5947	97
	6	〃	埋土	土師器	甑	下端部片。内外面ともに二次的な火熱を受けて赤変。外面はナデ、内面はケズリ調整。	R-5946	97
	7	〃	埋土	土師器	甕	口縁部内外面は横ナデ。胴部外面は粗い刷毛目調整、内面はケズリ。	R-5945	97
	8	SP-154	埋土	弥生土器	壺	長頸壺の肩部破片か? 内外面ともに横ナデ。頸部の付け根屈曲部に棒状工具を押さえつけた沈線。器壁芯部に厚く黒化層が残る。	R-5928	97
	9	SP-221	埋土	弥生土器	壺	口縁端部を横ナデで上方に拡張し、端面に幅広で浅い波板状の凹線文を2条巡らす。	R-5943	99
	10	SP-229	埋土	弥生土器	甕or鉢	内外面ともに横ナデ。横ナデで口縁端部を上方に摘み上げる。	R-5937	99
	11	SP-184	埋土	弥生土器	壺	外面はミガキ、内面はケズリ調整。	R-757	71
	12	SP-168上部	DF-14-21区Ⅲ層	弥生土器	壺	頸部の付け根に断面蒲鉾形の突帯を貼付し、半截りの布を巻いた指先で太い刻目を施す。内外面ともにナデ調整。	R-6208	73
	13	〃	DF-14-21区Ⅲ層	弥生土器	壺	内面底部は草本類の束を擦過した細密条線が残る。胴部は指頭によるナデ調整。部分的に指頭痕が残る。	R-6196	73
	14	〃	DF-14-21区Ⅲ層	弥生土器	甕	14・15は同一個体。外面はミガキ。底部の屈曲に指頭痕が残る。上げ底内面は箆状工具によるケズリ。内面は指頭によるナデ調整。指頭痕が帯状に残る。	R-6198	73
	15	〃	DF-14-21区Ⅲ層	弥生土器	甕		R-6197	73
	16	SP-231	上部流入土①層	弥生土器	壺	複合口縁壺の口縁端部片。外面には3条一単位の浅い櫛描き斜線文が施文される。内外面ともに横ナデ。	R-5935	99
	17	〃	掘り形埋土	弥生土器	甕	肩部破片。外面は横ナデ、内面は指押さえの後に横ナデ。	R-5936	99
	18	〃	埋土	弥生土器	甕	口縁端部を横ナデで摘み上げる。胴部内面に指頭痕が部分的に残る。内外面ともに荒れが著しく調整は不明。	R-5949	99
	19	〃	埋土	弥生土器	甕	内外面ともに荒れが著しく調整不明。器壁の芯部には黒化層が残る。	R-5950	99
	20	〃	埋土	弥生土器	高坏	口縁外面に8条の凹線を施文。1条ずつ施されるため、幅や深さはまちまちである。内外面ともに横ナデ仕上げ。	R-5951	99
	21	〃	埋土	土師器	甕	胴部破片。口縁部内外面は横ナデ。胴部外面はナデ、内面はケズリ。	R-5942	99
	22	〃	埋土	土師器	甕	口縁部内外は横ナデ。胴部外面は刷毛目、内面はケズリ。器壁の芯部には薄い黒化層。	R-5948	99
	23	SP-239	埋土	弥生土器	甕	口縁端部を上方に横ナデで摘み上げる。内外面ともに横ナデ調整。	R-5930	99
	24	〃	埋土	弥生土器	甕	口縁端部を上方に横ナデで摘み上げる。内外面ともに横ナデ調整。	R-5931	99
	25	〃	埋土	弥生土器	高坏	口縁部外面に先端の丸い細い棒状工具で、1条ずつ深い凹線を4条巡らす。内外面ともに丁寧な横ナデ仕上げ。口径はもう少し大きくなるか?	R-5929	99
	26	SP-253	埋土	弥生土器	甕	小型甕の口縁部細片。内外面ともに横ナデ調整。	R-5915	99
	27	〃	埋土②・③層	弥生土器	甕	刷毛目調整の後に、先端付近を中心として横ナデを施す。	R-5914	99
	28	〃	埋土+DA-13-24区Ⅲ層最下部+DA-13-25区Ⅲ層上部+DA-14-4区Ⅲ層下部+DA-14-5区Ⅲ層中部	須恵器	坏	外面底部は回転ヘラケズリ、内面は回転横ナデ。内底面の中央に同心円文の当て具痕が残る。坏身で図化。	R-5138	99
Fig. 128	1	SP-254	埋土	須恵器	坏?	内外面ともに回転横ナデ。器体がやや傾くため、高坏の可能性もある。	R-5872	99
	2	〃	埋土	須恵器	壺or甕	胴部下半の破片。外面は、平行条線のタタキの後にカキメを施す。内面には同心円文の当て具痕が残る。	R-5873	99
	3	SP-255	埋土	須恵器	坏身?	内外面ともに回転横ナデ。器体がやや傾くため、高坏の可能性もある。	R-6213	99
	4	SP-265	埋土	土師器?	甕	内外面ともに横ナデ。口縁直下には粘土のよれ皺がみられる。	R-5823	99
	5	SP-263	上部流入土①層	須恵器	坏	坏身の底部破片として図化したが、蓋の天井部破片である可能性もある。外底面は回転ヘラケズリ。内面は回転横ナデ。	R-5824	99
	6	〃	掘り形埋土	須恵器	壺?	径から壺底部と考えた。外底面は回転ヘラケズリ。内面は回転横ナデ。	R-5826	99
	7	〃	埋土	弥生土器	壺	外面は丁寧なナデ仕上げ。内面は縦方向のナデ。	R-5825	99
	8	〃	掘り形埋土	弥生土器	甕	外面および外底面は指頭による強いナデ調整。	R-5827	99
	9	SP-226	埋土	須恵器	坏蓋?	短頸壺の蓋の可能性もある。内外面ともに回転横ナデ。口縁端部を強く摘み出すように横ナデするため、小さな段が生じている。	R-5814	99
	10	SP-271	埋土	弥生土器	壺	口縁端部を上下に拡張し、沈線状の凹線文を4条巡らす。内外面ともに横ナデ調整。	R-5876	99
	11	SP-287	上部流入土①層	弥生土器	壺	口縁端部を上方に拡張し、深い沈線状の凹線を1条ずつ2条施文。内外面ともに横ナデ調整を施す。	R-5857	99
	12	SP-293	埋土	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ。とくに、口縁端部を摘み上げるように横ナデ。	R-5847	99
	13	SP-297	埋土	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ。口縁端部を横ナデで摘み上げる。	R-5855	99
	14	SP-300	埋土	弥生土器	甕	口縁端部を上下に拡張し、2条の凹線文を施す。内外面ともに横ナデ。	R-5842	101
	15	SP-320	立柱痕跡内	弥生土器	甕	口縁端部上面に細い粘土紐を貼り付けて、跳ね上げ口縁状につくる。内外面ともに横ナデ調整を施す。	R-1638	101
	16	SP-323	埋土	弥生土器	甕	薄づくり。口縁端面を拡張し、沈線状の細い凹線文を8条巡らす。竹管文を押捺した円形浮文を貼付。器壁芯部には厚く黒化層が残り、内面に黒化層がしみだし黒変部が残る。	R-5809	101
	17	SP-340	埋土	須恵器	高坏	身が浅いので、高坏と考えた。内外面ともに回転横ナデ。	R-5854	101
	18	SP-353	埋土	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ調整。	R-1667	101
	19	SP-346	埋土	弥生土器	壺	口縁端部を拡張し沈線風の幅狭の凹線を上2条、下4条、計6条巡らす。口縁部周辺は丁寧な横ナデ、胴部外面はミガキ。器壁芯部に黒化層が厚く残り、内面も黒変したまま。SP-323(Fig. 128-16)の可能性もある。	R-5792	101

挿図遺物番号		出土遺構	出土層位・調査区	種別	器種	形状・器面調整・胎土・焼成などの特徴	遺物登録番号	収納コンテナ
Fig. 128	20	〃	埋土	弥生土器	甕	二次的な火熱を受けて、外面は赤変し器面も荒れる。器壁の芯部には厚く黒化層が残る。	R-5764	101
	21	SP-344	埋土	須恵器	坏身	内外面ともに回転横ナデ。	R-5812	101
	22	〃	埋土	須恵器	坏身	口縁部の細片。内外面ともに回転横ナデ。	R-5813	101
	23	SP-375	埋土	弥生土器	壺	口縁外面に３条の凹線を巡らす。凹線の深さは一定せず、最上段の凹線が最も深い。内外面ともに横ナデ調整。	R-5890	101
	24	〃	埋土	弥生土器	壺	口縁端部の内面を摘み上げるように横ナデを施して、口縁端部を上方に拡張する。端面に２条の浅く不明瞭な凹線文を巡らす。	R-5891	101
	25	SP-379	埋土	弥生土器	甕	口縁部の細片。内外面ともに横ナデ調整。	R-5921	101
	26	〃	埋土	須恵器	壺or甕	胴部破片。外面は平行条線タタキの後にカキメを施す。内面には同心円文の当て具痕。	R-5922	101
	27	SP-380	埋土	弥生土器	甕	上げ底の底部破片。内外面ともに横ナデ調整。	R-5769	101
	28	〃	埋土	弥生土器	高坏	坏部底の充填円盤が剥落。脚部の付け根に箆状工具で細い沈線を４条施文。脚部内面には絞り痕が残る。	R-5770	101
	29	〃	埋土	弥生土器	高坏or脚台付鉢	脚部に長方形の透かし孔が施される。脚端面には横ナデによる凹線に近い窪みが巡る。内面には指頭圧痕が残る。	R-5771	101
	30	SP-405	上部流入土①層	弥生土器	壺	長頸壺の頸部付け根付近の破片。頸部の付け根部分に先端が丸い棒状工具で細い沈線を２条巡らす。	R-5957	103
	31	SP-409	掘り形埋土	土師器	甕	口縁部先端の細片。内外面ともに横ナデ調整。	R-5912	103
	32	〃	掘り形埋土	須恵器	𤭯？	肩部破片。内外面ともに回転横ナデ。	R-5911	103
	33	SP-377	埋土	須恵器	坏身	坏身口縁部の細片。内外面ともに回転横ナデ調整。	R-5901	101
	34	〃	埋土	須恵器	壺or甕	胴部破片。外面には平行条線タタキ、内面には同心円文の当て具痕。	R-5902	101
	35	SP-419	上部流入土①層	土師器	甕	口縁部の先端付近の小片。内外面ともに横ナデ。口縁端面に横ナデで小さな面がつくられる。	R-5811	103
	36	SP-389	掘り形埋土	弥生土器?	?	刷毛目の状態や焼き上がりから弥生土器と考えたが、器形や時期は不明。横断面が緩やかな弧を描く。外面は刷毛目調整。天井部は荒れのために刷毛目が消えている。内面は指ナデを施した後に短辺付近に刷毛目を施す。短辺端面は横ナデによって大きく窪む。	R-5958	101
	37	SP-411	埋土	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ。口縁端部直下に指頭痕がわずかに残る。	R-5765	103
	38	〃	埋土	須恵器	蓋	小片のため径は不確実。内外面ともに回転横ナデ。	R-1703	103
	39	SP-386	掘り形埋土	弥生土器	高坏	内外面ともに横ナデ調整。器壁の芯部の黒化層。	R-5800	101
	40	SP-406	埋土	須恵器	蓋	短頸壺の蓋? 小片のため口径は不確実。内外面とも回転横ナデ。	R-5763	103
	41	〃	埋土	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ。口縁屈曲部に細密沈線が巡る。	R-5899	103
	42	〃	埋土	弥生土器	甕	口縁部内外と胴部内面は横ナデ。胴部外面は刷毛目の後に横ナデ。小片で径は不確実。	R-5762	103
	43	SP-416	埋土	須恵器	壺or甕	外面は平行条線のタタキの後にカキメ調整。内面には同心円文の当て具痕が残る。器体の傾きは不確実。	R-5767	103
	44	〃	埋土	鞴羽口		羽口端部の小片。外面には指頭痕が多く残る。	R-5810	103
	45	〃	埋土	弥生土器	壺	口縁端部を上方に摘み上げる。内外面ともに横ナデ。肩部外面には箆状工具で[illegible]文を巡らす。	R-5766	103
	46	〃	埋土	弥生土器	脚台付鉢	口縁直下に５条の沈線風の凹線を巡らし、その下にヘラ状工具で斜格子文を施文。施文の後、注口用の穴を穿孔する。	R-5768	103
Fig. 131	1	SP-429	立柱痕跡内	弥生土器	甕	口縁屈曲部に突帯を貼り付けて、箆状工具による浅く切るような刻目を施す。口縁端面に黒斑が生じている。	R-1729	103
	2	〃	埋土	弥生土器	甕	内外面ともにナデ調整。底部を中心に器壁が小さな土塊となって剥れる。焼成不良品。	R-5853	103
	3	〃	掘り形埋土	弥生土器	壺or鉢	外面はナデ調整。内面は指頭によるナデ。	R-1731	103
	4	SP-443	埋土	須恵器	坏蓋	天井部外面は回転ヘラケズリ、他は回転横ナデ。調整が異なる胴部と天井部の境界には浅い段が形成される。	R-5923	103
	5	SP-444	埋土	須恵器	?	胴部破片。外面には平行条線タタキの後にカキメを施す。内面には同心円文の当て具痕。	R-5955	103
	6	SP-452	埋土	弥生土器	甕	内外面ともに荒れが著しく、調整不明。器壁の芯部に黒化層が厚く残る。	R-5850	103
	7	SP-457	埋土	弥生土器	甕	小型甕の口縁部破片。口縁端面を横ナデで上方に摘み上げる。胴部内面は粘土接合面で剥離。器壁の芯部に黒化層が残るが、剥離面には黒化層はみられない。焼成時に接合面で破損した焼成時破損Ⅰ種ｆである可能性が高い。	R-5845	103
	8	〃	掘り形埋土	弥生土器	高坏	口縁部を横ナデする結果、口縁直下に凹線状の段が巡る。器壁の芯部に厚い黒化層が残る。	R-5844	103
	9	SP-461	埋土	須恵器	坏?	坏蓋の口縁部破片？　口縁端内面に横ナデによる浅い段状の窪みが巡る。	R-5865	103
	10	SP-465	埋土	弥生土器	高坏	内外面ともに横ナデ。脚端面に幅広で浅く平坦な凹線を施す。器体が小さな土塊となって崩れる。焼成不良品。	R-5829	103
	11	SP-469	埋土	弥生土器	甕	凸レンズ状の不安定な底部。外面は乱雑なナデ、内面はナデ。	R-5856	103
	12	SP-472	埋土	弥生土器	鉢	内外面ともに荒れており、調整は不明。口縁端面に途切れながら浅い沈線が巡る。	R-5822	103
	13	SP-486	掘り形埋土	弥生土器	甕	細片のため器体の傾きは不確実。内外面ともに横ナデ調整。	R-5867	103
	14	SP-487	①層	弥生土器	甕	小片のため傾きは不確実。口縁部は上方に肥厚し、端部に沈線状の凹線文を２条施す。横ナデ調整。	R-5308	103
	15	〃	①層	弥生土器	甕	口縁端面に沈線状の凹線１条を施す。内外面とも横ナデ。	R-5367	103
	16	SP-488	埋土	弥生土器	甕	口縁端面に波板状の凹線２条施す。内外面とも横ナデ調整。	R-5359	103
	17	SK-99	埋土	弥生土器	甕	口縁端部は肥厚し、沈線状の凹線文を３条施す。内外面とも横ナデ。	R-5342	103
	18	SP-510	埋土	土師器	坏or皿	内外面ともに回転横ナデ。	R-5868	105
	19	SP-500	掘り形埋土	須恵器	坏蓋	天井部外面は回転ヘラケズリ、他は回転横ナデ。	R-6217	105
	20	〃	上部流入土①層	須恵器	壺or甕	胴部破片。外面は平行条線のタタキの後にカキメ。内面には同心円文の当て具痕が残る。器体の傾きは不明。	R-6216	105
	21	〃	上部流入土①層	弥生土器	壺	外面は刷毛目調整、内面は指頭による強いナデ調整。	R-6218	105
	22	SP-502	埋土	土師器	甕	内外面ともに横ナデ調整。	R-5289	105

挿図遺物番号		出土遺構	出土層位・調査区	種別	器種	形状・器面調整・胎土・焼成などの特徴	遺物登録番号	収納コンテナ
Fig. 131	23	SP-506	埋土	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ調整。	R-5870	105
	24	〃	埋土	弥生土器	壺	肩部に突帯を貼付し、ヘラ状工具で突帯を押しつぶすように刻目を施す。胴部内面には、指頭による強いナデを施す。	R-5869	105
	25	SP-519	埋土	土師器	壺	小型丸底壺の口縁部。内外面ともに横ナデ調整。	R-5828	105
	26	SP-525	埋土	弥生土器	壺	口縁端部を拡張して、端面に沈線状の凹線文を2条、1条ずつ施す。内外面ともに横ナデ調整。	R-5863	105
	27	SP-528	埋土	須恵器	坏身	内外面ともに回転横ナデ調整。器体は歪み、傾きは不確実。	R-5862	105
	28	〃	埋土	弥生土器	甕	外面は縦方向のナデ。内面は指頭で内底面をナデ上げ。	R-5860	105
	29	〃	埋土	土師器	甕	口縁部は横ナデ、胴部内面には乱雑なケズリ。器壁芯部に黒化層が残る。	R-5861	105
	30	SP-529	埋土	瓦器	碗	小片のため径は不確実。	R-5875	105
	31	〃	埋土	弥生土器	壺	凸レンズ状の不安定な底部。内外面ともナデ仕上げ。	R-5874	105
	32	SP-530	埋土	須恵器	甕?	胴部破片。内外面ともに荒れが著しい。外面には平行条線のタタキ痕、内面には同心円文の当て具痕が残る。	R-5790	105
	33	SP-541	埋土	弥生土器	壺or甕	外面はナデ、内面はケズリ調整。	R-5843	105
	34	SP-555		土師器	甕	内外面ともに横ナデ。	R-6184	
	35	SP-553	埋土	土師器	甕	内外面ともに横ナデ調整。器壁の芯部には黒化層が残る。	R-5884	105
Fig. 132	1	SP-582	埋土	弥生土器	壺	頸部の付け根付近の破片。内外面ともに横ナデ調整。	R-5910	105
	2	〃	埋土	弥生土器	甕	小型甕の口縁部片。内外面ともに横ナデ調整。口縁部屈曲部には指頭による強いナデ。	R-6215	105
	3	〃	埋土	弥生土器	甕	外面は横ナデ、胴部内面には棒状工具を強くナデつけ。	R-5907	105
	4	〃	埋土	弥生土器	鉢	内外面ともに横ナデ調整。外面には不整形の黒斑が生じている。	R-6214	105
	5	〃	埋土	弥生土器	高坏	脚部の付け根に6条の簾描き沈線を巡らし、矢羽根透孔を穿孔。内面には絞り痕が残る。	R-5909	105
	6	〃	埋土	弥生土器	甕	外面は横ナデ、上げ底面には指頭圧痕が残り、内底面は乱雑なナデ調整。	R-5908	105
	7	SP-561	埋土	須恵器	坏身	内外面ともに回転横ナデ。	R-5866	105
	8	SP-565	埋土	弥生土器	鉢?	内外面ともに横ナデ。底部との境界部に工具痕が残る。	R-5815	105
	9	SP-580	埋土	須恵質土器	?	器体の傾きは不明。外面には平行条線タタキ、内面は同心円文の当て具痕をナデ消す。	R-5913	105
	10	SP-583	埋土	弥生土器	甕	10・11は同一個体と考えられる。口縁部屈曲部の内面には細い沈線が巡る。口縁部外面には煤付着。口縁部周辺は横ナデ、胴部外面は刷毛目、内面は比較的丁寧なケズリ。底部の外面はやや乱雑なナデ、内面はケズリに近いかなり強いナデ。薄作りの甕である。	R-5858	105
	11	〃	埋土	弥生土器	甕		R-5859	105
Fig. 134	1	SD-2	DC・DD-13区	土師器	坏	口縁部の小片。内外面ともに回転横ナデ。	R-5662	86
	2	〃	DD-13-11区	須恵器	坏蓋	天井部外面は回転ケズリ、他は回転横ナデ。	R-5658	86
	3	〃	DC・DD区	土師器	壺	小型丸底壺。外面はナデ仕上げ。部分的に刷毛目が残る。内面は指頭によるナデ調整。肩部には粘土紐接合痕が残る。	R-5660	86
	4	〃	DC・DD区	土師器	甕	口縁端面に面を作り、内側に小さく摘み出す。内外面ともに横ナデ。器壁の芯部に黒化層が残る。焼成不良。	R-5646	86
	5	〃	DC・DD区	土師器	高坏	外面は丁寧なナデ。内面はケズリ。器体が少し歪んでいるためか、径はやや不確実。	R-5651	86
	6	〃	DC・DD区	弥生土器	甕	外面はナデ仕上げ。口縁屈曲部に刷毛目が一部残る。内面は強い2次的な火熱を受けて赤変。器面の荒れも著しい。	R-5649	86
	7	〃	DD-13-6区	弥生土器	甕	外面は刷毛目調整の後に横ナデ。内面は荒れが著しい。	R-5652	86
	8	〃	DC・DD区	弥生土器	甕	内外面ともに荒れが著しく調整は不明。	R-5659	86
	9	〃	DD-13-12区	弥生土器	甕	不安定な凸レンズ状底。底部側面には指頭痕が部分的に観察できるが、全体に器面の荒れが著しく、他は調整不明。	R-5656	86
	10	〃	DB-12区	弥生土器	甕	不安定な凸レンズ状底。内外面ともに荒れ、調整の手法不明。器壁の芯部に黒化層が残る。焼成不良。	R-5647	86
	11	〃	DD-13-12区	弥生土器	壺	口縁端面を上下に拡張し、波板状の凹線文5条を施す。内外面ともに横ナデ。	R-5657	86
	12	〃	DD-13-12区	弥生土器	壺	頸部の付け根に浅く細い沈線2条を巡らす。外面は丁寧なナデ調整。内面には指頭によるナデ痕が残る。	R-5655	86
	13	〃	DC・DD区	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ。	R-5645	86
	14	〃	DD-13-6区	弥生土器	甕	口縁端面に凹線状の窪みが巡る。内外面ともに横ナデ。	R-5653	86
	15	〃	DC・DD-13区	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ仕上げ。口縁屈曲部にはヘラ状工具で押さえつけた痕跡が集中。胴部内面には指頭痕が部分的に残る。	R-5661	86
Fig. 136	1	SD-3	DD-12区埋土	土師器	皿	外底面は回転糸切り離し。胴部外面および内面は回転横ナデ。	R-5509	90
	2	〃	DC-12区埋土	土師器	皿	外底面は回転糸切り離し。内面は回転横ナデ。	R-5590	91
	3	〃	DC-12区埋土	土師器	坏	外底面は回転糸切り離し。他は回転横ナデ。	R-5600	91
	4	〃	DD-13区埋土	土師器	高台付椀	小片で、高台径は不確実。内外面とも荒れ、調整は不明。	R-5620	91
	5	〃	DD-12区埋土	土師器	高台付椀	内外面ともに回転横ナデ。	R-5511	90
	6	〃	DD-13区埋土	土師器	高台付椀	外面は荒れ、調整不明。内面は丁寧なナデ仕上げ。	R-5619	91
	7	〃	DC-12区埋土	土師器	坏	内外面ともに二次的火熱をうけ、器面の荒れ、調整不明。器体の傾きの復元は不確実。	R-5592	91
	8	〃	DC-11区埋土	土師器	坏	外底面は回転ヘラ切り離し。胴部~内底面は回転横ナデ。器体の歪みが著しい。とくに、胴部下半は部分的に窪む。	R-5521	90
	9	〃	DC-12区埋土	土師器	坏	外底面は回転糸切り離し。内底面には回転横ナデの痕跡が残る。	R-5549	90
	10	〃	DC-12区埋土	土師器	坏	外底面は回転糸切り離し。内面は回転横ナデ。	R-5589	91
	11	〃	DD-11区埋土	土師器	皿or坏	外底面は回転糸切り離し。内面は回転横ナデ。	R-5606	91
	12	〃	DC-11区埋土	土師器	坏	内外面ともに回転横ナデ。器壁の芯部に黒化層が残る。	R-5612	91
	13	〃	DC-12区埋土	土師器	坏	内外面ともに回転横ナデ。	R-5537	90
	14	〃	DC-12区埋土	土師器	坏	内外面ともに回転横ナデ。小片のため口径はやや不確実。	R-5548	90
	15	〃	DC-11区埋土	土師器	坏	外底面は回転糸切り離し。他は回転横ナデ。	R-5601	91
	16	〃	DD-12区埋土	土師器	坏	小片のため底径はやや不確実。外底面は回転糸切り離しで、そのため残存する部分が高台状となる。内面は回転横ナデ。	R-5552	90
	17	〃	DC-12区埋土	土師器	坏	外底面は回転糸切り離し。胴部内外面~内底面は回転横ナデ。器壁の芯部分に灰黒色の黒化層が残る。	R-5539	90

挿図遺物番号		出土遺構	出土部位・調査区	種　別	器　種	形式・器面調整・胎土・焼成などの特徴	遺物登録番号	収納コンテナ
Fig. 136	18	〃	DC-12区覆土	土師器	坏	外底面は回転糸切り離し。体部内外面および内底面は回転横ナデ。Pl. 22-③	R-5535	90
	19	〃	DC-12区覆土	土師器	柱状高台土器	外底面は回転糸切り離し。他は回転横ナデ。底部には焼成前に内側から穿孔を施す。Pl. 22-①	R-5597	91
	20	〃	覆土	黒色土器	椀	黒色土器B類（両黒）。口縁部の細片。内外面ともに回転横ナデ。	R-5530	90
	21	〃	DC-12区覆土	黒色土器	椀	黒色土器B類（両黒）。口縁部外面は回転横ナデ，胴部には指押し痕が残る。内面はミガキ。	R-5588	91
	22	〃	DC-12区覆土	黒色土器	椀	黒色土器B類（両黒）。内外面とも丁寧な目の細かいミガキ。小片のため，口径は不確実。	R-5536	90
	23	〃	覆土	黒色土器	椀	黒色土器B類（両黒）。外面は回転横ナデ，内面は丁寧なミガキ。	R-5529	90
	24	〃	DC-11区覆土	黒色土器	椀	黒色土器B類（両黒）。外面は荒れが著しく調整不明。内面は非常に丁寧なミガキ，内底面には先端の丸い工具による暗文が施される。	R-5518	90
	25	〃	DC-11区覆土	瓦器	椀	器面は荒れているが，胴部外面に指押し痕がわずかに残る。	R-5611	91
	26	〃	DC-11区覆土	瓦器	椀	外面には指押し痕が残る。内面は丁寧なミガキ調整。	R-5594	91
	27	〃	DD-13区覆土	瓦器	椀	胴部外面には指押し痕が残り，他は器面が荒れて調整不明。高台端はすり切れている。高台径はやや不確実。	R-5617	91
	28	〃	DD-12区覆土	瓦器	椀	内面は丁寧なミガキ調整。ただし，内底周辺はやや粗い。外面には指押し痕が残る。	R-5516	90
	29	〃	DC-11区覆土	瓦器	椀	二次的火熱を受け内外面ともピンク色に変色。内面には部分的にミガキ調整痕が残る。	R-5593	91
	30	〃	DC-11区覆土	瓦器	椀	高台部周辺は回転横ナデ。内面は非常に丁寧なミガキ。	R-5519	90
Fig. 137	1	SD-3	覆土	白磁	皿	中国。内外とも施釉。	R-5528	90
	2	〃	覆土	白磁	皿	中国。胴部中位まで施釉。外面は回転ヘラケズリ。胴部内面には[illegible]沈線が1条巡る。Pl. 22-⑨	R-5526	90
	3	〃	DC-12区覆土	白磁	碗	中国。内外とも施釉。胴部下半の外面は回転ヘラケズリ，他は回転横ナデ。内面には浅くごく細い沈線が1条巡る。Pl. 22-⑧	R-5532	90
	4	〃	DD-13区覆土	白磁	高台付碗	中国。玉縁口縁の下端から胴部上位には釉溜り。二次的火熱を受け，釉色は変化し貫が入った状態になっている。	R-5616	91
	5	〃	覆土	白磁	碗	中国。玉縁口縁。内外とも施釉。	R-5527	90
	6	〃	DC-11区覆土	白磁	高台付碗	中国。玉縁口縁。胴部下半の外面は露胎のまま。二次的火熱を受け釉色変色。小片のため口径・器体の傾きはやや不確実。	R-5613	91
	7	〃	DD-12区覆土	白磁	高台付碗	中国。玉縁口縁がつくと考える。内外面施釉。外面は回転ケズリ。内面は回転横ナデ。	R-5553	90
	8	〃	DD-12区覆土	白磁	碗	中国。外面にはカンナケズリ状の削痕が残る。内底見込み部には，櫛状工具で渦巻き文。外面は露胎のまま。Pl. 22-⑥	R-5514	90
	9	〃	DC-12区覆土	白磁	高台付碗	中国。高台部～胴部下半の外面は回転ヘラケズリ，露胎のまま。内面は施釉，回転横ナデ。Pl. 22-⑦	R-5533	90
	10	〃	DC-11区覆土	白磁	高台付碗	中国。内面施釉，外面は露胎のまま。外面は回転ヘラケズリ。二次的火熱を受け，釉は白っぽい不透明な灰白色となり，釉色もくすむ。	R-5522	90
	11	〃	DD-13区覆土	須恵質土器	甕	亀山焼き。小片のため，復元された器体の傾きはやや不確実。内外面とも横ナデ調整。口縁内面には薄く自然釉がかかる。	R-5621	91
	12	〃	DD-11区覆土	須恵質土器	甕	亀山焼き。口縁部破片。外面は指頭による整形の後に，胴部は平行条線のタタキ調整を施し，口縁部付け根付近は横ナデ。内面は指頭を用いた強い横ナデ。	R-5605	91
	13	〃	DD-11区覆土	須恵質土器	こね鉢	亀山焼き。外面は強い横ナデ。内面はナデであるが，器面は摩滅。	R-5608	91
	14	〃	DC-12区覆土	須恵質土器	甕	亀山焼き。口縁部片。内外面ともに横ナデ。口縁部直下に浅い帯状の沈線が1条巡る。	R-5587	91
	15	〃	DD-11区覆土	瓦	丸瓦	表面は燻して黒色を呈する。[illegible]が部分的に残る。凹部には布目痕が残る。	R-5609	91
	16	〃	DD-11区覆土	常滑焼	擂鉢	外面は乱雑な横方向の轆轤目が残る。内面には，9条1単位で幅1mmほどのおろし目が施される。外底部は板おこし。	R-5565	91
Fig. 138	1	SD-3	DC-11区覆土	須恵器	蓋	短頸壺の蓋か。内外面ともに回転横ナデ。	R-5614	91
	2	〃	DD-12区覆土	須恵器	蓋	短頸壺の蓋。内外面ともに回転横ナデ。	R-5550	90
	3	〃	DD-12区覆土	須恵器	坏身	内外面とも回転横ナデ。	R-5612	90
	4	〃	DC-12区覆土	須恵器	坏身	外底面は回転ヘラケズリ，他は回転横ナデ。器体が歪み，口径は不確実。	R-5631	90
	5	〃	DC-12区覆土	須恵器	坏身	内外面ともに回転横ナデ。	R-5591	91
	6	〃	DC-12区覆土	須恵器	高坏	内外面ともに回転横ナデ，坏部下半は回転ヘラケズリ。回転横ナデによって，坏部中位に凹線風の段，口縁部内面には浅い沈線状の段が生じている。	R-5599	91
	7	〃	DC-11区覆土	須恵器	高坏	内外面ともに回転横ナデ。焼成前に三方に透孔を施す。	R-5622	92
	8	〃	DC-11区覆土	須恵器	壺	内外面ともに回転横ナデ。	R-5520	90
	9	〃	DD-11区覆土	須恵器	瓶	内外面ともに回転横ナデ。肩部に凹線状の浅い段が巡る。	R-5607	91
	10	〃	DC-12区覆土	須恵器	提瓶	内外面ともに回転横ナデ。器壁の芯部には小豆色の黒化層が残る。	R-5623	92
	11	〃	DC-12区覆土	須恵器	壺	内外面ともに回転横ナデ。復元口径は22.5～27cmである。口径25cmで図化。部分的に自然釉がかかる。	R-5534	90
	12	〃	DD-12区覆土	須恵器	壺	肩部破片。内外面ともに回転横ナデ。外面には薄く自然釉が付着。外面は灰白色，内面は小豆色。胎土は比較的きめ細やか。	R-5554	90
	13	〃	DC-11区覆土	須恵器	把手付き甕	外面は平行条線のタタキの後にカキメ調整を施す。内面には同心円文の当て具痕。	R-5595	91
	14	〃	DD-12区覆土	須恵器	坏身	外底面は回転ヘラケズリ。他は回転横ナデ。	R-5515	90
	15	〃	CZ-11区覆土	土師器	高坏	内外面ともに横ナデ。二次的火熱を受けて表面はピンクに変色。	R-5602	91
	16	〃	CZ-11区西半部覆土	土師器	甕	外面の平行条線タタキを乱雑なナデ調整で消す。内面は抉るように指頭で強いナデ。	R-5569	91
	17	〃	CZ-12区東半部覆土	弥生土器	壺	複合口縁壺。口縁部の接合面で剥離。外面には櫛描波状文が施文。ただし，条線間の間隔は一定せず，器体が屈曲する部分では途切れる。内面は刷毛目調整の後にナデ。	R-5525	90

挿図遺物番号		出土遺構	出土層位・調査区	種別	器種	形状・器面調整・胎土・焼成などの特徴	遺物登録番号	収納コンテナ
Fig. 138	18	〃	DC-11区埋土	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ。外面には薄く煤が付着。	R-5615	91
	19	〃	CZ-11区西半部埋土	弥生土器	支脚	角形支脚。外面は指頭によるナデ調整。内面には絞り痕が残る。	R-5626	92
	20	〃	DD-11区埋土	弥生土器	壺	小さな凸レンズ状底。器面調整は荒れが著しく詳細不明。	R-5579	91
	21	〃	DC-12区埋土	弥生土器	壺	凸レンズ状底。外面は荒れて調整不明。内底面は器表面が薄く剥落。	R-5596	91
	22	〃	DD-11区埋土	弥生土器	壺	口縁端面に波状の凹線文を4条施す。器面は荒れて調整は不明。	R-5580	91
	23	〃	DD-11区埋土	弥生土器	高坏	内外面ともに荒れ、調整不明。器壁芯部に黒灰色の黒化層が残る。	R-5610	91
	24	〃	CZ-11区埋土	弥生土器	甕	内外面とも横ナデ。口縁端面に1条ずつ2条の凹線文を施す。	R-5603	91
	25	〃	DD-12区埋土	弥生土器	壺	外面はナデ、底部裾には指頭痕がわずかに残る。内面は箆状工具によるナデ上げ。外底面に黒斑が生じている。	R-5551	90
	26	〃	DC-12区埋土	弥生土器	鉢?	内外面ともに荒れ、調整は不明。内面は黒変。	R-5598	91
	27	〃	CZ-12区東半部埋土	弥生土器	甕	外面はミガキ、内面はナデ。	R-5623	90
	28	〃	CZ-12区東半部埋土	弥生土器	甕	外面は二次的火熱を受けて淡く赤変。器面は荒れているが、部分的にミガキ痕を観察できる。内面はナデ調整、外底面を中心として黒斑が生じている。	R-5524	90
Fig. 141	1	SD-3	DA-12区最下部粗砂層	土師器	皿	外底面は回転糸切り離し。他は回転横ナデ。	R-5507	90
	2	〃	DA-12区最下部粗砂層	土師器	皿	外底面は回転糸切り離し。他は回転横ナデ。Pl. 22-①	R-5506	90
	3	〃	DA-12区最下部粗砂層	土師器	皿	外底面は回転糸切り離し。他は回転横ナデ。Pl. 22-②	R-5505	90
	4	〃	DA-12区最下部粗砂層	土師器	皿	器面の荒れが著しく調整不明。ただし、外底面には回転糸切り離し痕と考えられる弧状の条線が残る。	R-5578	91
	5	〃	DA-12区最下部粗砂層	土師器	皿?	外底面は回転糸切り離し。内底面は回転後ナデ。器壁芯部に黒化層が残る。	R-5546	90
	6	〃	DA-12区最下部粗砂層	土師器	坏	内外面ともに回転横ナデ。小片のため、復元口径はやや不確実。	R-5575	91
	7	〃	DA-12区最下部粗砂層	土師器	坏	内外面ともに回転横ナデ。器体が歪んでいるため、復元口径は不確実。	R-5574	91
	8	〃	DA-12区最下部粗砂層	土師器	坏	内外面ともに回転横ナデ。小片のため復元口径はやや不確実。	R-5585	91
	9	〃	DA-12区最下部粗砂層	土師器	坏	外底面は回転糸切り離し。他は回転後ナデ。器壁芯部に厚い黒化層が残る。	R-5562	91
	10	〃	DA-12区最下部粗砂層	土師器	坏	外底面は回転糸切り離し。他は回転後ナデ。	R-5582	91
	11	〃	DA-12区最下部粗砂層	土師器	坏	外底面は回転糸切り離し。内底面は回転後ナデ。	R-5545	90
	12	〃	DA-12区最下部粗砂層	土師器	柱状高台土器	外面は指頭による強いナデ調整。外底面はナデ仕上げ。底部に焼成前に小孔を穿孔する。	R-5627	92
	13	〃	DA-12区最下部粗砂層	瓦器	皿	外面は口縁部付近、横ナデ。胴部には指頭圧痕が残る。内面には暗文風のミガキ調整。	R-5584	91
	14	〃	DA-12区最下部粗砂層	瓦器	椀	口縁部周辺をわずかに屈曲させ、口縁端をやや尖り気味に仕上げる。器面は荒れて調整は不明である。	R-5572	91
	15	〃	DA-12区最下部粗砂層	瓦器	椀	内面は丁寧なミガキ調整。小片であり、復元口径は不確実。	R-5563	91
	16	〃	DA-12区最下部粗砂層	瓦器	椀	口縁部外面は横ナデ、胴部外面には指押し痕。内面は暗文風のミガキ。	R-5573	91
	17	〃	DA-12区最下部粗砂層	瓦器	椀	口縁外面は横ナデ、胴部外面には指押し痕。内面は丁寧なミガキ調整。小片で口径は不確実。	R-5558	91
	18	〃	DA-12区最下部粗砂層	瓦器	椀	胴部外面には指押し痕が残る。口縁部周辺は横ナデ、内面はミガキ。	R-5508	
Fig. 142	1	SD-3	DA-12区最下部粗砂層	須恵質土器	コネ鉢	外底面は回転糸切り離し。胴部内外面~内底面は回転横ナデ。Pl. 22-⑪	R-5540	90
	2	〃	DA-12区最下部粗砂層	須恵質土器	壺?	内外面ともに横ナデ。内底、見込み部には目跡が輪状に残る。Pl. 22-⑩	R-5560	91
	3	〃	DA-12区最下部粗砂層	白磁	碗	中国。内外面とも回転横ナデの後に施釉。内面には細く浅い沈線が1条巡る。	R-5571	91
	4	〃	DA-12区最下部粗砂層	土師器	鍋	口縁部を指頭で折り曲げた後に刷毛目工具で調整。外面には煤付着。Pl. 22-④	R-5630	92
Fig. 143	1	SD-3	DA-12区最下部粗砂層	須恵器	高坏	内外面とも回転横ナデ。坏中位に小さな断面三角形の稜が巡る。口縁端部には回転横ナデで面をつくる。口縁端部の外面には櫛状の工具を押捺して刻目を施す。	R-5586	91
	2	〃	DA-12区最下部粗砂層	須恵器	高坏	坏部上半は回転ヘラケズリ。他は回転横ナデ。	R-5557	91
	3	〃	DA-12区最下部粗砂層	須恵器	坏身	外底面は回転ヘラケズリ。胴部内外面~内底部は回転横ナデ。	R-5541	90
	4	〃	DA-12区最下部粗砂層	須恵器	坏身	口縁端部は回転横ナデで小さな面がつくられ、細く浅い沈線が巡る。外底面は回転ヘラケズリ。他は回転横ナデ。	R-5561	91
	5	〃	DC-11区最下部粗砂層	須恵器	横瓶	頸部は内外面は横ナデ。胴部内面には同心円文の当て具痕が残る。	R-5624	92
	6	〃	DA-12区最下部粗砂層	須恵器	提瓶?	口径から提瓶と考えた。内外面ともに回転横ナデ。	R-5564	91
	7	〃	DA-12区最下部粗砂層	土師器	壺	小型丸底壺。口縁部の内外面は横ナデ。胴部外面ではミガキ、内面肩部には指押痕が残る。	R-5543	90
	8	〃	DA-12区最下部粗砂層	土師器	高坏	外面は荒れて調整不明。内面は刷毛目調整の後にナデ仕上げ。	R-5583	91
	9	〃	DA-12区最下部粗砂層	土師器	高坏	二次的火熱を受け、外面はやや赤変。内外面とも器面は荒れが進み、調整の詳細は不明。器壁の芯部には黒化層が残る。	R-5542	90
	10	〃	DB-12区最下部粗砂層	土師器	高坏	内外面ともに刷毛目調整の後に横ナデ仕上げ。	R-5559	91
	11	〃	DA-12区最下部粗砂層	土師器	高坏	外面は荒れが著しく調整不明。脚部内面には絞り痕が残る。	R-5503	90
	12	〃	DA-12区最下部粗砂層	土師器	甕	内外面ともに横ナデ調整。	R-5577	91
	13	〃	DA-12区最下部粗砂層	土師器	甕	口縁部周辺は横ナデ。胴部外面は不定方向のナデ。内面は乱雑なケズリ。Pl. 21-①	R-5629	92
	14	〃	DD-13区最下部粗砂層	土師器	甑or甕	把手破片。器壁に穴をあけて把手基部を差し込んで接合。内外面ともに横ナデ。器壁の深部には黒色の黒化層が残る。	R-5628	92
	15	〃	DA-12区最下部粗砂層	土師器	高坏	脚部との接合面で破損。内外面ともに横ナデ。上半外面には、繊維質の工具で擦った痕跡が残る。内面には接合痕が残る。	R-5501	92
	16	〃	DA-12区最下部粗砂層	弥生土器	器台	口縁部下端に浅く小さな刻目を施す。胴部中位と上半の2段に円形透孔を焼成前に穿孔。中位は3個、上半には4個を穿孔。	R-5504	90
	17	〃	DA-12区最下部粗砂層	弥生土器	壺	口縁端部を上下に拡張し、端面に2条一組の凹線文を施す。端面はかなり凹凸がある。内面は横ナデ。外面は荒れが著しく、調整は不明。	R-5581	91
	18	〃	DB-12区最下部粗砂層	弥生土器	甕	口縁部周辺は横ナデ。肩部外面はナデ、内面は指頭による整形後ミガキ仕上げ。	R-5556	91
	19	〃	DA-12区最下部粗砂層	弥生土器	脚台付壺	胴部中位に断面M字形の突帯をもつ。外面はミガキ調整。内面は、下半に刷毛目調整し、屈曲部を指先で押さえて上方を横ナデ。	R-5502	90

挿図遺物番号		出土遺構	出土層位・調査区	種別	器種	形状・器面調整・胎土・焼成などの特徴	遺物登録番号	収納コンテナ
Fig. 143	20	*	CZ-11区最下部礫砂層	弥生土器	高坏	口縁部外面に6条の沈線を1条ずつ巡らす。	R-5625	92
	21	*	DA-12区最下部礫砂層	弥生土器	高坏	脚柱の上部に8条、下部に5条以上を一単位とするヘラ描きの細い沈線を巡らし、未貫通の矢羽根透孔を施す。外面はミガキ。内面には絞り痕が残る。	R-5576	91
	22	*	DA-12区最下部礫砂層	弥生土器	甕	外面は二次的火熱を受け赤変。器面は荒れが著しく、調整は不明。内面には淡い黒斑。	R-5544	90
	23	*	DB-12区最下部礫砂層	弥生土器	甕	外底面は指頭痕が残る。外面も指頭によるナデ押さえ。内面は荒れが著しく、調整は不明。器壁の芯部には炭化層が厚く残る。	R-5555	91
Fig. 145	1	SK-19	埋土	土師器	坏	内外面ともに回転横ナデ。	R-5117	83
	2	*	埋土	須恵器	高坏	坏部中位に稜線状の浅い段が巡る。段より下方は回転ヘラケズリ、他は回転横ナデ。	R-5115	83
Fig. 148	1	黒層	CZ-14-17区上部	土師器	坏	外底面は回転糸切り離し。内面および胴部外面は回転横ナデ。	R-6321	147
	2	*	DD-13-14区上部	土師器	坏	内外面ともに回転横ナデ。	R-6353	149
	3	*	DD-12区砂礫試掘トレンチ	黒色土器	椀	黒色土器B類（両黒）。外面は回転横ナデ、内面は荒れ調整不明。	R-6349	149
	4	*	CZ-14-17区	瓦器	椀	外面には型押し痕が残る。内面はナデの後に暗文風のヘラミガキを施す。	R-6315	147
	5	*	DD-12区砂礫試掘トレンチ	瓦器	椀	外面には型押し痕が残る。内面は丁寧なナデ調整。	R-6348	149
	6	*	CY-14-21区中部	瓦質焼	擂鉢	口縁端面に凹線を2条施す。内外面ともに回転横ナデ調整。	R-6310	148
	7	*	DD-13-4区上部	土師器	鍋	外面は胴部上半を刷毛目調整の後に指頭による押さえ。下半は刷毛目調整。内面は刷毛目調整。外面上半には煤が付着。器壁は薄い。	R-6352	149
Fig. 149	1	黒層	CZ・DA・-14・15区最下部	須恵器	坏蓋	天井部外面は回転ヘラケズリ、他は回転横ナデ。口縁端部の外面に櫛状工具で刻目を施す。	R-6324	147
	2	*	DB-14-10区中部	須恵器	坏蓋	赤焼け須恵器。天井部外面は回転ヘラケズリ、他は回転横ナデ。	R-6335	148
	3	*	CY-15-3区上部	須恵器	坏身	外面底は回転ヘラケズリ、他は回転横ナデ。口縁端内面に回転横ナデで浅い段が生じる。	R-6311	148
	4	*	CZ-15-1区中部	須恵器	坏身	外面底は回転ヘラケズリ、他は回転横ナデ。受け部下端に櫛状工具による押さえを施す。外面と口縁端内面には回転横ナデで浅い段が生じる。	R-6326	147
	5	*	DG-16-11区中部	須恵器	坏身	内外面ともに回転横ナデ。	R-6300	147
	6	*	DB-14-3区上部	須恵器	坏身	外底面は回転ヘラケズリが施され、他は回転横ナデ調整。口縁端面は小さく面取りされる。	R-6336	148
	7	*	CZ-15-3区上部	須恵器	坏身	外底面は回転ヘラケズリ、他は回転横ナデ調整。	R-5273	147
	8	*	CZ-14-5区上部	須恵器	坏身	内外面ともに回転横ナデ調整。	R-6320	147
	9	*	CY-15-2区上部	須恵器	坏身	外底面は回転ヘラケズリ、他は回転ナデ調整。	R-6312	148
	10	*	DB-14-25区最下部+DB-15-4区上部	須恵器	坏身	赤焼け須恵器。外底部は荒れて調整不明。他は回転横ナデ。底部にヘラ記号を施す。	R-6338	148
	11	*	DD-12区砂礫試掘トレンチ	須恵器	坏身	外底面は回転ヘラケズリの後にナデ、他は回転横ナデ。底部が部分的に歪む。	R-6346	149
	12	*	CZ-13-25区上部	須恵器	坏身	内外面ともに回転横ナデ調整。	R-6318	147
	13	*	CX-14-15区上部	須恵器	坏身	底部には自然釉や粘土等が付着する。他は回転横ナデ調整。	R-6306	148
	14	*	DD-12区砂礫試掘トレンチ	須恵器	蓋	蓋の摘み部分。内外面ともに回転横ナデ調整。	R-6347	149
	15	*	DG-17区	須恵器	蓋	短頸壺の蓋。内外面ともに回転横ナデ調整。	R-5103	3
	16	*	DE-16-10区中部	須恵器	蓋	短頸壺の蓋。口縁端内面を小さく面取り。天井部外面は回転ヘラケズリ、他は回転横ナデ。	R-6355	149
	17	*	DB-14-10区上部	須恵器	蓋	灰白色で軟質。口縁部は焼き歪んでいる。天井部外面は回転ヘラケズリであるが、部分的に削り残しがある。他は回転横ナデ調整。	R-6334	148
	18	*	DB-14-6区上部	須恵器	蓋	天井部外面は回転ヘラケズリ、他は回転横ナデ調整。口縁端部を外方に捻るように、回転横ナデを施す。	R-6333	148
	19	*	DB-14-20区上部	須恵器	脚付鉢	器体が歪み、器壁の芯部には空隙あり。外面約1/3に回転ヘラケズリ、他は回転横ナデ調整。外面には黒色の自然釉が付着。	R-6337	148
	20	*	DB-15-2区上部	須恵器	長頸壺	内外面ともに回転横ナデ調整。	R-6339	148
	21	*	CX-14-19区上部	須恵器	高坏	焼成軟質。オリーブ色を帯びた灰白色。脚部内面には絞り痕が残る。外面は回転横ナデ。	R-6307	148
	22	*	DC-15区	須恵器	甕or壺	橙色ないしはにぶい黄橙色の赤焼け須恵器。外面には平行タタキの後にナデ調整。内面には同心円文の当て具痕が残る。	R-6341	149
	23	*	DB-12・13層下部	土師器	壺	小型丸底壺。内外面ともにナデ調整。	R-6331	148
	24	*	DG-14-2区上部	弥生土器	甕	外面は、口縁部付近を横刷毛目調整の後に乱雑にナデ、胴部は横ナデ。内面は、口縁部を板状工具で横ナデ、胴部はケズリ調整を施す。	R-6292	147
	25	*	DA-13-19区上部	土師器	甕	内外面ともに横ナデ。口縁屈曲部に板状工具で押さつけた痕跡が残る。	R-6330	149
	26	*	CZ-14-22区下部	土師器	堝	外面は器面が荒れ調整不明であるが、口縁直下に指頭痕がわずかに残る。内面は横ナデ。	R-6323	147
Fig. 150	1	黒層	CX-13-24区上部	弥生土器	壺	口縁端部を上下に拡張して、端面に3条の凹線文を巡らす。頸部には薄い板状工具の角を押捺した列点文を2段に施文。口縁部周辺は横ナデ、外面は刷毛目調整の後にナデ、内面は指頭によるナデ。	R-6303	148
	2	*	CZ-14-11区下部	弥生土器	壺	口縁端部を拡張して3条の波状状の凹線文を施す。口縁部周辺は横ナデ。頸部の外面は刷毛目、内面はナデ。	R-6322	147
	3	*	CZ-15-6区中部	弥生土器	壺	複合口縁壺。内外面ともに横ナデ調整。	R-6327	147
	4	*	DB-12-16区下部	弥生土器	壺	長頸壺の頸部片。内外面ともに横ナデ。とくに、内面下半のナデは強い。	R-6332	148
	5	*	DC-13-13区中部	弥生土器	甕	口縁端面に櫛状工具を押捺して刻目をつける。内外面ともにナデ。外面は二次的火熱を受けて器面が荒れる。口縁部内面には黒斑が生じている。	R-6344	149
	6	*	DB-15-2区下部	弥生土器	甕	口縁端面には、2条の沈線文が僅かに残存。内外面ともに横ナデ。	R-6340	148
	7	*	DG-16-8区中部	弥生土器	甕	口縁部内面、胴部外面は横刷毛目調整の後に粗くナデ。他はナデ調整。	R-6299	147
	8	*	CX-14-5区中部	弥生土器	甕	推定口径は20～28cm。口縁端面に4条の凹線文。内外面ともにナデ。	R-6305	148
	9	*	DG-15-3区中部	弥生土器	鉢	深鉢型の小型品。外面は板状工具で押さえた後に指頭によるナデ仕上げ。内面はかなり乱雑なケズリ調整。外面には不整形の黒斑が生じている。	R-6294	147
	10	*	CY-13-16区下部	弥生土器	高坏	11条の沈線文を巡らし、その上方に未貫通の矢羽根透孔を施す。内面には絞り痕が残り、一部は指頭によるナデを施す。	R-6309	148
	11	*	DG-15-18区上部	弥生土器	ジョッキ形土器	把手部分。指頭によるナデ調整を施す。	R-6297	147
	12	*	DG-14-3区上部	弥生土器	支脚	内外面ともに指頭によるナデ調整。指頭痕が多く残る。	R-6293	147

巻末表３　文京遺跡13次調査出土土製品・石器・石製品類観察表

挿図遺物番号		出土遺構	出土層位・調査区	種別・器種	形状・器面調整・胎土・焼成などの特徴	遺物登録番号	収納コンテナ
Fig. 9	1	SC-5	埋土	打製石鏃	赤色頁岩製。凹基式。未成品。全長3.2cm、最大幅1.4cm、残存重量0.45g。Pl. 23-⑥	R-6418	156
Fig. 12	1	SC-6	埋土	敲石	片側を欠損。両端に敲打痕が集中する。側面には部分的に擦痕を観察できる。残存重量560g。	R-6233	151
Fig. 15	1	SP-375	埋土	敲石	砂岩の円礫の両端に敲打痕が残る。全長5.5cm、最大幅4.3cm、最大厚2.1cm、重量75g。	R-6240	151
Fig. 21	1	SC-8	埋土	打製石鏃	サヌカイト製。凹基式。全長4.1cm、最大幅2.35cm、最大厚0.45cm、重量2.8g。Pl. 23-⑦	R-669	156
	2	〃	埋土	石片	緑色片岩の石片。下辺は剝離面。幅3.95cm、高さ2.5cm、重量4.4g。	R-6275	157
	3	〃	床面	石片	緑色片岩の石片。両面ともに剝離面。幅3cm、厚さ0.4cm、重量3.5g。	R-6277	157
	4	〃	埋土	石片	緑色片岩の石片。片面に自然風化面を残す。全長4.7cm、最大幅3.6cm、厚さ0.5cm、重量9.3g。Pl. 27-②	R-6274	157
	5	〃	埋土	石庖丁？	緑色片岩。両面に研磨痕が残る。厚さ0.7cmであることから石庖丁と考えた。残存幅6.25cm、高さ3.65cm、厚さ0.7cm、重量20.4g。	R-6377	157
	6	〃	SK-125(炉跡) 埋土	石庖丁？	緑色片岩。片面に研磨痕が残る。他の片面は剝離面で、厚さ3.5cmを測る。石庖丁の破片である可能性が高い。幅3.2cm、残存重量3.2g。	R-6373	157
	7	〃	SK-126(炉跡) 埋土	石片	緑色片岩の石片。幅1.85cm、厚さ0.2cm、重量0.4g。	R-6374	157
	8	〃	埋土	敲石	棒状の緑色片岩の円礫。下端部に小さな敲打痕と擦痕が集中。側面にも部分的に擦痕が観察できる。全長11.4cm、径2×2.8cm、重量106g。Pl. 26-⑦	R-6229	150
	9	〃	埋土	敲石	楕円礫の先端に小さな敲打痕と擦痕が集中。上面にも部分的に敲打痕が集中する部分がみられる。全長15.4cm、最大幅5.7cm、最大厚2.9cm、重量255g。Pl. 25-⑦	R-6230	150
	10	〃	埋土	台石	扁平な砂岩の円礫を利用。大小の敲打痕や擦痕がみられる。重量3.7kg。Pl. 25-⑥	R-6268	153
Fig. 29	1	SC-34	埋土+CY-14-23区Ⅱ層中部	石庖丁	背部が丸い弧を描く。杏仁形石庖丁の刃部破片か。片面は剝落。残存重量18.4g。緑色片岩。Pl. 24-⑦	R-6368	157
	2	〃	埋土	柱状片刃石斧	方柱状であるため、柱状片刃石斧の基部の破片と考えた。基部を中心として研磨痕が残る。残存長10.3cm、残存重量202.6g。緑色片岩。Pl. 25-④	R-6366	157
Fig. 39	1	SD-91	埋土	敲石	やや扁平な楕円礫で、端部に敲打痕が集中する。部分的に擦痕も観察できる。全長11.5cm、最大幅8.1cm、最大厚3.2cm、重量355g。	R-6219	150
	2	SD-95	埋土	凹石	半折品。花崗岩のやや扁平な円礫を用いる。中央部に敲打痕が集中する。径8.8cm、厚さ4.1cm、残存重量306g。	R-6244	151
	3	SD-96	埋土	敲石	円柱状の砂岩の円礫の両端に敲打痕が残る。全長9.3cm、径4.7×3.6cm、重量242g。	R-6239	151
	4	SD-97	埋土	敲石	細砂岩円礫の敲石の半折品。端部が敲打で大きく潰れている。残存長9cm、最大幅8.8cm、最大厚5.2cm、残存重量515g。	R-6247	151
Fig. 43	1	SK-31	埋土	石庖丁	両刃の直線刃半月形石庖丁。半折品で、刃辺部も折れている。最大幅3.85cm、残存重量37.8g。緑色片岩製。Pl. 24-③	R-6367	157
	2	〃	遺構検出時	石片	緑色片岩の石片。両面ともに剝離面。全長4.45cm、最大幅1.75cm、最大厚0.4cm、重量3.5g。	R-6278	157
Fig. 44		SK-31	埋土	砥石	断面台形の石英粗面岩製の砥石で端部が残片。幅10.1cm、厚さ6cm、残存重量884g。	R-6234	151
Fig. 47	1	SK-50	埋土上層	砥石	扁平な緑色片岩の円礫の両端に擦痕が残る。全長6.4cm、幅2.4cm、厚さ0.8cm、重量25g。	R-6227	150
	2	〃	埋土下部	石庖丁？	緑色片岩。石庖丁であれば、未成品が破損したものと考えられる。残存長3cm、最大厚0.5cm、残存重量10g。	R-6226	152
	3	SK-80	埋土	砥石	棒状の花崗岩礫の両端の擦痕が観察できる。全長8.4cm、径1.9×2.5cm、重量60g。Pl. 26-⑥	R-6238	151
Fig. 51	1	SX-48	DG-18-16区Ⅲ層	打製石鏃	サヌカイト。基部を欠損。残存長2.35cm、幅1cm、厚さ0.4cm、残存重量0.8g。Pl. 23-⑪	R-46	156
	2	〃	DG-18-11区Ⅲ層中部	石片	緑色片岩の石片。全長9.2cm、幅4.9cm、最大厚0.8cm、重量35.9g。	R-6395	157
	3	〃	DG-19-7区Ⅲ層上部	敲石	砂岩の亜円礫の端部に敲打痕や擦痕が観察できる。全長6cm、幅3.2cm、厚さ2.2cm、重量75g。Pl. 26-②	R-6260	152
	4	SX-73	DG-16区Ⅲ層	凹石	扁平な砂岩礫を利用。両端を欠損。上面に敲打痕が多く残る。幅10.4cm、厚さ4.4cm、残存重量520g。Pl. 25-⑤	R-6252	152
Fig. 57	1	SC-10	埋土	敲石	砂岩の扁平な円礫の一端に敲打痕が集中して面ができている。径6.4×8cm、厚さ4.8cm、重量352g。	R-6235	151
Fig. 66	1	SC-15	北半部床面上	石庖丁	緑色片岩。刃部周辺の破片で、片面が剝離破損。外湾刃半月形もしくは杏仁形。残存重量0.9g。	R-6371	157
Fig. 70	1	SC-16	埋土	敲石	径9.6×5cm、厚さ3.5cmの円礫の一端に細かな敲打痕と擦痕が集中して帯状の小さな面ができている。重量106g。	R-6228	150
Fig. 74	1	SC-17	床面上	打製石鏃	サヌカイトの凹基式石鏃。先端が折れている。残存長2.15cm、幅1.8cm、厚さ0.4cm、残存重量1.5g。Pl. 23-⑨	R-3750	157
	2	〃	埋土	敲石	おむすび形の砂岩の円礫の一端に敲打痕が残る。幅7.8cm、最大厚さ4.3cm、重量220g。	R-6232	150
	3	〃	埋土	敲石	自然風化面を残す方柱状条の石英脈の一端の敲打痕が残る。全長8cm、径3.5×3.8cm、重量142.9g。Pl. 26-③	R-6365	157
	4	〃	埋土	台石	扁平な砂岩を利用。一部欠損。擦痕が残る。残存重量870g。	R-6231	150
	5	〃	埋土	台石	扁平な花崗岩の円礫を利用。敲打痕や擦痕が残る。重量3.5kg。	R-6269	153
Fig. 80	1	SC-21	埋土	砥石	全長9cm、径1.7×3.2cmのやや扁平で棒状の円礫の両端に擦痕が残る。重量56g。	R-6237	151
Fig. 86	1	SC-25	埋土	石斧？	扁平な緑色片岩片で、一面は研磨され、片面は剝離し破損。扁平片刃石斧の基部の破片と考えた。残存厚さ0.8cm、残存重量17.4g。	R-6369	157
	2	〃	埋土	石器素材？	縦方向に半截された緑色片岩。横断面は蒲鉾形。扁平片刃石斧の素材か？　全長18.1cm、幅5.1cm、厚さ3cm、重量444.3g。Pl. 27-④	R-6276	157
	3	〃	埋土	敲石	砂岩の円礫の一端と上面に敲打痕と擦痕が残る。径6.6×6.7cm、厚さ5cm、重量382g。	R-6225	150
Fig. 93	1	SC-28	埋土	砥石	石英粗面岩の砥石の欠損品。使用面がわずかに凹む。残存長10.3cm、幅6.5cm、厚さ3.6cm、残存重量355g。	R-6236	151
	2	SP-264	埋土	砥石	円柱状の砂岩を利用。一端を欠損。擦痕が残る面は平坦。残存長6.5cm、径3.5×4cm、残存重量165g。	R-6216	151
	3	SC-28	埋土	台石	扁平な花崗岩の円礫を利用。ほぼ平坦な面の3ヶ所に敲打痕が集中する。重量3.5kg。	R-6266	154
Fig. 97	1	SC-30	床面直上	石庖丁	片刃の直線刃の石庖丁破片。緑色片岩。残存長4.85cm、厚さ0.5cm、残存重量13g。Pl. 24-⑥	R-6372	157
	2	〃	埋土	石片	緑色片岩の石片。片面の上半部が部分的に磨かれている。石器の未成品か？残存長9.2cm、幅9.2cm、厚さ1.2cm、残存重量59.4g。	R-6376	157
Fig. 103	1	SC-37	埋土上部	台石	扁平な砂岩の円礫の上面の中央がわずかに窪み、敲打痕や擦痕が集中する。一部を欠損。重量13.9kg。	R-6267	153
Fig. 106	1	SP-419	埋土	打製石鏃	サヌカイト製の凹基式石鏃。先端部は潰れている。残存長2.9cm、幅2cm、重量2.4g。Pl. 23-⑨	R-1890	156
	2	SB-44	SP-458掘り形埋土	砥石	全長6.6cm、径2.8×3.2cmの細い棒状の砂岩円礫を利用。一部に面ができ擦痕が残る。重量90g。	R-6241	151
	3	SB-58	SP-142埋土	凹石	扁平な拳大の砂岩円礫で、上面中央に敲打痕が集中する。また、端部にも敲打痕が残る。敲石に再利用。半折品。厚さ4.5cm、残存重量410g。	R-6245	151

挿図遺物番号		出土遺構	出土層位・調査区	種別・器種	形状・調整調数・胎土・焼成などの特徴	遺物登録番号	収納コンテナ
Fig. 121	1	SK-36	埋土上～中部	石片	緑色片岩の石片。両面ともに、剥離したままの面がのこる。全長6.9cm、幅3.45cm、厚さ0.45cm、重量15.9g。	R-6279	157
	2	〃	埋土上～中部	石片	サヌカイト石片。側辺には自然風化面が残る。全長3.8cm、幅1.8cm、厚さ3mm、重量2.3g。	R-6413	156
	3	SK-36上部	II層部分	台石	扁平な砂岩の円礫を利用。重量12.5kg。	R-6273	153
Fig. 127	1	SP-128	埋土	石庖丁	欠損品。直線刃、偏刃刃。緑色片岩。残存長5.4cm、厚さ4.5mm、残存重量10.6gを測る。	R-6364	157
	2	SP-579	埋土	石片	緑色片岩。刃部周辺の破片で、片面が剥離残欠。外湾刃半月形もしくは杏仁形。残存重量0.9g。片面は剥離面、他は自然風化面。全長4.9cm、幅4.6cm、厚さ7.5mm、重量37.8g。PL 27-⑥	R-6381	157
	3	〃	埋土	石庖丁?	片面に研磨痕がわずかながら観察でき、石庖丁の可能性を考えた。緑色片岩。残存長4.3cm、残存厚4mm、残存重量10.9g。	R-6375	157
	4	SP-431	上部流入土①層	石片	サヌカイトの石片。重量5.7g。	R-5964	103
	5	SP-531	埋土	敲石	全長5.6cm、幅4.8cm、厚さ3.1cm、重量115gの扁平な花崗岩の円礫の側部に敲打痕が集中。	R-6242	151
	6	SP-519	埋土	敲石	全長8.3cm、幅8.5cm、厚さ4.3cm、重量380gの花崗岩円礫を利用。敲打痕や擦痕が残る。	R-6221	150
	7	SP-128	埋土	敲石	全長11cm、幅9.2cm、厚さ4.7cm、重量838gの扁平な円礫の上面と側部に敲打痕や擦痕が残る。	R-6220	150
	8	SP-543	埋土	敲石	欠損品。側面および上面に敲打痕や擦痕が残る。残存長9.2cm、厚さ4cm、残存重量200gの扁平な砂岩円礫を利用。	R-6243	151
Fig. 130	1	SP-486	北半部埋土	敲石	全長9.3cm、幅9.2cm、厚さ7cm、重量915gの拳大の花崗岩円礫の一端に敲打痕が残る。	R-6222	150
	2	SP-392	埋土	台石	小型であるが台石とした。全長16cm、幅14.8cm、厚さ5cm、重量1.896kgの扁平な砂岩円礫を利用。上面の平坦部中央に敲打痕が集中する。	R-6224	150
Fig. 140	1	SD-3	最下部砂礫層		緑色片岩の板石。石器素材か? 全長17.3cm、幅8.2cm、厚さ2cm、重量455g。PL 27-⑤	R-6223	150
Fig. 146	1	SK-19	埋土	台石	欠損品。砂岩円礫を利用。上面の各所に擦痕および小さな敲打痕が残る。残存重量3.7kg。	R-6271	154
Fig. 151	1	II層	DG-17-6区中部	石庖丁	偏両刃の杏仁形で、両側を打ち欠いて抉りを入れる。刃部の一部と両面に線状痕が残る。全長11.1cm、幅4.55cm、厚さ8.5cm、重量101.1g。緑色片岩。PL 24-②	R-6360	157
	2	〃	DG-17-6区	石庖丁	両端を欠損。穿孔が残存すること、厚さが5.5mmであることから、石庖丁の欠損品と考えた。残存する全長4.6cm、幅4.5cm、重量12.4g。緑色片岩。PL 24-④	R-6357	157
	3	〃	DG-17-6区下部	敲石	全長5cm、幅4.3cm、厚さ3cm、重量50gの砂岩の円礫の一端に敲打痕が集中する。PL 26-①	R-6259	152
	4	〃	DG-17-6区中部	石片	緑色片岩の石片。片面は自然風化面。全長4.2cm、幅2.6cm、厚さ4mm、重量5.2g。	R-6387	157
	5	〃	DG-17-6区中部	石片	緑色片岩の石片。片面は自然風化面。全長4.7cm、幅2.55cm、厚さ4.5mm、重量7g。	R-6388	157
	6	〃	DG-17-6区中部	石片	緑色片岩の石片。片面に部分的に自然風化面が残る。全長4.4cm、幅3.1cm、厚さ4mm、重量7g。	R-6389	157
	7	〃	DG-17-6区中部	石片	緑色片岩の石片。片面は自然風化面。全長4.75cm、幅2.8cm、厚さ4mm、重量6.9g。PL 28-①	R-6392	157
	8	〃	DG-17-6区	石片	緑色片岩の石片。片面は自然風化面。全長4.8cm、幅3.3cm、厚さ7.7mm、重量9.5g。PL 28-②	R-6383	157
	9	〃	DG-17-6区中部	石片	緑色片岩の石片。片面は自然風化面。全長6.1cm、幅3cm、厚さ1.1cm、重量20.6g。PL 28-③	R-6390	157
	10	〃	DG-17-6区	石片	緑色片岩の石片。下辺部は折断面。全長10cm、幅5.05cm、最大厚1cm、重量55.8g。PL 28-④	R-6382	157
Fig. 152	1	II層	DG-15-17区上部	土製品	土錘。PL 23-②	R-6202	158
	2	〃	DD-13-14区中部	円盤	緑色片岩製。片面が剥離した破損品。側面は研磨によって小さな面が連続する。剥離面側には穿孔痕がわずかに残る。直径3.7cm、残存重量7.7g。PL 25-①	R-6362	157
	3	〃	DF-14区最上面	石製投弾?	形状から投弾と考えた。全長4.1cm、径2.85×3.15cm。	R-6201	158
	4	〃	DD-14-13区	砥石	全長4.2cm、幅2.2cm、厚さ4mm、重量8gの扁平な緑色片岩の両縁に擦痕が残る。	R-6257	152
	5	〃	DG-12-18区中部	磨製石鏃	基部の一部を欠損。両面には鉄鏃の擦条痕が残る。緑色片岩製。全長3.05cm、幅1.3cm、厚さ2.5mm、残存重量1.3g。PL 23-①	R-1	156
	6	〃	CZ-14-18区上部	打製石鏃	サヌカイト製。凹基式。全長3cm、幅1.7cm、重量1.9g。PL 23-⑧	R-3748	156
	7	〃	DG-14-2区上部	打製石鏃	サヌカイト製。凸基式。先端部が折れ欠損。残存長2.95cm、幅1.4cm、厚さ3.5mm、残存重量1.9g。PL 23-⑤	R-3868	156
	8	〃	CZ-14-25区上部	石庖丁	半月形石庖丁の背部破片。小型品である。残存長4.2cm、厚さ9mm、残存重量7g。緑色片岩。PL 24-⑧	R-6350	157
	9	〃	DG-12-23区上部	石庖丁	両刃の直線刃石庖丁の破損品。残存長3.3cm、厚さ6.5mm、残存重量10.5g。緑色片岩。	R-6378	157
	10	〃	DG-10-22区最下部	石庖丁	研ぎ直しで刃部が波打つが、基本形は直線刃半月形。片刃。両面に研磨の擦条痕、背面には敲打痕が残る。全長15.8cm、幅4.6cm、厚さ6.5mm、重量75.1g。緑色片岩。PL 24-①	R-6358	157
	11	〃	DA-14-11区上部	石庖丁	刃部付近の欠損品。偏刃刃の外湾刃石庖丁の欠損品。残存の全長6.2cm、幅4cm、厚さ7.5mm、残存重量24.1g。PL 24-③	R-6409	156
Fig. 153	1	II層	DC-12-25区 II-2・II層界部	石斧	片面が剥離した破損品。幅6.15cm、残存厚7.5mmであることから、扁平片刃石斧の基部と考えた。研磨痕、側縁に敲打痕が残る。緑色片岩。PL 25-②	R-6363	157
	2	〃	DB-14-7区中部	不明磨製石器	大部分が剥離し欠損。残存した面には研磨痕が残り、端部に小孔が穿孔されている。緑色片岩。残存重量33.1g。PL 25-③	R-6361	157
	3	〃	DC-15-10区下部	スクレイパー	全長2.55cm、幅3.5cm、最大厚5.5mm、重量6.1g。サヌカイト。	R-6412	156
	4	〃	DB-14-1区下部	スクレイパー	上辺と両側を折断し、下片に細密剥離を施して刃部をつくる。全長2.9cm、幅4cm、厚さ6.5mm、重量10.4g。サヌカイト。	R-6410	156
	5	〃	CZ-13-22区下部	スクレイパー	台形の下辺部に細密剥離を施し直線的な刃部をつくる。全長8.8cm、幅9.05cm、厚さ13.5mm、重量123.2g。サヌカイト。PL 27-②	R-6411	156
	6	〃	DF-18-20区中部	?	全面剥離面。全長6.5cm、幅5.2cm、最大厚17mm、重量64.2g。サヌカイト。PL 27-③	R-6414	156
Fig. 154	1	II層	CY-13-17区中部	石片	サヌカイトの石片。片面は自然面。全長15.7cm、幅5.8cm、最大厚1.6cm、重量134.5g。PL 27-①	R-6415	156
	2	〃	DG-17-12区最下部	石片	サヌカイトの石片。片面と上辺は自然風化面。重量8g。	R-6258	152
	3	〃	CZ-14-3区下部	石片	サヌカイトの石片。下辺部は折断面。重量5.4g。	R-6417	156
	4	〃	DD-14-17区中部	石片	大部分が欠損するが、緩やかな曲面をもつ。残存重量3.6g。緑色片岩。	R-6403	156
	5	〃	DG-17-7区中部	石片	全長4.8cm、厚さ4.5mm、重量7.3gの緑色片岩片。	R-6386	157
	6	〃	DC-13-4区中部	石片	両面とも自然風化面。全長3.8cm、厚さ6.5mm、重量6.1gの緑色片岩片。	R-6404	156
	7	〃	DB-15-3区最下部	石片	両面とも自然風化面。全長4.56cm、厚さ6.5mm、重量10.3gの緑色片岩片。	R-6399	157
Fig. 155	1	II層	DB-14-1区上部	砥石	破損品。上面および側面を利用。石英粗面岩。残存長10cm、幅5.2cm、厚さ4.3cm、重量252g。	R-6248	152
	2	〃	DA-13-6区下部	砥石	全長9.6cm、径1.8×2.5cm、重量61gの棒状の砂岩の両端に擦痕が残る。	R-6261	152
	3	〃	DG-10-16区中部	砥石	全長4.2cm、径2.7×3.7cm、重量59gの砂岩円礫の両端に擦痕が残る。	R-6262	152
	4	〃	DG-15-8区上部	敲石	全長6.4cm、幅4.6cm、厚さ3.9cm、重量74gの砂岩円礫の縁部と上面に敲打痕が残る。	R-6263	152
	5	〃	CX-13区	敲石	L字形の砂岩礫の下辺部に敲打痕が集中する。全長19.8cm、厚さ3.7cm、重量496gを測る。PL 26-④	R-6251	152

巻末表４　文京遺跡13次調査出土金属器・鉄滓類観察表

挿図遺物番号		出土遺構	出土層位・調査区	種　別	形状・器面調整・胎土・焼成などの特徴	遺物登録番号	収納コンテナ
Fig. 19	3	SC-8	SK-126埋土	鉄鏃？	茎部先端と切先部を欠損。残存長3.3cm、芳幅1cm、厚さ1.2mm、茎部幅3.6mm、厚1.7mm、残存重量0.5g。Pl. 23-3	R-690	158
Fig. 89	1	SC-18	埋土	鉄刀子	茎部腐片。残存長7.2cm。錆化が著しく、茎部は膨らみ、芯部分には空間が生じている。	R-445	158
	2	SC-18上部	DB-15-3区並層上部	鉄滓	残片。重量11.6g。	R-3733	158
	3	SC-15	埋土	不明鉄器	径6mmの細い棒状の鉄器片。錆化が著しく、茎部は膨らみ、芯部分に空間が生じている。	R-471	158
	4	SC-25上部	並層下部	鉄滓	残片。重量28.6g。	R-1864	158
	5	SC-33	埋土	鉄鏃？	径4mmの細い棒状で、先端がやや尖り、鉄鏃の茎部と考えた。残存長2.1cmを測る。	R-3728	158
	6	SC-30	西半部埋土下部	鉄滓	残片。重量12.5g。	R-3755	158
	7	SP-497	埋土	鉄滓	残片。重量34.3g。	R-1858	158
	8	SP-444	埋土	鉄滓	残片。重量6.7g。	R-1763	158
	9	SC-25	埋土	鉄刀子	残存長3.2cm、幅1.6cm、錆化が進み膨らんでいるが、本来の厚さは3.5mm前後。大きさから刀子の茎部片と考えた。	R-910	158
	10	〃	埋土	鉄滓	塊形滓の残片。下面に付着した砂礫が溶融している。残存重量7.9g。	R-571	158
	11	SX-66	焼土中	鉄滓	塊形滓。復元径16cm前後、残存重量162.8g。	R-3732	158
Fig. 139	1	SD-3	DD-12-1区埋土	青銅器・鉄器	厚2.3cm、厚さ3.5～4mmの板状の青銅片に、径3.5の棒状鉄片が接着。	R-1867	158
	2	〃	DA-12区錆下部粗砂層	鉄滓	塊形滓。重量119.6g。	R-1856	158
	3	〃	DD-11区埋土	鉄滓	塊形滓。復元径11cm前後、重量132.2g。	R-1868	158
Fig. 156	1	並層	DG-16-22区下部	鉄ヤリガンナ？	厚1cm、厚さ2mmで、横面幅がわずかに湾曲するので、ヤリガンナと考えた。	R-3468	158
	2	〃	DG-16-6区中部	鉄器	径5.5×5.6mmの細い棒状の鉄器。	R-1853	158
	3	〃	CX-14-19・20区	鉄器	角がえい三角形の小さな板状の鉄器。錆で厚くなっているが、厚さ3mmほどと考えられる。	R-2023	158
	4	〃	CZ-15-10区上層	鉄滓	鉄滓の残片。重量11.9g。	R-2395	158
	5	〃	DA-14-16区上部	鉄滓	鉄滓の残片。重量16.6g。	R-3727	158
	6	〃	DC-14-10区上部	鉄滓	鉄滓の残片。重量29.1g。	R-3735	158
	7	〃	DB-14-9区上部	鉄滓	鉄滓の残片。重量23.1g。	R-3729	158
	8	〃	DB-14-24区上部	鉄滓	鉄滓の残片。重量29.1g。	R-3732	158
	9	〃	CZ-14-22区上部	鉄滓	推定径7cm以上の塊形滓の残片。重量91.4g。	R-1863	158
	10	〃	DB-14-9区上部	鉄滓	推定径14cm前後の塊形滓の残片。重量93.7g。	R-1865	158